EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 03023 2995

UNIVERSITY OF TORONTO
LIBRARY

WILLIAM H. DONNER
COLLECTION

purchased from
a gift by

THE DONNER CANADIAN
FOUNDATION

倭點法華經　下　　日本古典全集之內

編纂者　正宗敦夫

發行者　東京市豐島區長崎東町三丁目一六一
合資會社　日本古典全集刊行會
代表社員　長嶋東一

印刷者　東京市豐島區長崎東町三丁目一五八
不二製版印刷所　高瀨清吉

發行所　東京市豐島區長崎東町三丁目一六一
合資會社　日本古典全集刊行會
振替東京七三〇三二

昭和九年十一月十八日印刷
昭和九年十一月廿五日發行

【非賣品】

倭點法華經の奥に

法華經が日本の古典でない事は申すまでも無いが、我が日本の國に影響せる事は一通りの日本古典以上である事も周知の事である。私は我が國で實際に使用せられてゐた漢字の音訓なぞを近比研究してみたいと考へてゐる關係上、倭點の漢籍、佛典を見たいと思ふ心が強く動いてゐる。法華經の倭點物がほしい。其も成るたけ古いものがほしいと思つてゐた。其んな心持でゐた處が江州長濱の八幡宮に心空の倭點本が現存刊本の最古らしいと云ふ事を知つた(後に其より古い本の現存せる事を聞いたが)其で其本を本全集に收めたらば、人も我も大に益を得るがと云ふ心を起して交渉を始めたのである。先づ岡田希雄君が其の宮の宮司であつて、右法華經が一度他へ移轉してゐたのを求め出でてもとの宮へ奉納した笹原泉氏と知合である處から、同君に交渉の橋渡しを願つて、其から直接に笹原氏と交渉をした。笹原氏は學界の盟事として其の寫眞刊行を嬉ばれ、色々と便宜を計つてくださつた。本會が斯かる珍籍を刊行し得たのは同氏の厚意があつたからである。其事は本書の刊本に書き添へて後世に傳へておく必要があると信ずる。珍籍、秘本と云ふものを我々が學界に提供せんとするに當りて困難が少なくない。費用も足らねば、便宜も得がたい。笹原氏は我々の立場をよく了解してくださつて出來得る限りの便宜を與へたまうた事を深謝する。又岡田君が多忙の中を解題を書いてくださつた事も有難い。君が精密なる解題は會員諸君と共に我々も此書の知識を先づ十分に此解題によつ

仁和寺所藏の法華經音訓異版に就て（密宗學報第二一八號（昭和六年十二月號））

高野山の寶龜院本法華經音訓に就いて（龍谷學報第三〇七號（昭和八年十一月發行））

の如き拙稿を參照せられたい。因みに其れら四篇に於いて矛盾するところも多いが、其れらは、後で執筆したものが、前言を訂正して居るのである事を念のために申し添へて置く。

（昭和九年九月十日稿、十一月四日書誌學の記事により加筆す）

筆と見て可い。なほ朱筆である事を積極的に斷る必要も無いものは、斷らない。一四オの第三行「カサタナハマ」の所に小さくラとあるは、後人が墨筆にて加へたもの。一七オ三行は「屬音」の下が、底本でも空白の如くに成つて居るが、實は、文字が存し乍らも、墨附が惡くて不明瞭に成つたのであり、かすか乍らも、文字の存する事は判り、二字までは讀める。其の消えた文字は、天文十五年本で補へば「……上ノ他字ノ音ニ屬而音ノ成スルヤウ他音屬自聲ノ者……」と續くのである。)

以上述べたところ、解說としては徒らに冗長と成つたが、其の內容は主として書誌に關する事であり、國語學的考察は全く省畧したのである。蓋し、紙數を成る可く少くせなければならないのだが、國語學的考察ならば、何人も其の心さへあれば出來る事であるのに、書誌的考察は普通は困難であるが爲めに特に書誌的考察を主にしたのであり、此の種の解說としては、書誌的解說に偏しても、失當であるとは云へないと信じるからである。諒恕せられたい。なほ右三書の書誌的說明や、簡單な國語學的考察については、

至德三年版心空法華經音訓解說影本刊行會本に附す、昭和六年五月刊

至德三年版心空法華經音訓續攷龍谷大學論叢第三〇〇號（昭和六年十二月號）

其の音圖は刊本と同じ上卷末に

永和四戊午正月十一日　初藤原光能　後沙門心空書

とあるが、「初」「後」の事が不明なので、此の「初」とは「以前の義にて、出家前は云々といひ、出家後は云々の意にてもあらんか」と云つて居られ、尤も此の推定は、大矢博士の五十音圖纂に見えて居る事である　此の寫本については、刊本に貞治四年とあるので、其れより十三年後の永和四年に後人が書寫したのだらうかと云つて居られる。とにかく此の「初」「後」は判らない書き方である。

音研究の種本なる谷森種松の五十

さて右の如くに、法華經音義は寫本も存する事だから、出來るならば、永和四年本の如きものの飜刻が望ましいのだが、實行の出來ない事だから、慶安の刊本が採用せられたのである。（底本は朱筆が加へてあるから、其れが混同せられないやうに注意する。一オ・二オ、五オ、八オ――十二オの上方左隅にあるアカ等の假字、一オの朱引や△、二・三行の●、一三ウ、一四オの○、一四ウ以下二五オに至るまでの朱引、、●○△へは皆朱筆。本來から、四聲點の施してあるのは、一オの五行から一三ウの第一行までと、一五ウ六行の德紅の二字、一八オの四聲六聲圖の點譜とである。是れ以外のものは凡て失

に續くものであるに相異ない。さて天文本には、斯くの如くに錯簡但し天文本が寫されるがあるこ信ぜられる以上は、右の心空豪圓云々の八字は、本文に續くもので無くて、貞治云々の行に續くものにして、心空豪圓の二人が、此の音義を貞治乙巳の年に撰定したのである、こ云ふ事に解しては何うであらうか。自分は然う解釋するのが穩當であるやうに考へられる。こにかく注意すべき八字である。

天文本の他に永正九年本がある。永正九年本は東北大學所藏本にて

永正九年壬申二月日大嶺庄上領孝專庵玉室不嫌惡筆處守庚寫云

こある上巻のみの本だが、

貞治四年乙巳正月十八日於花洛東山元應國清寺記之比丘心空

こ見えて居る。此の本は、狩野氏舊藏書假目錄により、山田博士に高敎を乞うたのである刊本には上春下澣こあるのに、此の本には、十八日こあるのはいぶかしい。次ぎに又、高野山より出た尊舉書寫の小型本がありて、やはり上巻のみである（昭和四年八月下旬の頃。橋本進吉博士に見せて頂いた）。又大矢博士の音圖及手習詞歌考の五十音圖證本第廿三圖所引の故田中勘兵氏藏本は一筆書寫の上下二冊本だが

天文十五丙午季南呂吉日　生歳七三

江州飯道寺住權大僧都法印定宗書之

とある江州甲賀郡飯道山飯道寺（イヒミチハンダウジ）とも云の定宗が、天文十五年八月に書寫した三十二紙の本であるが定宗書寫の其の本であにう、定宗本の轉寫本であるとは思はれず刊本の上巻に當り、三内類聚以外の所は、本文にかなりの相異がある。音圖の如きは、梵字にてアカサタナハマヤラワの順である假字は施さず「貞治乙巳年定也」とあるが、注意すべき事には、本書の連聲を說くところは、大體は刊本一六ウの第三行から一七ウ第二行までに相當するものが、何故か中途で切斷せられ、後半が悉曇の五十音圖の次ぎに位し、其れより五頁の隔りがあつて、前半の文がつゞき、刊本一六ウ五行の「四種連聲トイハ」に當るところより

……四種連聲法花經　依義聲ノ替文字心空豪圓兩人撰也

貞治乙巳年定也

ゝ成つて居るのであつて、こゝの所は、自分には意味をなさないものゝ如くに見える。錯簡がありて、此の「四種連聲」以下は七頁前の第一行（刊本では一六ウ七の「一」第十五章……）

よりて分類し、其れに音義、又は音のみを記したものであつたらしい。法華經の音義としては、二十八品順のもの、音により分類したもの、篇旁により分類したもの、の三種類が必要であるから心空も此の三種を作つたのであらう。三内類聚の所は五十音分類であるが、其れがアカヤサタラナハマワの順と成つて居るのは、十四丁の圖で見れば判る通り、喉・舌・唇三内の順に從うたからである。音の標記について云へば、大部分は正しいがハム・ヘム・ホム・ミム・シュムだけはムで書き他の撥音はンで書いて居るのは、全く無意味である（ンで書いてある物の中にもM尾のものもあるし、ムで書いてある中にもN尾のものもある）。狡ケフ郁イフの如きは、入聲P尾同樣にフで書く必要は無い。納がナフ・ノフの兩樣に記してあるが、是れでは開合の誤りが存する譯である（納はナフが正しい）。立心篇に沓を書いた字がタウとあるが、此の字は康熙字典にも見えないから、判りかねるが、沓を音符とすると、タフであるべきである。下卷末の「讀經用心事」の條は、讀經の功德を述べたのであつて、心空の敬虔な態度を察するに足る文句である。

さて以上は、刊本について述べたのだが、本書は、寫本も存する。卽ち先づ天文十五年本は

心空の法華經研究の業績として殘つて居るもの、最初のものは、「法華經音義」二卷である。數種の傳本があるやうだが、古典全集にて飜刻する本は刊記が

慶安二稔季春吉日
中野小左衞門開板

とある本にて美濃版縦八寸七分、横五寸四分、栗皮色の澁表紙には「法華音義」（經字は無し）と云ふ題箋があるが、版心も「法華音義」である。内題は上下兩卷の首尾何れも「法華經音義」である。上卷十八丁、下卷は通し丁附にて二十六丁で終つて居る。上卷は、貞治乙巳四年正月下旬であり、下卷は五年後の應安庚戌三年に成つたものらしい（大旨云々は其の意味を知らない。大晉は七月、大呂は十二月である）。上卷のはじめに書いてある通りに經の單字一千七百八十有餘を喉舌唇の三内によりて類聚した「三内類聚」と、「篇目類聚」の二部分より成るものだが、下卷卷頭には「第二篇目類聚畧之」とある如くに、篇目類聚は省畧――上卷々頭の言もある事だから、心空が省略したとは思はれない、後の轉寫者が除いたのであらう。開版者ではあるまい――せられて居るのである。按ふに、單字を、其の篇旁の目、卽ち「篇目」に

二九ウ六　陋　下のイヤシ以外は墨筆書
三四ウ一　幽　ハルカナリ
三六ウ三　接　ツ、ク
三八オ二　戸　ツク
三八ウ六　健　ヘ（仁本無し、寶本あり）
四四ウ一　訟　コ（仁本あり、スコヤカナリとも訓むと云ふ事なり、寶本ニに誤る）
四五ウ一　梶　ウタウ　アラソウ
四七オ六　最後の字は艸冠に補を書ける字　ト、ム
四八ウ一　の行末は法身舍利
四八ウ三　行末は住持心空謹誌

三三オ六　殺　字上のシは墨筆書には非ず
三五オ四　闍　サトナカノカト
三七オ一　咄哉　二字墨筆書
三八ウ一　腦　ナツキ
四三ウ一　寒　サムシ　コ、ウ
四五オ六　枳　カラタチ
四五ウ一ノ四　註文に「異本」とあり
四八オ一〇　最終の字は離
四八ウ二　行末は至德丙寅

八ウ　貌　カタチ
一　一〇　略　サカイ
ウ一　一三　虛　ムナシ
ウ一　一三　由　ナヲ
ウ三　一三　祇　ツチノカミ
一四　マサニ
オ六　一六　適　ハシメ
オ二　一七　乃　イマシ
オ六　ナヲ
二〇　指　ユヒ
ウ二　サス　ユヒサス
二二ウ　財　イノ（是れは仁本寶本に
五　無し、墨筆書なるべし）
二七　欄外の字は無論墨筆書（版面ニ出ズ）
オ
二八　累　ワツライ
ウ六

九オ　偈　訛云偈陀
六　一二ウ
五ノ二　笑字の音ショウは墨筆なり
同　著　ツク
シルス
一三　鳴　イナヽク
ウ六
一五　頗　左下方の●印仁本無し
オ二　寶本○に作る
一六　加　シノク
ウ一
一九　泥　ヒチリコ
ウ六
二一　差　サイ　サ（左旁書）
オ六　イユル　サス
二五　頓　マフラス
オ五
二八　折　サタム
オ二
二九　凡　ヲヨソ
オ二　ミナ

により、摺りが悪くなつたのであるかも知れぬ。手擦の所もあるから、全集本として印刷せられた場合には一層不明個所も多くなるであらう。それで其れらの事を、他の仁和寺本や寶龜院本によりて補ふと、左の如くである。不明のものゝみを擧げる。自分としては同版の秋葉本で校合したかつたのであつたが、其れが出來なかつたから異版によりて比較したのである

一ウ　華　ハナ　ナカヨクサク
一三ウ　薄　コ、ニ
三五ウ　知　レル（仁本も此の通り、寶本シル）
四二ウ　爲　タスク
五六オ　息　イコウ
五六ウ　天　ヒタイキサム
七六オ　而　シカモ　ナンチ
七六ウ　小　セムル

同　經　タヒル　イトナム
同　難　トタ、寶本トリ（トガ咎の誤りにや）
四五ノ三オ　同字の左下方のものは仁・寶兩本に無し
五一オ　岸　ソハタツ（仁本による）
五三ウ　滿　マイ
六一ウ　爲　ヲワル　カケタリ
七一ウ　種　クサ　タネ
八六オ　道　ノリ　イウ　ヲモワク

心空上人の三業書に就いて

さて斯くの如くに、三種の飜刻本が現存して居るのだが、何れも、岩崎本と殆んど同じ版式にして、版種に興味を持つて居る人でも、兩者を並べて比較せなければ異版である事の見分け難い程度のものではあるが、明らかに異版である。しかして、岩崎本に比べると其れ〴〵本文上に小異がありて、四者の關係は、岩崎本より、仁和寺本、春日氏本、寶龜院本の三本が兄弟關係で出たものにて

岩崎文庫本
- 仁和寺心蓮院本（岩崎本に比し誤刻多し）
- 春日氏古版木本（岩崎本に比し、本文上の相異あり）
- 高野山寶龜院本（岩崎本に比し誤刻多し）

と云ふ關係にあるらしいのであり、國語學の資料として此の法華經音訓を見る場合には、やはり、初版と覺しい岩崎文庫本を採らねばならぬ事を知り、古書の版種研究の輕視すべからざる所以を痛感するのである。さて此の岩崎文庫本は昭和六年五月に京都の貴重圖書影本刊行會から玻璃版で復製せられた。古典全集本は、其の影本刊行會本により飜刻せられたものであるが、岩崎本は、版も惡かつたと見えて摺りが佳良で無く或ひは版は佳良であつたのだが、版木の磨損

えて、少くとも三種の飜刻本がある。一つは、昭和六年秋の仁和寺の大藏會の時に發見せられた仁和寺心蓮院の舊藏本（仁和寺瓶藏）であり、普通の綴本にて（其の大きさは、其の紹介文に書いておいたが、自分が校正する事を許されず、しかも一尺九寸と云ふ風な誤植があるために、判らない事になつてしまつた。岩崎本と大體同じやうな大きさであつた）版木は四頁が一面にて、版木一枚は二面であるから、全部で十二枚の版木であつたらう。卷尾の所は、岩崎本とは異りて、うまく折本と成し得るやうに成つて居るから、此の本は折本として仕立てられるやうに顧慮せられてあつた事が判る。摺りも佳良である。さても一つは九州帝大の春日教授が其の古版木を有して居られる本にて、版木三枚（三枚の中、一枚は吉澤博士に贈られた）にて六面、一面二十四行づゝであるから、百四十四行の斷片である。此の本も中々摺りは佳良である。最後の本は、數年前に大山公淳師が發見せられ、昭和七年八月の高野山に於ける大藏會の時に水原堯榮僧正により紹介せられた高野山寶龜院の藏本にして、縱八寸六分五厘に横二寸九分位の折本（三行分が一頁に當る）で、此の裝釘は原のまゝのものであると信ぜられる。古色蒼然たる本だが、摺りは佳良にて、卷尾のところは、紙を切り繼ぎして、うまく折本としての頁にはまるやうにしてある。

德丙寅佛成道日」卽ち至德三年十二月八日（所謂「臘八」である）の心空識語があるが、此の時の開版であらう。約齋道儉の盡力により、僧行西が實務に當り、上木せられたのである。倭點法華經開版の前年の事であり、此の二書開版は連續事業であつたのである。傳本至つて少く、岩崎文庫本の他には、秋葉義之舊藏本（此の本、自分が、音訓の解說を書いて居る最中に京の細川書店の手に入つたものであるが、自分は遺憾乍ら見る事が出來なかつた。安田文庫に入つた。）の存在が知られて居るのみだが、其の岩崎本は、縱九寸二分、橫七寸足らずの袋綴冊子本で（此の寸法は、改裝の時に縮少せられて居る事を考へねばならぬ）用紙四十八丁、裏打がある。天地の單郭間は七寸三分、縱の罫線があつて、一頁は六行づゝ、其の六行分の幅は五寸七分位、最初の一頁の半分は、天童飛搖の圖であるが、是れは版經の扉繪である。本書の版木は、二頁一面のものでは無く、もつと長いもので、四頁一面、全部で十二枚の版木であつた事は想像せられる。版式から云へば、元來は、卷子本に仕立てられるものとして開版せられたのであるが、摺り方によつては、冊子本とも、折本とも仕立得るので、岩崎本や秋葉本の如き冊子本が殘つたのである（岩崎本の版木が折本用として不適當な事は、最終の頁が折本の二頁分とするのがやゝ難しい事によりて窺はれる。此の缺點は仁和寺本に於いては除かれたので）。さて本書は至德三年に開版せられたものらしいが、此の書も需要が夥しかつたと見ある

刷史の前期に於いては、又特に注意するに足るのである。眼を大きくして見た場合に於ける文化史的價値は說くまでも無い。

法華經は、音讀により讀誦するだけで功德あるのは云ふまでも無いが、其の敎旨を知る爲めには訓讀せねばならぬ。さらに、一字一字の意味を知らなければならぬ。尤も一字一字の意味が判つた位で、深遠な法華經が理解できる譯のもので無いからこそ、昔より幾多の學匠達が心血を注いで經疏類を制作したのであつたが、學識の乏しいものが、經を一通り淺く理解するには、一字一字の音義を知れば先づ事は足る。そこで無量義經や觀普賢經の開結二經は除き、法華經八卷二十八品の單字一千六百、複字（所謂熟字）二百八十三を二十八品の順に摘出し、主として片假字にて、音や訓を註し、又四聲を示したものである。書名は慈恩大師窺基（玄奘三藏弟子）の法華音訓（豐琳一切經音義第二十七卷）に因んだものであらう。所謂「音義」書であるが、音義には、仲算の法華經釋文三卷（圓融天皇貞元元年7月五日成）の如き高級なものもあるのに、此の心空の書が極めて平易なものであるのは、學者を對象としたもので無いからであらう。「至

るが、古版であることは思はれない。たかゞ〳〵慶長以後の刊行と見て誤りあるまい――心空の當時に於いては、訓讀本の開版と云ふ事が行はれて居たとは想はれない（斷言は出來ないのだが、遺物から云へば、心空本より古いものは現存して居ない。書誌學者は心空版を以て訓讀本の最初のものと見て居る）然るに心空や約齋らは、從來の例を破りて、彫刻の面倒であるのにも拘らず、訓讀本を開版したのである。開版の目的が、竈婦販夫にも理解できる法華經を世に流布せしめる爲めのものであり、前年の註釋書法華經音訓の開版と密接な關係のあるのは云ふまでも無い。心空版以前に、斯う云ふ訓讀本の開版せられた事が無かつたと見るのが誤り無しとすれば、十五年前の應安五年に、希杲により刊行せられた音讀本（音を片假名にて振假名として施したるもの）の暗示によると考へて可いかも知れない。

こまれ右のやうな譯だから、心空本は、其れが訓讀本であるが爲めに、法華經の流布弘通史、教化史、開版史、訓讀史に於いて大いに注意すべく、音讀版經の希杲本と共に雙璧と稱して可からう。刊行の音讀本としては、法華經考異に「文明本（江戸屋代弘賢藏、無記、傳曰文明年所刻、每字靡點注音、共爲二鏤板一）」と見えるものが有り、又希杲本の事らしい嵯峨本の名が其の考異に見えるが、何れにしても種類が少いものなる事は想像せられる。なほ本書が、假名入りの版本、即ち假名版であると云ふ事は、漢文のもののみの開版が普通であつて、假名入りのもの、開版が少くあつた我が印

法印假名本（道元本）　譯和尋跡抄に、法師とは道元禪師なりとして「道元假名本」として引く、刊本なりと。假名本とあるから延書本か

定家假名本　譯和尋跡抄に「定家卿書ケリト云云」と云へるもの、假名本とあれば延書本か、事實定家の筆とするとも、定家は單に書寫せるのみなるべし。刊本なりと。

日蓮點　尋跡抄中五五オに「宗祖御點」とあるもの。

古點　尋跡抄上三オに見ゆ、法印點・定家點などゝは別のもの の如し、中三二オに「一本古點」とある物と同じきか。

傳慈覺大師點　黑川春村の頌鼠漫筆二〇五頁に見ゆ、刊本なりと。

道風書寫本　頌鼠漫筆二二〇頁に「道風朝臣の法華經」とある訓讀本のことなり、果して道風の書寫か、又訓點までも道風の施せるものなるかは不明なれど參考までに擧ぐ、法華經考異に「道本零本、武藏國江戸藪庵藏、傳曰小野道風朝臣書、墨字朱點、淵案、盍據興福寺所用喜多院點以爲訓讀者」とあるものにや。因みに法華經考異は、德川期刊本は天海藏所收本、鐵眼版、貞德本の如きは擧げ乍ら、法印假名本・定家假名本・慈覺大師點、其の他の假名附本の類は全く擧げて居ず、探るに足らずとして無視したるものならんか不穩當と云ふ可し

元德二年卒假名延書本　大本八卷八本あり、一卷の尾に後醍醐天皇元德二年閏六月廿四日の日附あり、此の時の書寫なるべし、原本未見　影寫本による。顯箋の下に鑁阿寺と讀めば讀まるゝ黑印あり、足利寺のものにや、因みに法華經考異は、延書本も擧げず、恐らくは本文校合に役立たざるを理由として無視したるものならん

の如きが存し、其の或るものは上木せられては居るが、――是れらは何れも私は未見であ

云ふ情態であるから、書寫せられる一方、印刷術の發達せぬ時代に於いても、法華經の開版は屢々行はれ、吉澤義則博士の古刊書目によれば、應永末頃までの刊本で遺物の存するもの二十一種中には一品經もあらう、又同版が重複して居るものもあらう　遺物の有無は不明だが、文献に摺刷の事の見えて居るもの十三種是れにも同版が二度乃至數度に擧げられて居るものもあらう、此の中の或る者は遺物として存して居るかも知れない　が擧げられて居る。しかして版種の實數は恐らくはまだ〳〵多からうと想像せられる。しかし其れらは、應安五年三月の希杲本安田文庫藏が音讀振假名本であるのを除くと、殆んど全部が漢文の本文のみを刻したものであつたと信じて可いものである。しかし經を理解する爲めには、音讀では駄目であり、訓讀せなければならない。そこで寫經や版經に、筆で訓點を加へたものも、又訓讀のまゝに假名交りに書き下した延書本も出來、其の中には加點者の名の傳へられて居るものもあり、

傳惠心點日遠の法華譯和譯跡抄（元和七年五月廿日成、寛永十九年十二月刊）に引く

檀那點瓊那僧正譯運點。和譯跡抄所引

古色蒼然としては居るが、全體としてよく保存せられ、虫損の如きも殆んど無く、墨損も無く、手擦も殆んど無く（巻首のところは流石に少しあるが、手擦と云ふ程のものでも無い。第二巻巻首即ち譬喩品の初めの所はやゝ甚しかつたと見えて、墨筆で少し補うて居る）裏打も虫損の一部を除けば無く、版の精巧度に於いても、德川期版本に比して遜色ありとは思はれない。紙の長さは一尺五寸、版木の長さは二尺二・三寸。第一巻版木は十五面、第七巻は十四面、第八巻は十三面、しかして版木は恐らくは裏表二面のものだつたらうと想はれるから、第一巻の版木は七枚半であつたらしい。元來巻子本として開版せられたものだらうが、また折本とも成り、綴本とも成る事が出來たから、初版斷片の如き折本もあり、又典籍秦鏡所引本の如き四冊本もあるのである。此の點、心空著、約齋刊行の法華經音訓が巻子本として開版せられて、遺物としては冊子本、折本が殘つて居るのと同じである（音訓の巻子本は未だ存否を知らぬ）

經王妙法蓮華經は、聖德太子以來尊信せらるゝ事篤く、奈良朝を經て平安朝になると、法華經信仰の全盛期とでも云ふ可き程と成り、此の情勢は鎌倉期に於いて新たに起つた日蓮宗の弘通と共に、大體繼續せられて、南北朝期、室町時代に至たものと考へられるのだが、然う

のと想はれる。組緒は是れも昔の儘のものであらう。表紙の裏側卽ち見返しは無地（初版斷片には銀い切箔模様あり）卷軸は黑塗の安つぽいものである。本文用紙は、龍谷大學禿氏祐祥教授によるに雁皮紙。上下九寸五分、天地の匡郭間は一定せないが七寸四分ぐらる（初版本斷片も同じ）各行の幅は六分餘り、二十行で一尺三寸ぐらる（初版斷片は一頁五行の折本である）各卷長短はあるが

一卷　三丈一尺九寸五分
二卷　三丈八尺一寸
三卷　三丈五尺四寸五分
四卷　三丈一尺一寸
五卷　三丈三尺八寸
六卷　三丈二尺七寸五分
七卷　三丈四寸
八卷　二丈八尺四寸五分

の長さである（但し野より野までの長さにて、表紙などは含まれず。此の數字は笹原氏の高敎による）。

性質が變である。完本の一部見本としてわざと斷片としたと云ふやうなものと見受けられたのである

斯くの如くに倭點本は、初版完本の存する事も判つたが、其れが學界に知られたのは極めて最近の事であり、從來は應永五年重刊本が、かなり早くより學界に知られて居たに過ぎないから、其の重刊本が古典全集中に飜刻せられる事にもなつたのである。さて重刊本は近江國坂田郡長濱町の八幡神社の所藏本であり、各卷尾に「江州坂田郡八幡宮常住」郡字の無きものもある と墨書してあるから、かなり古くより八幡宮に傳へられたものらしい。或ひは刊行當初より引き續き、此の兩部混合の社に傳へられたもので無からうか。が此の本、明治維新の無理解な神佛混合禁止の時に賣り拂はれ、森善治郎と云ふ日蓮宗信者の寄進により、同じ長濱の日蓮宗妙法寺の什物とも成つたのだが此の事は、第四卷々尾 八幡宮社司笹原泉氏が苦心して取戻し、其れを社寶として寄進せられたのである大正十三年に取戻し、昭和五年十月十日より社寶に登錄せらる

さて此の八幡宮本は卷子本にて八卷、表紙は七卷分だけが存するが、刊行當初のまゝと思はれる。其の表紙地色は汚損にて不明だが、銀泥で雲形を散らし、金の切箔砂子を施してある初版斷片も大體同じである 幅は五寸乃至六寸七分ぐらる。題箋は金地に墨書してあるが、原の儘のも

に別に應永二年版（其れも改刻本であつたと見なければならぬ）も存した事を認めなければならぬと思ふ。秦鏡の著者田口明良は書賈であり、秦鏡の如きを書く程の人だから、應永二年版や五年版の開版は、心空存生中の事である。斯くの如く、改刻本が三種も生じた理由については、版木燒失の如き事を想像するよりも、需要多くして版木が磨滅したであらうと云ふ事を想像すべきだと思ふ。法華經音訓も亦、少くとも三度、改刻せられて居るのである。倭點法華經の四版の中、應永二年版、同三十一年版は私は見て居ず、其の現存するや否やも知らない（書誌關係の書にも其の傳存を說いて居るものを見ない）現存するものは嘉慶の初版と應永五年の重刊本の完本とである。初版の完本は八冊、十行十七字、高さ七寸三分、横は折目まで、五寸七分、卷子に仕立てる版式にこしらへてあると云ふ。折本であらう。身延山の藏にて十月號の書誌學（六三頁）にて紹介せられたのが最初であらう。此の本は自分は無論見て居ないが、別に斷片がありて、其れを見た。其の斷片は、五行一頁の折本であつて、字形・字配等全く重刊本と一致し、微細な點で相異がある爲めに、二者異版である事が識別せられるものであり、重刊本に存する應永戊寅之歲云々の二行は無論存せない。重刊本は初刊本の冠彫（カブセボリ）だらうと信ぜられる（兩者を重ねて透かし見たので無いから、斷言する譯には行かぬ。因みに此の斷片は、斷片としては

納祥英は建仁寺山號は東山の僧で無かつたらうか。さて此の倭點本は嘉慶元年の開版後十一年目の應永五年に靈昊により重刊せられ、其の版木は慧峰靈日山東福寺の一子院龍吟庵に藏せられるに至つたのである。そして又法華經研究の權威たる伊勢安濃津西來寺(サイライジ)の宗淵大德は、其の法華經考異の中で「應永甲辰約齋鏤板」本が、京の福井丹波守有名な藏書家である に所藏せられて居る事を述べて居るから、應永三十一年にも改刻せられて居る事を認めねばならぬ「約齋鏤板」とあるのを見ると、應永三十一年版も、約齋が關係して居たかの如くである。そして然う解釋する事も、嘉慶元年の約齋を五十歳頃と見れば、強ち不自然でも無いが、しかし、宗淵の記述は、嘉慶元年のものが約齋の鏤板であるが爲めに、斯く書いたまでにて、應永三十一年版までも約齋の開版であると云つて居るのでは無いと見る可きだと信じる さらに又典籍秦鏡クの修古典全集本 四四二頁 に

(空華本)法華經卷物 板 全四冊
點付 刻

應永二年義堂空華ノ跋(有也)

と云ふ記事がある。義堂が應永二年に跋を加へ得る筈が無いから七年前に義堂は寂して居る 此の應永二年は、義堂が跋を加へた「嘉慶初元丁卯」の誤りでは無くて、刊行年月を示すものと見る可く、京都帝國大學圖書館所藏の秦鏡寫本は、原本の體裁をよく傳へて居るものと信ぜられるが、それによりても、應永二年は、刊年と見るべきであるやうだ 從うて應永五年版以外

同時に又國語學の見地から云へば、倭點本は漢文訓讀史上に於いて、即ち訓點本が開版せられたと云ふ點に於いて又音訓は音義物史上に於いても注意すべきものなのである。

さて其の倭點法華經は、空華道人周信義堂の跋や刊記に明らかである如く、約齋居士道儉と云ふ人が、籠婦販夫にでも理解せられる程度の法華經を流布せしめる目的で、自ら淨財を捨て、又他よりも募りて開版したものであり、本文は心空が作り、東山隱衲釋祥英が版下を書き、義堂が開版の事情を記したものなのである。約齋居士は約齋と云ふのが其の號にて、道儉と云ふのは法諱である。此の人は、前年にも心空の法華經音訓を開版して居るが、其れには「左京兆通儀大夫」とあるから、左京大夫左京兆正四位下通儀大夫（儀字は誤）の身分であつたらしく思はれるが、姓名が不明である爲め、如何なる人であつたかは未だ明らかにして居ない。刊年不詳の五山版密庵語錄二卷にも「參學約齋居士助錢一佰貫開板」とあり、義堂と交渉もあるから、禪宗の篤信者であつたと考へられる。相當の餘裕ある武人であつたのだらう。空華道人名周信、字義堂、空華道人は其の號。建仁寺、南禪寺に住す、嘉慶二年四月寂、世壽六十四歳の事は今更説くまでも無からう。嘉慶元年は其の示寂の前年にして、慈氏院に退休して居たのである。版下筆者東山隱

易に理解できるやうにする爲めの手段として、卽ち法華經の民衆化と云ふ目的の爲めに著はしたと見る可きであらう。さて其の三種の書は、

心空四十七歳　貞治四年正月下旬（但し刊本による、寫本には正月十八日とあり）法華經音義上卷成る。

同　五十二歳　應安三年、法華經音義下卷成る。

同　六十八歳　至德三年十二月八日法華經音訓一卷成る（此の時の識語あり、此の時の開版完成と見る可きか）

同　六十九歳　嘉慶元年十二月八日倭點法華經八卷成る（此の時の開版と見る可きならん）

と云ふ順序に現はれたものであり、法華經音義二卷一冊は寫本として傳へられ德川期に至り慶安二年三月京の中野小左衞門道也により刊行せられたのだが、法華經音訓と倭點本とは、版本として現はれたのである。是れは全く、音訓や倭點本の流布を廣汎ならしめ、民衆化せしめんが爲めであつて、法華經音義が、心空の在世中に刊行せられたか何うかは明言できないが、若し刊行せられなかつたとすれば、此の音義は、他の倭點本や音訓に比して、上木して流布させなければならぬと云ふ必要の度合が少かつたが爲めであらう。倭點本や音訓の開版は緊急事であつたらうが、音義の方はさ程でも無かつたからであらう。音訓がある以上は音義は無くても濟む事であつた。此の後、法華經音訓が少くとも三度改刻せられ、倭點本が少くとも二度改刻せられた事と共に、法華經流布史、法華經信仰史、また本邦印刷史上大いに注意すべき事なのである。

ずつと引き續き此の寺に居り、應永八年閏正月六日に世壽八十三歲を以て、此の寺にて示寂したのである。しかして此の時は心空の文字を眞空に改めて居たのであつた（薩戒記。迎陽記）心空の宗旨は判らぬが、彼れが天台宗の書寫山の住侶で、其の開山性空上人に因む名を持つて居た事、京の元應寺がやはり比叡山の道場である事を思へば、善法寺の宗旨も判明せぬとは云へ、心空は天台僧にして、善法寺も心空住持の頃は、恐らく天台宗であつたらうと想はれる（開創當時の善法寺の宗旨は、天台宗であつたと信ぜられる。南北朝期に觀音殿が再興せられた時には禪僧の義堂が關係して居るが、宗旨は變らなかつたと見て可からう）心空は法華經の篤信者であつた（此の事も心空が天台僧であつたらうと考へさせる一理由である）上人は自ら經王を信ずると共に、其を講じて世を敎化した。義堂は「明律大德心空上人……上人比以三善講二法華一聞二於世一、及二是緇白男女、翕然嚮化、聽者成市」と其の「善法寺修二觀音殿一化緣偈並叙」の中で述べて居る。さて此の心空は法華經を講じ、敎化する一方で、其の註釋書、卽ち音義類を二種著はし、又法華經に訓點を施したものを出した。是れらの三著述は、心空の法華經研究の成果なぞと云ふ可き程のものでは無くて、彼れが、法華經による敎化を有効ならしめる爲めに、換言すれば、智識階級人のみで無く、無學の籠婦販夫の如きものまでが、法華經を容

心空上人の三著書に就いて

岡田希雄

南北朝の頃、京に心空（晩年に眞空と改めて居る）と云ふ大德が居た。後醍醐天皇の元應元年皇紀一九七九年に生れ（沖陽記による逆算）播州書寫山圓敎寺の住侶であつたが（書寫山松壽院快倫の法華經文字釋讀音訓篇集の自序による）京に移り住んだのである。其の時期は遲くとも心空四十七歳の貞治四年までの事である。貞治四年の頃は「花洛東山元應國清寺」（永正九年本法華經音義による）に居たのだが、其の元應寺は岡崎法勝寺の西北にあつた山門の受戒道場の事らしい。ところが其の元應寺の近くの「平安城東白河之北」に善法寺と云ふ寺があつた。延喜十六年丙子、三善清行（延喜十七年任參議）が勅許を得て建立したもので、其れで善法寺の名もあるのだが、三善氏の衰微と共に寺も衰へ、南北朝の頃には、寺宇荒廢し、たゞ觀音殿のみが殘り、其れさへ荒れ果てゝ居る有樣であつたが、三善氏の某が慨きて諸同族と謀り、觀音殿を再興せんとし、こゝに心空上人を善法寺住持に招くに至つたのである。其の時期は是亦不明だが、心空六十八歳の至德三年以前である。心空は此の後、

有無二見別高著眼不惟安置法藏
又須發得般若真慧者也皆至得
佛成道日河北善法精舍住持比丘

右京兆通儀大夫約齋道儉化淨財命工刊行

幹緣　行西

清声八一點濁声八二點平声八タ九上声八ヲ九
去声八ハヒメタヒヲノチミリカル入声八フツクチキヒ
ヲ上ニヒ是漢人声タクク異リ其音其尼法師

仁王般若經云如如文字修諸佛智母一切衆生
性根本智母即爲薩婆若體諸佛未成佛
以當佛爲智母未得爲性已得薩婆若三乘
般若不生不滅自性常住一切衆生以覺爲覺性
故若菩薩無受無文字離文字非非文字
修無修爲修文字者得般若真性般若波羅蜜
又文句引釋論云碎骨是生身舍利經卷是
法身舍利〻〻其於六塵文字之中以法塵
文字名法身舍利學者若執此文字以爲
有則墮常見若復以爲無則墮斷見

滋。指禁脣。纂。

兩音字

無復已嵬度數乾地般悪出内

若適懷帝履反馳傴借漓方剝

垂報納含提敵抄恒晨褸樂差

能顔

呼衰蠲穿燥唐伺醯龜與宴湯
吾辟基鼠屎叫肥灑攬欻表慎
酒練旋桂彈舫柱詣繽紛誤唱
寒迎臨幾踠減戶睞魎猪枳敷
禽孚既攣王阿浪觀斯歡制泥
琴琵琶梁黨淺頻憔悴叢雷肅

法華經音訓終

經中吳漢同聲字 除入声

潮海且巍豈也最牙且 嫌姺涕

波減綖庵 笑低倫傭侵堆 坌隘

憒懊賞龕頹鳥長泉乎矜 倉俞

盐飛卑 旨 珊鬚贍懷仙詳疵 鍮

龜 カメ チカヒニル 龜 黽 ヒキガエル 采 トル

紺 コン クロミ クミ 珂 カ タ 齊 サイ ヒトシ

藿發品

蘭 ラン 蕙一 迦 カウ ムカウ 冠 クワン カウフリ 繚 レウ メタル ニトウ

睐 ライ スクメミル 膿 ノウ ウミコ

單字一千六百

複字二百八十三

伊 コレ ココニ　緻 キヒシ　柅 ニ ヒエ　抳

犂 クロウシ カラスキ　梨 同　墀 チ ミヲ　墀 同

底 チ ソコ ヤハラ　蹬 トウ 蹭ー　顙 アウ ハチハシラ　鬙 同

藍 ラン ヤ井　草 カウ サワ　奪 タツ ウバヲ　泯 ヒン ヒタヒタ

醯 ケイ シヒシヒヲ　醯 同　靂 エフ ヨス　斗 ト ニス ホシ

嚴王品

桑 クワ　桒 同

盧 ロ クロ　鼓 ハ ヒル

亶 タン アウシ ニコト ヒトエト　漚 ウ アワ

虔

秩

郵 ウ モトモ スタル　冶 ヤ イル トロホス キヒトカネ

伺 シ ウカカウ

痊 サ スベモノ

郁 イク カウバシ

侵 シ ヨカス　擁 ヨウ カタム ヨタク フサク

枳 キ

鬱 エイ モスソ　裔 同

哆 タ クチビル

邏 ラ メグル サエキル

厥 チツ フニキ

鬱 慢ニ見

咒 ミヒナウ ノロウ チカウ　詛 同　電 ハタヅチ　訟 ウタヘタヽカフ

厄 ヤクヨロイ セムヒ　陣 ツラヌ タカウ　陳 俗通用 フルヒ ノブル　潮 チウ ウシヒヲ

陀羅尼品

祢 ナイ 父廟　禰 同　旨 ムネ ウマヒ　隸 レイ ヤツコ

隷 同　遮 サヘキル ヲハウ タツ　賒 シヤ ヒタリ ハルカナリ　履 リ タツ フム

咩 ミヤ ヒツヒチヽヒヱ　哖 同　瑋 井 タヽ　糧 セウ ヒヤウ ヤウ

觀音品

舫 ヒヤイフチ　飄 ヒルカエル　段 タレ　段

杻 チカミ　桎 同　械 アミカセ　枷 クビカセ

鏁 クサリ　鎖 同　檢 カレカラ　商 アキナフ

商 同　魏 イカスシ　唐 ツキヒロミ　魚 イヲ

張 ナミ　峯 ミネ　逐 チクヲフ　刑 マヲフ

收 同　臂 ヒキ　星 ホシ　寒 サム

渡 ワタル ワタリ　船 フネ　舩 同　漂 ヘウ ヒヤウ

敵 テキ アタル ヒトシ カタキ　賊 ゾク ヌスヒト　消 セウ ケス キエ ツク

妙音品

搖 エウ ウコク　叔 シク ヒロク　尅 同　孝 ケウ ノリ

宰 サイ ツカサドル　婦 フ メ ヨメ

彈 シル ハイル ミタル ツカス

囑累品

藥王品

絙 ヒヤウ カヌ 鉼 同 箭 セン ヤ 銖 ミユ カス

薰 クン ニヨウ クユル フスフ 陸 ロク クカ アツシ ミチキ タカシ

塊 ト 一蓋 纏 チン ニトラ

甄 ケン ミヌカル ミヌカル ミヌカル

懊 アウ ナヤム クユル ムサボル

積 シ クキ ツミキ イナムラ

收 シユ ヨカム トル

啼 ナク　哭 ナク アワレフ カナシム　琴 コト　嶮 ケワシ

撰 ヨラフ サタム トル　青 アヲシ　丸 マロシ ミコ　桂 カツラ

隘 セハシ　虎 トラ　妊 ハラム　鏡 カガミ

不輕品

古 イニシエ フルシ　避 ヒサル

神力品

舊 フルシ モト　毛 モノ　聲教 コヱオシヘ

溢 同 胗 キシ 多ヤヒ 脰 同 嚙 クワ 上カム

匜 ヘイ 匳 キイ ヒキ 脾 ヒキ 異本 戾 ライ モトル イタル 窓 ソウ 多ホム

牙 ケ キハ 牙 同 圓 エン ミトカケイ ニトイ 圜 同

額 カク ヒタイ ヌカ 窄 ヒク カタシ ニコト 牢 同 沫 ニウ アワ

泡 ハウ ウミノワミ アワ 焰 エン ホノワ

功德品

窟 イワヤ ムロ　褥 シトネ　兼 カヌ　髻 フサ ヲウチ

謙 ヘリクダル

隨喜品

巷 チマタ　陌 チマタ　阤 カイコ　訓 ヨミテ イニシム

洹 水ノ名　舌 シタ　踈 ヨロツカヌ ウトシ　疏 同

脣 クチビル　褰 カヽク ハカニ　縮 シヽム ツヽム シリソク ミシカシ ミヂム　濯 シヲ ヲ サヒ

誤 アヤマル アサムク　擣 タウ ウツ ツク　篦 ヘ フルウ フルイ　愈 ユ イヨ〳〵 ニサル カヘル

紀 キ シルス コツナ　喪 ソウ ホロフ ウシナウ　𡚁 同　孤 コ ヒトリ ミナシコ ヤムク

恃 シ タノム　載 サイ ノス トシ　宛 エン アタカ ワカヌ

分別品

爐 ロ スヒツ　鑪 異本 タヽラ　繽紛 ヒン フン ミダル　犀 セイ 羊相間也

禁 キム イミシム ヤマヒ　蘇 ソ ヨミカヘル イキヌ

坊 ハウ チヽタ　無 ブ ナシ

涌出品

單 タレ ヒトエ

勞 ラウ チヨウラウ イタワル ネギラフ

奮 フル フルウ

迅 シン トシ

憒 クワイ ミタル サワカシ ロツラウシ

內 チウ カヒヒスミ

穴 同

鬧 サワカシ イソカワシ 異本

吏 同

皺 シユ シワム

皮 同

壽量品

氏 シ ウヂ

謀 ボウ ハカリコト

墓 ボ シタウ

跪 キ ヒザマツク

賣 ウル　屏 シリメク カタル　乞 コツ ユカ ワタウ　乞 同

嫌 キラフ　澤 サウ キヨム チアラウ ウルジウ　懶 ラン モノウシ ヌコタル　嬾 同

惰 タウ モノウシ ヌコタル　惰 同　懺 ヘイ アナトル　降 カウ クタル シクカウ コノカタ ンル

討 タツヌ　罰 バツ ウツ　伐 異本 ホコル　戰 セン タヽカウ コノヽク ナヨク

賞 シヤウ タヽフ　鬢 ケン モトリ　陰 ヨン カクル クモル カケ ヤモ　勲 クン コトウサ 与勳同

卑 ヒ イヤシ　門 ケン トツ　閉 同 ヽ　夢 ムン ユメ

率。ニハカニツキヌ　雞。ニワトリ　鷄。同　畋。カル カリ

獵。カル カリ　扨。シヤ　相ー。ソウシヤウ　暴。ホ　ニワカニ アラシ　詠。ナカム

凶。アシ　漁。キヨ　スナトル　敝。同　捕。フ トル カラムル

搏。同　律。リチ ノリ　寡。クワ クワカエル スクナシ　齒。ハ ヨワイ トシ

脅。ムヲ　臆。ムヲ　顛。テン サカサニ イタキ タウル　屠。ト ホフル

魁。クエ　膾。エ ナマスツクリ　敗。ホレ ヒサク タキナウ ウル　衒。クエル チラウ

雅 タシ モトカラス　茅 アヤタ ナタテ　訖 コツ ヨワル　逕 キヤウ ミチタル スジル 異作徑

勸持品

嫉 イ ヨハ　揔 ソウ スフ　旋 セン メクル カエル ユハリニル　詈 リ ノル

俗 ゾク ナライ ヨトコ　練 レン チネル ネリキヌ　鎧 カイ ヨロイ　擯 ヒン ハラウ ヨイシタヘ

寺 シ テラ

安樂行品

髓 ホネノスキ　腦 ナウ　腦 同　捐 スツ

違 タガウ　採 サイ　汲 クム　政 ミツリコト　タマシ

拾 ヒロウ　椎 ウツ　槌 異本

私 ワタクシ　蕊 ズイノミ　存 ソン　紫 ムラサキ

啓 ヒラク　ニウス　且 シバラク　カツ　靈 タマシイ　ヨミタマシイ　靈 同

幾 イクバク　チカシ　健 コワシ　スクヨカナリ　闡 ヒラク　讓 ユツル

隣 トナリ チカシ　鄰 同　訥 ヒツ トツ　齎 モツ ツミモツ

賚 同　擲 ムスフ　戸 コ ト ヘ　關 トサス アツカル セキ

関 同　鍮 ヒヤウ　半 ハン ナカハ　囑 ノク アツラヘ ツク サツク

央 アウ ヒサシ ナカハ　闇 クラシ　炬 コ トホシビ　熏 クン カヲル

吼 ホエ　吽 同　把 ハ トル タバヌ ニギル　淳 ツン スナヲナリ

提婆品

穿 ウカツ アナツラヌク　濕 ウルヲフ　濕 同

逗 トニハル　燥 カワク サウ ノ三　刀 カタナ　寞 ミツカナリ

嘆 同　章 アキラカナリ ノリ　里 ムエ サハル

寶塔品

涌 ワク　湧 同　龕 塔也 カム トハル　村 ムラ

江 エ　藪 ヤフ ソウ　移 ウツス イ　容 イルハス カタチ ヨウ

短 ミジカシ 資 スケ タスカラ ヨル シタシ 幽 サイ 哉

人記品

蹈 フム 太 ハナ フトシ 灌 ソソ

法師品

句 ニカル トニル 寫 ウツス 訾 ソシル ヲモウ 擔 ニナウ ヲウ

饌 ソナエ 異 ヲキ ヲヒキ ヲタ 冀 同 原 クエル ハラ タツス アツ ミヤ

五百品

谷 カヘテ ミリメタ　却 ハ　賢 サカシ カシコシ ヨシ　澗 タニ

溝 コウ ミゾ　嶮 タニ 嶮カタシ　豁 異本　接 ヨサム ニシヒル ツヽク

女 ヨレナ ナレチ　飛 トフ　留 ハル トニハ　渉 コスケ

史 ユ 須ハシ　醉 スヒ ヨウ　酒 ミユ サケ　官 タヒ ヤウヤケ ツカウ ツカサトル

裏 ウチ ウラ　艱 カヒ ナソム　活 クワツ イクル ヨミカエル　貿 ム イキニウル

昇 ショウノボル　升 同　閼 ヲ・ミ モロ〳〵　壞 エ ヤブル メコナウ

牟 ム スヘム オホイナリ ヲエス　聰 ソウ トシ ミヽトシ　路 ロ 三千　怯 カフ タメル ヨワシ

弱 ジャク ヨワシ　辯 ベン ワキマウ ワラフ　辦 異本　維 イ ツナ ツナク スミ

嫁 カイ カス　營 ヤウ イトナム ツクル ツコ　慎 シン ツヽシム　迴 ヤウ ハヒカナリ

之 ホフ トホシ　渠 コ ミゾ カシ　郭 クワク ヲイナリ 城ー　鄲 同

集 シフ ツトフル　權 コン ハカル ハカリ

秣 同	軀 イタハル イタサタキス	恪 ウヤマフ	祖 ハヤシ ハヤシムケ
萎 シホム	潸 ナクハキスル ナミダスル	泣 ナク	送 ヲクル ヲメル
憺 シツカナリ	怕 ヲソル シツカナリ	減 ヲトル ヲトス	減 同
損 ソコナフ	誓 カタカウ トム	獻 タテマツル	納 ヲサム ムスル
衲 同	北 キタ ニク	萌 キサス	瞑 クラシ
想 ヲモフ	超 コユ	諷 ソシル ヨム	室 ムロ

礫。サレイシ　荊。ウバラ　棘。ヰトロ　坎。カレ　アナ　キタ

堆。ウツタカル　阜。ヲカ　悚。ヨウ　ヲノノク　慄。リキ　ヲノル

哀。カナシム　アワレム　懼。ヲソル　敢。カレ　アエテ　臺。ウテナ

閼。エル　サキアカト　サト　浮。ウカフ　表。ヘウ　オカ　シルシ　ウワヨウイ

化城品

磨。ミカク　トル　スリウス　墨。スミ　點。チル　ヤカス　抹。ミツ　ヌクク

攬 ラン 上九

蠻 同

率 ソツ 素ノ子

幽 ユウ カクレシ カクル

邃 スイ フカシ

穀 コク モミ ヨシ

苗 ビヤウ 十二

稼 カ 十二ヨ 十ノ十

甘 カン アマシ ムマシ

蕪 ブ ヒロ ノ

蒲 カマ

菊 キク ヒヒカウラ 蒲ノ

滋 ジ シケシ

槁 カウ カレキ

觀 カン ミル

限 ゲン カキル

專 セン モハラ

稟 ホン タ

滴 テキ 上九

滯 タイ 暴ノ

授記品

誠 コトバ サチ　川 セン カワ　谿 ケイ タニ　卉 クサ

叢 ソウ ムラ　窩 ワ キヒシ　雲 ウン クモ　樹 ジュ メキ

洽 カフ ウルフ　莖 キヤウ メキ　潤 ジュン ウルフ　唱 シヤウ トナウ

勢 セイ ツヨ　惠 エ メグム　含 ガン フクム　電 デン イナビカリ

晃 コウ ヒカリ アキラカリ　曜 ヨウ カヾヤク　雷 ライ イカツチ　掩 エン ヲヽウ

揜 エン 異本　涼 リヤウ スヾシ ウスシ　凉 同　靈 レイ ヨロヅノカミ 雲雲

煞 同

眇 スカメ

房 チサイフサ ホソシ ツヽム

油 アブラ

薦 セン ムシロ コモ スヽム

席 シヤク ムシロ シキ井

厚 カウ アツシ

暖 ダン アタカヽウ

煖

暖 並同上

宿 シユク アラカシメ ヤトル ムカシ ホシヽヤトル

庵 アン イホリ

菴 同

悉 シツ ホシイヽニヽヽリ

恩 オン メグム

勸 クワン スヽム

伏 フク フス カクル ヒタカウ

戴 タイ イタヽウ

荷 カ ニナウ ハスノハ

熟 シユク シウム ツラく ツイこ

藥草品

辛 カラシ カノト　覓 モトム

論 アラカウ コトワル　弘 ヒロム

皓 シロシ ソシル　巨 ヨ、イナリ

索 モトム ナワ　蒼 カサ

注 ナラ シルス　註 同

疎 同

驅 カル

借 カル シ　殺 コロス ソク

似 ニタリ ツク　蠲 ノゾク

惱 ナヤム　惱 同

宗 ムネ タトフ　夙 ツトニ ハヤシ

創 同　癬 セン セニカサ

勞 フミ ツノル　蹠 ウラ サクル シルス ウツカス

噈 ツタヅサヘ　盆 ホトギ 一盞　瓮 同　米 コメ

麪 ムギコモヤシ　麵 同　塩 エン　鹽 同

酢 ス　都 ミヤコ スベテ ミナミナカナリ　兒 ニ チコ コ　勑 チヨク ミコトノリ

敕 同　悌 ケ チカウ　餐 サン クラウ　飡

飡 同上　鄙 ヒ イヤシ イナカ ハチ　臨 リン ノゾム　君 クン キミ

某 ムメカシ　聆 リヤウ ヒヤウ　聯 サヨウ サヌラウ　伶 傳 異本

犯 ホム ヲカス フル、 俞 ユ イヒク 逾 異本 牽 ケン ヒク

囚 シユ ヒトヤ 泠 リヤウ スミル ヒヤヽカナリ 醒 セイヤウ サムル 豪 カウ 雄ー

賁 ク并 タトシ タクシ 審 シン ツヒラカナリ ヒラカナリ 憔 セウ 悴 スイ カレヤツレ 徐 ヨ ヤヤヤヤ

雇 コ ヤトヤ 糞 フン クソヤ 糞 同 恠 クヱ アヤシ

塵 チン チリ ケガス 垢 フン チリ ニミル 汙 ウ ケガラハシ 汚

洿 並同上 膩 ニ ヨフラツク アカツク 器 キ ウツワモノ 器 同

歴 リヤク フル
遂 スイ ツイニ トク
旦 タン いしく アキラカ ケイ
委 イ タクワシ スツル ホム ニカス
付 フ ツク
坦 タン タイラカナリ ヤスシ
拂 ホツ 白ー ハラフ
左 サ ヒタリー
帳 チヤウ トリ
灑 シヤ メク
列 レツ ツラナル ツラネル
傭 ヨウ ヤトフル
賃 チン チカラトル チヨ
遙 エウ ハルカナリ
牀 シヤウ ユカ トコ
床 同
珞 ラク 瓔ー
執 シツ トル
里 リ サト
肆 シ ホシイマヽニナリ イチクラ ノフ
暘 ヤウ ヤスシ カワル
旊 バン バタ
遣 ケン ツカワス ヤル
愕 カク ヨロロク

整 トノヽ　整 同　袒 カタヌク　檀 同

右 ミギ　肩 カタ　膝 ヒザ　躬 ミ

疲 ツカル　憙 コノム ヨロコブ　幸 サイワイ ユク　牽 同

逃 ノカル　騁 ハシル　琥珀 玉ノ名　倉 クラ

盈 ミツ　佐 タスク スケ　吏 ツカサ ミツリコト　象 カタトル キサカタチ

商 アキナフト　陸 ヒキ　估 アキナフ　賈 コウル　客 キャク ミヲヌフト

瘂 ヲシ　猪 イノシシ　豬 ヰ　睛 並同上

瘖 ヲシ　瞳 ヒトミノ　癰 カサ　疽 カサ

瞋 イカル ハラタツ　嗔 同　恚 イカル アレクル ウラム　婬 ヨロコブ スキヲリ

擇 エラブ　強 コワシ シフ ヒトカチ　澤 サワ ウルヲフ　友 トモ

爻 同　籍 フミ ヒタ

信解品

戀 テナエ　攣 異本　躄 ヒヤウ アヒナエ　背 セナカ ソムク

傴 カニル　氣 イキ　痛 カル ヤス　怙 タノム

附 ツク ヒタカヲ　醫 クスシ　治 ハル ツクロヲ ヲサム　他 カレ

療 ツクロヲ　良 ヨシ ヨル ヤヽ

逆 サカウ ムカウ　杪 ヌク　劇 イソカワシ ハナハタ　反 カエル ヘム ソムク

盜 ヌスム　狭 ワキ　鈔 同　竊 ヒソカニ ヌスム

狂 クルヲ タフル　輙 タヤスク スナハチ

疥 ケ ハタケカサ
癩 ライ ヒスタケ
嬈 ナヤル
枯 カレキ
竭 カツ ツクカワク
杖 チヤウ ツエ
楚 イタミ スワエ
駑駘 ラウタ ムニクク
驢 ロ ウサキムニ
負 フ ヲウタノム ソムク ニクル
獲 ヤクウル エモノ
擲 チヤク ナケク
擿 同
蟒 ニウ ヤニカ、チ
聾 レウ ミヽシヲ
騃 カイ ヲロカチ ホレタリ
蜿 エン フレニロフ 轉
蹠 異本
腹 フク ハラ
嘎 サフ クラウ スウ
咘 サフ 異本
晝 チウ ヒル
矬 サ タナヒキ
陋 ル イヤシ

暫 シバラク
塹 同
傳 ツタヘ
鞘 サヤ カタナサヤ
致 イタス ムネ
淺 アサシ
計 ハカリコト カリ
凡 オホム ヨソ ミナ
凡 同
謗 ソシル
嚬 ヒソメ ヒソム
顰 異本
感 ミヒソム
蹙 異本
賤 イヤシ ヒキシ
恨 ウラミ
展 ノブ
輕 カルシ カルクシ
誹 ソシル
書 フミ カク シルス
頌 ホメ カタタヘ
黷 ツシム
黎 同
黜 クロシ

救 スクフ　蔓延 エンエン　誨 シエフ レメヌ　愁 ウレエ

絶 タツ スヤハタ　妣 フヒル　耽 異本　湎 フヒル

奔 ハシル　育 ヤシナフ　繒 カトリキヌ　纊 クワフ ワタ

茵 シトト子　蓐 シトト子　細 ホソシ ミカヌ　氈 ケヌノ

鮮 アサヤカナリ スヤシシ アサラカシ　尠 同　肥 コエタリ　壯 サカリナリ

儐 ツカイヒト ヒシ　居 ヲリル スヱル　染 ソム　累 カサヌ ルイ ミキリナリ

忽 コツ クチマヒ ヒマ イ九カ廿

燄 エン ホノヲ

爆 バク ハゼル

列衣 レツ サク

折 セツ ヲル クジク 曲ム

崩 ホウ クヅル

倒 タウ タヲル サカサマニ

揚 ヤウ アカル

窠 サウ カクル

孔 コウ アナ

穴 ケツ アナ

血 ケツ チ ナミダ

並 ヒヤウ ナラブ ヒトシ ナミニ

煙 エン ケブリ

烟 同

酵 コウ カヲヘシ

焞 異本 フスボル

熱 ネツ アツシ

悶 モン イキトヾ コヒ ヒトタヲ

穴 サイ サヲヲイ

奚

栽

扶 並同上

頸 キヤウ クビ
裸 ラ ハダカ
羸 ルイ
倮 ラ

躶 並同上
黑 コク クロシ
瘦 シユ ヤセクル ツカル
瘻 同

叫 ケウ サケブ
咽 エン ムセブ ノムト
針 シン ハリ
首 シユ カシラ ハジメ

蓬 ホウ ヨモギ
殘 サン ノコル ノコシウ
兇 キヨウ ツタフル
渴 カツ ミツアシ

喚 クワン ヨブ
囀 同
鳥 チヨウ トリ
急 キウ アセアカキ

窺 キ ウカヾフ
看 カン ミル
窓 ソウ マド
牖 ユウ マド

狀 カタチ カタトル
魋 スダマ ヤマノカミ
魅 スダマ イエノカミ
魍魎 ミツリヤウ スダマ ミツノカミ
敢 クラフ
禽 トリ トリコ
獸 ケダモノ
孚 ハグクム ニコト
乳 チ
産 ウム ウミル
飽 アク
荼 ニカナ ヲホトチ
榛
茶 並同上
蹲 ウスクマル
踞 ヒリヨク
埵 カタヅキ
尺 十寸 タカバカリ
返 カエル カエス
捉 トル
撲 タツ
脚 ヲ
脚 同

蹋 タフ フム
齊 サイ クウ
齧 ケチ カム
屍 シ ニヨカバネ
骨 コツ ホネ
藉 シヤク ミタル ヨカル
狗 ク イヌ
搏 ハク タツ ハタク
撮 サツ トル ツカム ツマム
撤 同
飢 キ ウエタル
羸 ルイ ヤカル
慞 シヤウ ヲソル
惶 クワウ ヲソル
鬪 トウ タカウ
諍 シヤウ アラソフ
擅 シヤン トル
掣 セイ ヒク
嗟 カイ イカム
齜 サイ カミテ
喋 異本
嘩 カウ イカム サケス
吠 ハイ ホエ
恐 キヨウ ヲソル

蛇 クチナワ
蛇 同
蝮 クチハミ
蠍 カヂカ ヲホハチ
蜈蚣 ムカデ
蜣蜋 エンレイ ナメクヂ
守宮 ヤモリ ヲホヤ
鼬 イタチ
貍 タヌキ
狸 同
鼷鼠 ハツカネズミ
鼠 ネズミ
蟲 ムシ
横 ヨタル
屎 クソ
尿 ユバリ
臭 カ クサシ
蜣蜋 カウラウ クソムシ
狐 キツネ
狼 ヲホカメ
咀 クラフ カム
嚼 クラフ カム
嗜 同
踐 スフム セン

毀 ヤブル ソコナル　圮 ヤブル ヒヌル　坼 キレル サク　墺 同

涅 ヌル ニニヒル　塗 ヌル ヒキリコ ミチ　褫 チ トヲル トク ヒキカヘル　覆 フ フクヘウ クツカヘル フク

苫 セン トニ トニフク　椽 チレ タルキ　相 リヨ ノキスケ　障 ヒヤウ サワリ

屈 クツ カニル クヒレノ　鷄 ケ トヒ　鴟 雌 並同上

梟 ケウ フクロウ　鵰 チウ ノノタカ　鷲 シユ ワシ　烏 ウ カラス クロシ イツクシ

鵲 ジヤク カラス　鳩 ク ヤマハト　鴿 カフ ヒヤハト　蚖 ク トカケ

煮 ニル
追 ツイヲウ
畜 チクタクヲウ カウ
餓 カウエタリ
困 コンクルシム タシナム
怨 エン
憎 ソウニクム
勉 メンツトムスヽム
麗 レイアラシ
麗 同
弊 ヘイヤフル
獘 同
味 ミアチワイ
觸 ソクフルケカス
単 同
保 ホウタモツヤスシ
任 ニンニカヽスタヲ
繫 ケツナクカク
娯 ゴタノシム
頓 トンニワカニエシテスカサス
摧 サイクダクノ
斜 シヤナヽメナリ
基 キモトイ
陛 ヘイハシ

庫 クラ
置 ヲク
丹 ニ アカシ
枕 ニハタラ
駕 カノルカタ モノ
膚 フ ハダエ アサシ
潔 ケツ イサギヨシ
姝 シユ ウルハシ カホヨシ
筋 コン スチ
歩 フ アユミ
侍 シ ハベル サブラフ
衛 エ ニハル
溢 イツ アフル
極 キヨク キハム
劣 レツ ヨワル
偏 ヘン ヒトヘニ
黨 タウ カタヒラ
給 キフ タマフ ツウ
匱 キ ナホシ
望 ボウ ノゾム タノミ
全 ゼン マタシ
軀 ク ムクロ
暗 アン クラシ
愚 グ ヲロカ

羊 ヤウ ヒツジ
麁 ソ カ
外 ケ ホカ
鋭 エイ ト シ
牛 タカイ ニ
互 同
推 スイ ヲス
排 ハイ ヲシヒラク
競 キヤウ キソフ
竟 同
馳 チ ハス
爭 ソウ アラソフ
衢 ク チマタ
鄣 シヤウ サワル
許 コ ユルス トコロ
賜 シ タマフ
張 チヤウ ハル
幟 シ ノボリ
絞 ケウ メクル ニトフ
絡 ラク シハル メクル
纓 エイ ヒモ
統 トウ ツナ ムスブ
綖 エン クミ
筵 エン ムシロ

械 コウ ネイ ハコ

几 キ タヅミツキ

机 同

窠 アム ツクエ カシカウ

狹 ケフ 廿八ノ

狎 陜 並同上

幼 エウ イトケナシ

慝 コウル ヒクウ

害 カイ メコナウ

懼 レン アワレム

愍 ミン アワレム カナシム

憁 同

誘 上 コシラウ ミチビク タヅレウ

諭 上 サトス アキラム

肯 コウ アエテ ウケガウ カエル

冒 同

西 サイ ニシ

走 ソウ ハシル

免 メン ユルス

玩 ワン モテアソブ

寄 キ ヨル

物 モツ モノ

情 ジヤウ コヽロ ナサケ

栁。メキタリ　墻。カキ　牆　廧 並同上

壁。カヘ　頹。メツル　隤　墳 並同上

柱。ハシラ　腐。メキタリ　敗。ヤフル　梁。ウツハリ ハシ

棟。ムナキ ムネ　傾。カタフク　危。アヤウシ タカシ　帀。メクル

迺　匝 並同上　欽。メキニキ　焚。ヤク

燒。ヤク タク　嬉。タワル　痛。イタム　患。ウレウ

承 ウケタマハル　偽 イツハル　壽 イノチ　民 タミ

織 ケカラハシ　榮 サカヘ　倫 トモ　匹 ヒトシ

慶 ヨロコフ　奥 フカシ　巨 カラス　邑 サト

落 ウトロウ　年 トシ　季 同　衰 ヨトロウ

邁 スキタリ　財 タカラ　田 カリ　宅 イエ

僮 ヤツコ　僕 ヤツコ　堂 トノ　閤 ヒロ

責 セム　泰 ヤスシ ハタ ソヒ ヤヌ　太 同　蒙 カブフル

谷 タニ ヤレナウ キロニル　鳴 ナノ ア呼　呼 ヨハウ　筆 チウ ハカリコト カス

拔 ハチ ヌク　海 カイ ウミ　暢 チウ ノフ　還 クエル カヘル カヘス ミリメク

還 同　憶 ヨク ヨモウ　豐 フ ユタカナリ　豊 同

熾 シ サカリナリ モユ　黄 ワウ キナリ　繩 ジョウ ナワ　繩 同

側 ソク カタワラ カタフク ネトリ　傍 バウ カタワラ チカシ ソウ カタク　旁 同　筭 サン カヌウ カス

求 キウ ナカム

式 シキ リ モテ

興 コウ ヨコル シタク

懸 ケン カル ハシカケリ

祕 ヒ カクス キヒミ

慙 ザン ハツル

愧 キ ハツル

曉 ケウ アキトル アキラム アカツキ

卷 クワン ニキ ニタク

譬喻品

踊 ヨウ ヨル

躍 ヤク ヨル

顏 カン カホハセ

感 カン ウタク ウル

傷 シヤウ イタム ヤフル

每 マイ ツネニ コトニ

咎 キウ トカ

剋 コク セム キサム トニ

舉 コヽノ ミヽ

舉 同

低 タレ ヒキシ ヲチル

伍 同

南 ナム ミヽヽ

貧 ヒシ ニツシ

窮 タ キウ ニル

險 ケハシ

續 ツヾク

聲 メウ 牛黒色

牛 コウシ ホシ

尾 ヒ ヲ ホシ

蔽 ヘイ ヤブル ヨヽウ

盲 ニウ メシウ

冥 ミヤウ クラシ

始 シ ハシメ

帝 タイ ミカド

沒 モツ ツクス シツム

寧 ヤウ ムシロ ヤスシ

疾 シツ ヤマイ ハヤシ

哉 サイ カナ

用 ヨウ モチウ

杰 ケツ カラナシ

差 サ タガウ シナ イユル ヤマ

蓋 同又音蓋　草 サウ クサ　屮 屮

廾 並同上　筆 ヒツ フデ　指 シ ユビ 上井又　爪 サウ ツメ

甲 カフ カフト ヨロイ キノエ　漸 セン スヽム ヤウヤク イタル　功 ク イタワル カサヌ イタツキ　角 カク ツノ スミ

貝 バイ カイ　簫 サウ フエ　笛 テキ フエ　琴 キン コト

篌 ウ コ フエ　琵琶 ビハ 樂器　鐃 ウ 鈸　鈸 バツ 鐃ー

歌 カ ウタ ウタウ　唄 バイ ウタウ　頌 シヨウ ウタウ ホムル　拜 ハイ ヲカム ヌカツク

野ノラ　壎　埜同上　童ワラワカフロ

聚アツマル　建コレタツル・イタル・コボス　刻キザム　雕エル

彫同　鍮鈬チヤウシヤウ銅屬　赤アカシ　銅アカ、子

鑞十二ノ　鉛十二ノ　鉛同　錫鈴ー

鐵クロカネ　鐵　鋏並同上　膠ニカワ

漆ウルシ　泰同　絲イロトル　畫エカク

耶 同

稠 チウ キヒシ ヨハシ シケシ

依 エ ヨル タノム

矜 コウ タコル アワレム

諂 テン ハツラウ

曲 キヨク ミカル クニ ツフサニ

群 クン トモカラ ムラカル アツマル アツム

更 キヤウ サラニ カワル

顯 ケン アラワル アキラカナリ

玫瑰 エイエ 五ノ名 瑰或作瓌

投 ケウ カレカウ トル ナラフ

石 セキ イシ イワ

沈 チン シツム

沉 同

氷 ヒヨウ ミツ

木 モク キ

櫁 ミツ シキミ

檻 同

材 サイ キ

甎 セン カワラ

塼 同

瓦 クワ カワラ

泥 デイ ヒチ ヒチヌル ヒチヌル ナツム

曠 クワウ ハルカナリ ムナシ

剬 セン スクナシ
鮮 同
先 セン サキ ニツ
鈍 ドン ニブシ
設 セツ タトイ ニウク
終 シウ ツヲワリ 与殺同
平 ヒヤウ タエラカナリ ヒトシ
欺 ギ アサムク
誑 クワウ タブラス アサムク
九 ク コノツ
印 イン ヨミテ
立 リツ タツ タチトコロ
哲 セイ チカウ
錯 サク アヤマル ヨマシウ
迷 メイ マヨウ
愛 アイ ヨミム
備 ビ ソナヘル
倫 同
毒 ドク イタム ソコナウ クルシム
脳 ノウ ハラム
形 ケイ カタチ アラハル
逼 ヒツ セマル
迫 ハク セマル
邪 ジヤ ヨコシマ

貞 サダカナリ サダ
佳 ヨシ
矣 決斷
曇 雲布

耳 ミミ ミミノミキク
妄 ミダリ イツハリ
詞 コトバ
但 タヾシ

尚 ナホウ タフトシ ヒサシ
況 キヤウ イハシヤ タヾラフ
況 同
濁 ニゴル

命 ミヤウ イノチ オホウセ
垢 アカ アカツク
慢 ヨロシム
嫉 ネタム ソネム シラヤム

妬 ネタム シワヤリ アラフウ
妒 同
前 サキ ニエ スム サキ
惜 シヤク シヨシム アタラシ

瑕 キズ
疵 キズ
糟 カス
糠 ヌカ

網 アミ ニツウ　視 シ 三九　豫 ヨ アラカジメ ヨロコフ　預 同

兩 リヤウ フタツ　云 ウン イワク コヽニ　惑 ワク ニトウ　口 クチ ホトリ

驚 キヤウ ヨトロク　慮 リヨ ヨモンハカル ヨラヲモイ　將 シヤウ ニサキタツ モツ スイル　墜 ツイ タツ

坑 キヤウ アナ　長 チヤウ ナカシ ヒトヽナル　穩 ヲン ヤスシ シタヤカナリ　惡 同

垂 スイ タル ホトリ ナヽくヽ　請 シヤウ コウ ウケ　輩 ハイ トモカラ　輩 同

罪 サイ ツミ　皐 同　制 セイ トヽノヘル イヽシメル ツクル　枝 シ チダ エ

末 スエ ヒロ
雄 ヲウ ヲトコ カツ ヲ
取 シユ トル
類 ルイ タグイ
測 シキ ハカル
了 レウ ヲワル サトル
堪 カン タエタリ
假 カ カリナリ カル イトマ
使 シ ツカウ シム
共 グウ トモニ
刹 サツ クニ
竹 チク タケ
莫 バク ナカレ ナシ トヒナシ クスシ
少 セウ スクナシ ワカシ
新 シン アラタ ニイ
稲 トウ イネ
麻 マ アサ
葦 イ アシ
河 カ カワ
久 キウ ヒサシ
縛 バク こハル ムスフ ユワウ
慇 イン
懃 コン ネンゴロ
昔 セキ ムカシ
笞 同

方便品

詳（シヤウ ツミラカニ）　就（シユ ツク）　宜（キ ヨロシ ムヘナリ ヘシ）　宜

宜 並同上　吾（ゴ ワレ）　譬（ヒ タトウ タトヘハ）　引（イン ヒク）

礙（ケ サワリ）　破　閡　導 並同上

畏（イ ヲソレ カシコマル）　辭（シ コトハ イナム）　辭　辭 並同上

要（エウ チキル モトム）　腰 同　止（シ トヽム ヤミヌ）　功（コウ ハカラヒ イコシ）

火 ヒ ホ ヤク

倍 バイ ニス

加 カ ハクワ ニヤ ハル ソエモノ

順 シユン シタカフ ヌタラス シナウ

繼 ケイ ツク

継 同

仙 セン ヒシリ

僊

僊 並同上

脫 タツ モヌク モシ ヌカル

脫 同

急 キウ ヨコ ネル

遊 ユウ アソフ 与遊同

族 ゾク ヤカラ

習 シフ ナラウ

廢 ハイ スツ スタル

則 ソク ノリ スナウチ ノル

助 ジヨ タスク スケ ニス

待 タイ マツ

充 ジユウ アツ

悔 クエ ク ル

斷 ダン タツ コトワル サタム

断 同

甚 ハナハタ ナレノ

内 ウチ ヨサム イル、

像 カタチ

奉 タテマツル ウナヒヌル

適 チヤウ ニサヒ タニ サキ ヌル ユク ヒヌ

眼 ニサヒ 三十コ

歸 ヨル ヌエル ヌモムキ トツク シタル

歸 同 作帰非

唯 タ、 ヒトリ

證 ショウ アフロス シルス

既 キ スデニ ツキヌ

尋 タツヌ ヒロク ツヒク

實 ニコト サネ ミツ ミノルミ

逸 イチ ホイニ ホイ トし

遇 グウ アウ

懷 エ イタク ヌモウ フトコロ

悲 ヒ カナしむ

速 ソク スミヤカ ナリ

慰 イ ナグサム ヨしラク

勿 モツ ナカル

憂 ウ うレウ

怖 フ ヌメル

情 同

薪 シン タキ、

門 カト

餘 アマリ

告 ツク コグ ニウス

藏 クラ テサム カクス

堅 カタシ

燃 モユ タク

貪 ムサボル

雖 イヘトモ

讀 トク ヨム

忘 ワスル

失 ウセナク

根 コン 子 ネ

値 チ アウ

豈 キ アニ

異 イ コトナリ アヤシ

乎 ヤ カ

也 ヤ ナリ ニタ

汝 ミヨ ナンチ

分 フン ワカツ ワカル

別 ベツ ワカル コトナリ

瑠璃 ル リ 玉ノ名

玻瓈 ハ リ 玉ノ名 異作頗梨

端 タン ハシ タダシ

成 ナル　次 ツギテ ヤトル　同 ヒトシ　字 アサナ ヤトテワ

姓 ウヂ　頗 スコブル ヒトエニ　薩 ツヨ　最 モトモ スクル

寂 同　家 イエ イエイス　鄕 ヒキ　領 ツカル コロモノクビ ツカサトル

父 チヽ カス　位 ノクライ　隨 シタカウ　發 ヒラク ヨコル

聽 キヽ ユルス　座 イトコロ　弟 ヨトヽ　謂 イハク ヲモウ

頃 ノコロ コロイタ コロヨイ　懶 ヲコタル ウム　倦 ウム モウ　勤 同

號 カウ サケブ ナツク ヨフ メス
号 同 イタル
月 ヒ チヒラス
燈 トウ トモシビ
來 ライ キタル ヨフ
来 同
逝 セイ ユク イヌ
調 チウ トヽノウ ミラヘ アヘタ
御 ゴ トヽノウ ツカサトル ヲサム
丈 チヤウ 十尺 ツエ
夫 フ ヲウト ソレ カレ カヲコト
初 シヨ ハシメ ハツ
遠 ヱン ヲレ トヲシ ウトシ サカル
遠 同
巧 ケウ タクミ
純 ジユン モハラ スヌタリ
雜 ザフ ニシロル クサ〳〵 カタル
諦 テイ アキラカナリ ツヒニ ニコト ツヒニヲカナリ
究 キウ キワム
竟 キヤウ ヲワル キワム ツイニ
辟 ヘキ ノリ ミリメタ
支 シ サヽウ
十 ジフ トヲ
蜜 ミツ 蜂饋

伎 異

特 コトニ ヒトリ

樹 ウエキ タツ

敷 シク ヒラク

仰 カウ アヲグ

贍 サン 三九 二ホ九

仁 ニン キミ ウツクシミ

饒 ジウ ユタカナリ タヒイ

益 ヤク ニス ニスク

場 チヤウ ニワ ハ

授 ジユ サツク

記 キ シルス

示 シ シメス

家 サツ 三九 ワキヤカナリ

語 ゴ カタル コトバ

士 シ ヒト

男 ダン ヲノコ、 ニスラヲ

忖 シユン ヲモウ ハカル

吹 スイ フク カセ

即 ソク スナワチ ツク

即 同

切 サイ ヒトシ キリ

七 シチ ナヌカ

邊 ヘン ホトリ

祇 キ カミ ヤシロ

性 イノチ スカタ ヒトツリ　猶 ナホシ コトシ ヒトシ　虛 ソラ ソラ

著 同　造 ツクル イタル　廟 メウ ヤシロ　廣 同

高 カウ タカシ タカフル　高 同　由 ユ ヨシ フル エル　旬 シユン ヒトシ ヒトヒニ

縱 シユウ ニハス タチサニ ホシイ ニ、 タトイ　廣 クワウ ヒロシ　懂 ハタホコ　旛 ハタ

幡 同　交 ナウ ニシ ワル コモ〻ク　露 ロ ツユ アラワル　幔 ミタレ

幔 同　鈴 リヤウ ス、　鳴 ミヤウ ナル ナク　妓 キ ニイヒメ

養 ケウ サカナ
飲 ヨル ーム ーミモノ ミヅノム
衣 エ コロモ キル
臥 フス
茂 モム モミ ことケし
浴 ヨク ミヅアラウ ユアフル
儲 同
食 シキ クラフ ハム ノイモノ イイ
價 ケ アタイ ウル カス
園 ソノ
盛 ジョウ サカン ナリ モル
池 チ イケ
湯 タウ ー藥
直 チキ ナヲし アタル アタイ
果 クワ ユノミ ハタス
流 ル ナカル ナガイ
滅 メツ キエ ホロブ
膳 ゼン ソナエ カしワテ
僧 ソウ 師ー
直 同
菓 同
泉 セン イヅミ
詔 セウ キミ ことば

瞑 同

勤 つとむ

戒 いましめ

儀 ぎ

歃 カツタ ケツ

忍 しのフ シノブ

辱 ハツカシム カタヒナシ

增 ゾウ ニス ニスク

慢 マン ミタル アナトル

慢 同

亂 ラン ミタル ワタル

乱 同

罵 メ ノル

捶 スイ ウツ

打 チヤウ ウツ ナス

戲 ギ タワフル

笑 セウ ワラウ

笑 ヱミ

咲 ヱミ

嘆 ヱミ 同上

癡 チ シラカナ

攝 セツ シナム ツカサドル

歲 サイ

歲 同

惟 ヨモウ ヨモヤミヘル コヒ

空 ウツロ ソラ ムナシ アナタ タリ

禪 ゼン シツカナリ ユツル

定 チヤウ サタメル

五 イツ

安 アン ヤスシ イツクシム ヤスカナリ

固 コ カタシ ニコト ツヨナリ イヤシ

具 グ ツサニ ソナフ

化 クエ アラタム ヨシウ ハカル

破 ハ ヤフル ワル

魔 マ ヨニ

兵 ヒヤウ ツワモノ

擊 キヤク ウツ

敲 コウ ツヒミ ヒカル

寂 ジヤク シツカナリ

宴 エン ヤスシ

黙 モク モダス

嘿 同

林 リン ハヤシ シケシ

濟 サイ スクフ ワタス ワタリ

嘗 シヤウ カツテ ナムカシ ミル

嘗 同

睡 スイ ネムル

眠 ミン ネムル

軆 同俗作体法

便 スナワチ タヨリ

臣 ヤツコ

髮 ヒト

服 モチタキモノ キル ミタカウ

閑 ウツクシ ミツカヤリ ヒタカニ ミヤヒヤカナリ

靜 ヒツカナリ

欣 子カウ

捨 スツ

妾 ヨウナメ ミタカウ

須 同

服 同上

誦 ヨム ソラニヨム

往 ユク ムカヒ イヌ

宮 ミヤ

剃 ソル

髮 カミ

獨 ヒトリ

猛 タケシ

詣 ウツル ユク イタル

殿 トノ ヨクル

除 ノソク ミリソク ハラフ

被 フスニ カウフル ラル

迴 メグル カエル　廻

回　並同上

向 カウ ムカフ キタニト サキニ　顧 クワン ヲカフ

駟 シ 一乘四馬　馬 メ ムマ

欄 ラン 一干 二廿　楯 ジュン タテ

脣 同

蓋 カイ フタ ケタウ ヲホム ヲヘル ヲフタ

盃 同

軒 カン クルマ ノキ ノカエ ノキカウ

肉 ニク シシムラ

肉

月

宍 並同上

手 シュ テ テヲカフ

妻 サイ メアハヌ

頭 ツ カシラ カミヘ ホトリ

體 タイ スカタ カラダ カラワル カナラフ

躰

永 モトム

勝 カツ タエタリ

覺 カク サトル ケウ サマタル

略 リヤク ホボ サカリ

恒 コウ カツ ツネ ヒサヒサシ

或 ワク アルイハ

銀 ギン シロガネ

珊瑚 サンゴ 珠ノ名

真 シン サネ ニコヤカ

真 同

珠 シュ タマ

碑碌 ヒロク 玉ノ名

礒 ギ 玉ノ名

剛 ゴウ コワシ カタシ カタイ

斟 同

珍 チン メツラシ タカラ

珍 同

奴 ヌ ヤツコ

婢 ヒ ヤツコ

車 シヤ クルマ

飾 シヨク カザル

輦 レン チクルマ

輿 ヨ コシ タコシ

布 フ シク ヌノ

聲 ショウ コエ ナ

清 セイ キヨシ スム

出 シツ イツル スイ イタス

柔 ジウ ヤワラカナリ ヨワシ

奥 オウ ナン ヤウラカナリ

輿

軟 並同上

億 オク 十万 ヤスシ ハカル

深 シン フカシ フカ ル

令 レイ ヨシ ヨシ ツカサドル せしむ

講 カウ ツクル トク ハカリコト キヨム ヨニカウ

正 セイ タヾし ニサし

諭 ユ サトす

諭 同

開 カイ ヒラク トク ムル ス

悟 ゴ サトル

遭 ソウ アウ ラフル

苦 クルしむ ニカし ネんごろ

厭 エン イトウ しエタク

老 ラウ ヤイ タクル

病 ビヤウ ヤマイ

際 サイ アイ キワ カキル

福 フク サチ サイワイ

志 シ コヽロざし しるす

故 カ カエニ コトサラニ　栴檀 木ノ名　風 カゼ ホノカ ヲレウ　悅 エツ ヨロコブ

淨 キヨシ　部 ワカツ ツカサ ヤウル　快 ケ コヽロヨシ　然 シカリ モエ

金 カネ カタ コカタ　色 イロ　從 シタカウ ヨリ　頂 チヤウ イタヽキ

死 シヌル カハ、　惡 アク ワルシ イツクシ ニクム　惡 同　業 ゴフ ナリワサ コツ

受 ウケ　報 ホウ ムクウ コタウ　好 カウ コトシ コノム ヨシミ　醜 シウ ミニクシ カタチナシ

觀 カン ミル　演 エン ノフ　典 テン ノリ ノリ ノリ　微 ビ スコシ ホソシ

當 ニサシアタル ハシル
問 トフ
誰 タレカ イツレ タノ
答 コタフ タフ
親 シタシミ チカシ ムツブ ニノアタリ
近 チカシ チカコロ コノコロ
過 スグル トカ ヨキル
去 サル イヌ ニツ
必 カナラス サタム
應 シウ カナフ コタウ
鬼 キ シニ ホシ
咸 ミナ コトクシ
欲 ホツス ヨモウ ス
決 クエチ サタル サタム
決 同
言 コトハ イフ ノタマフ コト
悉 コトクシ ツヒラカナリ ツクス
國 コク クニ
疑 キ ウタカフ
莊 同
嚴 コシ イツクシ カサル イカシ
宣 セン ノフ シホ ヒロ コト ヒキラカス
莊 同
偈 ケ 具云伽陀 頌 偈文

緣 ヨル ハタ ヘリ

信 ニコト リアフ ニカス ニルシ

解 ケ トク サトル

貌 カタチ

般 ハツ タヒ タノシム ハコブ

涅 ネチ クリ

槃 ハン サラ

盤 同

後 コウ ノチ シリエ ウシロ ヌクシタリ

起 キ タツ ヨコル ヨク

七 シチ ナヽツ

塔 タフ 浮屠

作 サ ナス ツクル ヨコル

今 コン イマ

者 シヤ モノ ヒト イハ

神 シン カミ タマシイ アヤシ

變 ヘン カワル

何 カ ナンソ イツレ イカンソ

瑞 スイ シルシ

于 ウ ニ ヨノ ユヽシ

可 カ ヘシ ユルス ヤヽカウ

思 シ ヨモウ ヨモイ ヨモンハカリ

議 キ ハカル

事 ジ ツカウ コト ワサ

毫 サウ サヲナ

相 サウ カミナヒ タスク アウ キル ミル タ

照 セウ テラス

炤 同

東 トウ ヒガシ アヅマ

方 ハウ カタ ヨフ タクラフ ホウ ノリ

靡 ミ ナビク ナヒク アラス ズ

周 シウ マワリ メグル

遍 ヘン アマネシ ヒトヘニ

徧 同

下 ケ シモ モト クダル

至 シ イタル キワマル

鼻 ヒ ハナ ハシメ

地 チ ツチ カワル ヤスシ

嶽 コク ヒトヤ ウタエ

吒 タ イサウ イカル

見 ケン ミル アラワル ミエ

土 ト ツチ

趣 シュ ヨモムク スミヤカ トル

又 ウ マタ

現 ケン アラワル イマ ウツ

幷 ヘイ ナラヒ

行 ギャウ ユク ヒク ヤコナフ ツラ ギタチ

道 ダウ ミチ ハ ハシル

散 サン アラフ
上 ジヤウ カミ ノボル ホトリ
及 キフ ヨフ
種 シユ タネ ウエ

震 シン フルフ
會 エ アウ カナウ タヅ
塞 ソク フサグ メコ
夷 イ エビス タヒラグ ウスイ ヲボロク チイヤシ スコシ ヲサナシ ヒナル

燾 同 和俗
夜 ヤ ヨル ヨワ
非 ヒ アラス ソシル タカウ
小 セウ チイヤシ スコシ ヲサナシ ヒナル

亦 同
聖 シヤウ ヒジリ 聖人
未 ミ イマタ スエ イマタシ
曾 ソウ カツテ ムカシ マシ ヲ

歡 クワン ヨロコフ
喜 キ ヨロコフ
合 カツ アウ カナウ カフ ハコ ヘシ
放 ハウ ハナツ ヤル ホシイマヽ

眉 ビ
眉 同
開 カイ アイタ ヘタツ ハシ タ
白 ビヤク シロシ シロクナル シラケル ニウス カシラ

讃 サン ホメル　賛　贊 並同上

乘 ジョウ ノル ノリモノ　義 キ ヨシ コトワリ ヨロシ　教 キョウ ヲシヘ ノリ ミチ　護 ゴ ニホル モル

濩　護 並同上　念 ネン オモウ　此 シ コレ ココニ

跏 カ アサウ カサネアシ　趺 フ アナウラ　處 シヨ ヒト ヒニ ヒカ ヒル サタム　処 同

昧 マイ メクラシ　動 ドウ ウゴク ユスル ヤモスハ　雨 ウ アメ フル　曼 マン ナカシ トツシ スヒ

曼 同　沙 シャ イサゴ　砂 同　南 ナン ミカノモ ナミ ミナミ

雅 イトヤカナシ チイサシ

脩 ナカシ ホシヽ ツサム

佞 神名

寒 ソヒロル カヽタリ ヤヽ

慫 同 上カ アヤマチ

眺 タスク アツシ

質 ヒチ スカタ スエツナリ タヽシ

威 ヲトス カシコシ

意 コヽロ ヲモフ

韋 ヲシカワ

希 ノレナリ マカウ

禮 ライ コトワル ウヤマフ スカタ

礼 同

足 ソク アシ タレリ

坐 サ ヲル スエ ツミス

面 メン ヲモテ ノアタリ ムカフ

面 同

尊 ソン タフトシ ヲモシ タカシ

圍 イ カコム

繞 ヂウ メグル

遶 同

恭 ク ウヤヽシ

敬 キヤウ ウヤマフ

重 チウ ヲモシ カサナル

孱 ヨワシ 麥ー

主 ミヌシ サヒヤ ツカサトル ヌシ

尸 カハラ ツカサトル

棄 キスツ

明 ミヤウ アキラカナリ アス

明 同

龍 リウ タツ

跋 ハツ フム モト

咊 ワ ヤワラグ カタル カタス

咏 同

吉 キチ ヨシ

叉 ミヤ アサウ

斯 シ コレ コヽニ カクノゴトシ ヨレタリ

鉢 ハチ 食器

盍 同

各 カク ヲノ〳〵

干 カン ソコハク

若ー 野ー コキツ子 タチ ホス ヲカス アツカル

緊 キン キヒシ

特 チ モツ タモツ

乾 カン メラ イヌイ カワク

乾 同

鬪 タツ コカト

美 ミ ヨシ ヨイ ミ

寶 タカラ　掌 タナゴコロ ツカサドル　樂 タノシミ クスシ　勇 イサム

施 ホドコス ヨコナウ カヒル　月 ツキ　光 ヒカリ ミツ チル　晃 同

滿 ミツ イ タレリ　力 チカラ ツトム　越 コエル ヨツ　飯 トキカセ ハツ

勢 ヨモツラ ロウ　積 ツモル ツム シヤク　道 ミチ タウ　介 ナカル ナカル ニ

爾 同　釋 トク スツ シヤク　桓 木ノ名又華表 クワン　因 チナム ヨル イン

天 アメ ツラ ヒタイ テン　香 カウバシ カ カウ　鄭 同　四 ヨツ ヨモ シ

智 サカシ サトシ　到 イタル　彼 カレ カシコ　岸 キシ タカシ ヒトヤ

普 アマネシ ヒロキ　世 ヨ ヨヽ　世 同 ツキ　界 サカイ

能 ヨク タクツル　度 タビ タク ハカル　數 カス カスウ シバク　生 イケル ウミル ナマシ ナル

文 カザル フミ イロトル アヤ　殊 コトナリ　師 シ イクサ ノリ　觀 ミル ミノヒウス ミモノ

音 コエ ヒト ネ　勢 セイ イキホイ イカメシ　熱 ネツ　懇 亜同上

精 クワシ シラフ タマシイ　進 シン スヽム タチマツル　休 ヤム ヨシ　息 ヤスム イキ

百 モヽ 十十　殖 ウエタツル　植 同　德 メグミ サイワイ

本 モト モトヨリ　常 ツネ ノリ　爲 ナス タメ ヒツサ　之 コレ ユク

稱 ホム ノリ　秤 同　歎 タヽ ホム ナケク　嘆 同

以 ヨモ モテ ヒキイル　㠯 同　慈 シ ウツクシミ　修 ヨコナウ ツクル ミ

身 ミ ハラム　善 ヨシ ホム　美 同　入 ニフ イル

慧 エ サトル ヒキラム　惠 同　通 ツウ トヲル カヨウ　達 タツ イタル トヲル サトル

毋 モ ハ イロハ

輸 ユ イタツ ミスク ニク

亦 ヤク ニタ

糸 同

薩 サツ スクウ

八 ハチ ヤツ ヨウカル ヨウ

於 タ ヨイテ

扶 同

耨 ノウ スキ スキクル スキギル

三 サム ミツ ミタヒ

藐 ミヤク トシ ハルカナリ クサ

邈 同

不 フ アラス ナイナヤ

退 タイ シリメク

轉 テン メクル タタヘ

樂 ラク ヲカウ ラノカク タノシム

說 セツ トク ヨロコフ

辯 ベン 言

誓 同 ゼイ

才 サイ モチ井ル ワツカニ

輪 リン クルニ メクル

供 ク メタ

美 ヒ ヤシ ヤシナフ

量 リヤウ ハカル ハカリ

薄 ハク ウスシ セマシ 拘 ク カヽハル 絺 チ ムスフ カタビラ 難 ナン トカ カヽミ ナツム ナヤム

陁 タ 佛ー 陀 同 孫 ソン マゴ 富 フ トミ サカヘ サカヘル

弥 ミ イヤ〳〵 ワタル 尼 ニ アマ 子 シ コ ネ ミ 須 シュ スカ モト ムラ モチウ

善 ゼン ホ アヽ ヨシ タヤ 睺 コウ 半盲 所 ショ トコロ 所 同

知 チ シル トモ 識 シキ シル ミシル ミルス 等 トウ ヒトシ ヒラ ナ 學 ガク マナブ

眷 ケン カヘリミル 屬 ゾク タグイ ツク 屬 同 六 ロク ムツ

加 カ 僧ー

耶 ヤ カ チヽ

那 ナ ナヒヨ イタヲチ

提 タイ ヒサク ツム

弗 ホツ ワヲ イチ

目 モク メ 元 ナツク

犍 ケン ウし 牆牛

連 レン ツラナル ツヽク

旃 セン コし ハタノ柄

檀 同 ハタノ名

延 エン ノブ ヒク

兜 ヌ ウサキコ

馱 タ ニタイウニ

劫 コフ カスム ヲヒヤカス

賓 ヒン シタガヒ ニラサト キタル ムカウル

梵 ボム ニヨし

波 ハ ナミ

離 リ ワカル ハナル ミナレニ

婆 バ ウバ

多 タ ヨヽし

畢 ヒチ ヨロル コトヽク ナし

陵 リヨウ ミサヽキ

蹉 シヤ ツヽツク タカウ

遠 得 已 利

有 結 心 自

在 其 名 曰

若 惰 陳 摩

詞 呵 同又笑声 迦 釋 葉

優 懷 願 纓

大 タイ 多イ 多サ 多ハ 多タ

比 ヒ ヒ ヒ ヒ

丘 オカ

樂 ラク モロク

万 マン 十ヨロツ 十千

萬 同

一 イチ フタツ ツキ カサス カサス

千 セン 千、十百

人 ニン ヒト サヒ タミ

俱 ク トモニ

皆 カイ ミナ

阿 ア クマ ヨミ ヨミ ヨミ

羅 ラ アミ カヒ ウスモノ

漢 カン ソラ アヤカウ

諸 シヨ モロク アラス

漏 ロウ モル

祀 シ スエ ヤム

蠱 コ ツク ヒトク

無 ム ナシ イナ

无 同

復 フク フタ カエサウ

煩 ハン ワツラウ シケミ

惱 ノウ ナヤム

惱 同

華 ミヤコ 華 花 同

序 ツイテ ヒサシ 品 ホシ タクヒ 第 ツイテ タルハ タハ 一 ヒトツ モハラ ハヒく カタキナシ 經 ツネ クレ イキ

如 ユク コトシ モシ ゴク 是 セ コレ タシ ナリ 我 カ ワレ 聞 モシ キク カタ キ 文

時 シ トキ コシ ヨリく 佛 フツ ホトケ 住 チウ スム トニル 王 ワウ キミ スヘラキ

舍 シヤ イエ スツ 城 ジヤウ ミヤコ キツク 耆 キ ダキナ 八十ロー 闍 シヤ カニナ 堀門臺

崛 クツ イロヤ クラ 山 セン ヤマ ノニル 中 チウ ナカ ウチ アタル 與 ヨ ト クミ タメ アタフ ワタカル

法華經音訓
序品
善法堂持法門菩薩
妙法蓮華經

法華經音訓

一期記 全

帝数二十四丁

德治二年四月十二日 大々上入滅

觀應二年正月十九日 大上入滅

應安六年二月十八日 存覺入滅 八十四歳

慶安二稔季春吉旦
中野小左衛門開板

慧啟

教 古文 鐵 鐵 古 銕 古文 靈 上 靈 同 內 同 上 上 下

下 凤 個 同 觸 角 同 靈 靈 整 整 厚 厚 古 偓 文

豫 預 畫 畫 三 畫 上 南 卒 古文 卷 卷 同 磎 奚 上

華 華 上 中 古 申 文 爭 爭 古文 亦 亦 俗 缺 缺 缺 上

殺 殺 殺 糞 糞 覽 學 野 埜 並 墅

妙　杪　奴　攸古文　嬾　懶　濟　湄　淦　濟上同　漆　涼

滴　澶　適　莊　莊俗　累　纍　奚　哭上　筭　算

天　兄　茂文古　暖　煖　暖上　倣　放　備　脩　任　汞古文　便

仙古文　倆　倆上　凤二　畣　荅上　荅二　壞　敷上　堂　堂古文　陝

陝上　狡二　閃　閃上　閃二　盆　盆　往　徑古文　熏　熏　熏上　熏二　灾

擁上　雍二　斗　斗上　將二　子　學古文　彫　雕上　體　體上　躰二

道　道古文　斷　制　制古文　敢　敢上　啖二　喻　諭上　啼　啼上　啼二

續自和々他心平等是則眞供養佛々子
住此地則是佛受用云云

南無妙法蓮華經

法華經肯義下　　小比丘　心空記

應安庚戌曆大旨中浣

慢諸餘法師不説他人好惡長短矣手經
卷ヲ乇時殺生等罪障自滅ル口經典ヲ誦スレハ
惡口各忽息意經文字念スレハ三毒五欲
ヲコヲスニ業清淨十ヒ十惡悉滅ス毘盧身
土凡下一念ヨヘ乇カ故讀經一念則チ成佛
道場ナヒ聲塵行業ヲツカラ諸佛本初也此
功德モテ一切衆生回向二六時中念々相

此經、就釋作人師十九餘家、り此中盛世傳、天台（名玄文各十卷）紀国（名讃定）嘉祥（名義記）慈恩（名玄賛）此四家教法利鈍通利益无邊故、尤学スヘシトイヘ、宿習、因縁ヨリテ讀誦行信人、佛法浅深評量智恵ヲ学ヒ始ヘカラス、人来此經意、イカニト問、不知云、嘿スヘシ、經云、若讀經時、不樂説人及經典過亦不輕

也、加糸者、非也、廣横闊也、如是諸字、准知、

𣪍生死軍 𣪍古壞切、敵也、加刀之字作壞誤、

郁憂六反、

頻烏曷反、

泯無恐反、無二反、

已上、大師御筆如斯、

何平聲、篇云、胡可切、克負平哥切、辭也、

儋丁談切、任也、何也、

終子容切、雖也、

如海一滴 仏所譯仏華經云、如海一滴、

手切、發也、

如掌 一云、佛手、一云、海底石名、

讀經用心夏

字一流ニハスミニノヨメリ或流ニハゴレヲニヨリテヨム是等ハ何モ相違ナキ支也先師アヤマリニアラス或又平聲ニヨムヘキ字ヲ他聲ニヨミ他聲ノ字ヲ平声ニヨミタルモ上古ヨリ久相傳来レル支雖スヘカラス

弘法大師御自筆經云

何儋上胡可反下都耳反今經多作荷者乃蓮葉耳儋字惑加木者此乃闇或都濫反非經所用義宜訓音上聲今多作肯無所出也從廣上足容切堅長

下人多也、上根上智人、一字以諸字義ヲ知リ文字相違ヨリテ迷惑アルヘカラス、次又今經悉具音本スレ𪜈、少々漢音ヨムトコロ具アリ、不可英之具漢兩音堅ホリ、形音義ヲ委各別スル文、文字大旨カトイヘトモ、又少相傳不同ナル文大ナルトカニアラス、假令一流、乾闥婆ヲ三テヨメ𪜈或流ニヨリテ是ヨム、辟支佛辟

〈カラス、次ニ音ニ付テ法字ヲ法華經連時ハ只ホトヨムヘシ、
嬾字ヲ嬾惰時ハラトヨム、他音屬自聲連聲次
四字ヲ四月ト連ル時空点ニハ子テヨムヘシ是ハ自音成
他聲也、次ニ六書中ニ假借法アリ、コレヲ字義各
別ナリト、雖〈カラス、又大師先德書キ玉ヘル文字
中ニ少々、畔篇ニ么キ名ル夏アリトイヘ𪜈、凡夫淺
智ヲ以テ難ス〈カラス、文字ニ形音義ヲ各別定ル中

訓ヘカラス、

○文字ニ就テ形音義三同異ス

一切文字ニ形音義三各別ナリトイヘドモ亦形異音同義異アリ、能字ヲタイトヨミテハ三足カメノ名ナリウトヨミテハ辭也、邪耶形音各別ナリトイヘドモ同一字異形兩音也、本夲多ハ一字邪耶各別字思ヒ平篇廣韻非文字形論

間成シテ後光音天色界欲界ニ各々五天生ニ
来テ四姓元祖ノ是南鵶羅天名此ノ文ニ五面
頂上ノ一面シハラク置テ四面四明ノ説後面ニ説ル
聲明梵字名ト此梵語ハ一字多含ナリ故翻名ヲ
モテ義理知ル也漢語コトク断簡共文義相
違スヘシ今經ニ載トコロ梵語多悉是出アタ
ワス梵魔刹那佛僧此等字翻名ヲモテスレルヘシ

音ヲ付ル寛大師御点ニシイトアリレイヲ反音スレハリナルカ故ニ同夏也湿字上句末ニヨム夏連聲ヲシラサル人所為歟ナニヌ子ノラリルレロ同舌内聲ナリトサヘ圧ニリチニハ多分学者相傳也是ヲ信スヘシ

。梵語夏

。梵語者梵王所製文字也成劫始国土世

今經陀羅尼音ニ付異義一千〻ナリトイヘ𪜈多
分通同音本トスヘシ但世流布ヨミキタレル中ニ
咩莫者切羊鳴音ミヤヒヤノ音也三藏相傳趣ナリ
メイトヨム時銘字也本紙不空兩三藏所傳
也用否学者心任スヘシ又キヤ音延促也何モ相
違ナシ僧伽ソウキヤ涅瞿ネクキヤ沙祢シヤネ涅隸ネイリ第涅槃ネハン婆底
常求利涅伽陀尼涅隸点諸流眞言皆ニ

兔 阿兔樓駄 阿兔伽地

懷 有懷 懷妊

履 履水如地 履履

駞 託落二音

般 般涅槃 般若

適 適從三昧 適其願

霞 霞自念言 遍霞一切

傾 傾 傾問

若 若有人 阿若

帝 帝釋 自帝

傾 刹除 除履刹

嘔 嘔二音

滴

方 方便 醫方

殺 當見殺 如殺父

納 納受 納衣

提 菩提 伊提履

友 三及 友迭

垂 願垂納處 垂得阿

敵 二音

但 但河沙 但為一切

樓 憂樓頻 樓問 兜樓婆

樂 歧禾 世禾 禾着

差 不差不曲 差別 憂不差

舍 舍門 阿那舍

產 孚乳產生 安禾產福子

泯 三ㄈㄩㄣ二音 又死二切

展 博 山門 博南都

法華經音義下

第二篇目類聚畧之

異音字

無 無量 南無

度 度量 能度

惡 善惡 惡罵

復 還復 復次 如故

數 數聞世尊 无數

出 出入 出內

已 諸漏已尽 嬉戲不已

乾 乾闥 乾土

內 內外 內出

葉 迦葉 夜葉

地 夫地 阿擅地

切 遍切 牡二切

十四聲廣韻與注之十六聲或書中注之

問或人云有十八聲亦二聲云云有誠證耶

答未勘先德相傳證據末学私義立欤不足信用者也凡文字即解脫聲字實相法

門者聲明業一大支也委可尋明師

法華經音義上　　比丘心空

貞治乙巳暦上春下澣之候於元應寺記之

四聲圖

六聲圖

上重去重平輕入重平濁輕音

十二音圖

非輕非重四四音也
重四輕四八声也

少分差異アリコレヲ分別シテヨムヘシ

一釈迦者闍崛山薄拘羅涅槃烏摩勒伽第子須蔓那闍提佛慧至於一月四月護法已上先德御點也是即五音相通連聲法也

種連聲也此中他音屬自聲自音成他聲二種
讀經要樞自音成他聲上下字相連時下字空
點涅槃點等上他字音屬音
自聲小音便ヨリテ上字音下ニヲサメ下字音
上ニ升ル亥アリ不可謗之諸經陀羅尼件連
聲アリ是不知人文字ミニヨミテ多アヒレ十リ
又今經陀羅尼羅什多幣不空三流相兼

○直音切音　○牽歸賣魚右直音左切音

一切文字此二音アリ不可難之

○連聲　○連聲ハ上下字相連ヲ時法聲

明肝要也先二種用音アリ兼顯聲四種連聲

二奠密聲四種連聲四種連聲ハ第十五章

聲三內連聲二加他麼多聲三內連聲三自音成他

聲三內連聲四他音屬自聲三內連聲已上二十四

聲反音ニヨラスシテ一字ヲ云時ニ必ス上ノカ十八清濁ヲカ下ノカ十八低昂等ニヨリテ四聲ヲ定ル也委ハ如反音抄

一假借変　字義各別ナリイヘ尼音同ジ借用ル法今經加跏通用ス從縱通用ス又音義共ニ各別ナリトイヘ尼字形相似ヒヲ通用スル法須復通用ス亦本通用ス可禁之

隨緣不變二種真如教相二字合一字生上字始カ十アル五音内下字始カ十響同カナニ終カ十ヲヨミ合スレハ所反字成下字一借名即響同一借名反也　輕重清濁依上字平上去入依下字直反看三タ千ツ十

徳　紅韻　倒飜成四徳字スメカ故東字スメリ東聲韻和合紅字平聲故東字平

聲妙漢音吳音漢音平聲吳音去聲也東吳音漢音

如此吳漢音多顛倒シカヒ今經ニ吳漢同字

平上去三聲百餘字アリ

吳漢少分同故十リ入聲吳漢多分同故ニ

不能注之又一聲各四聲ノ具スカニ故四々十六

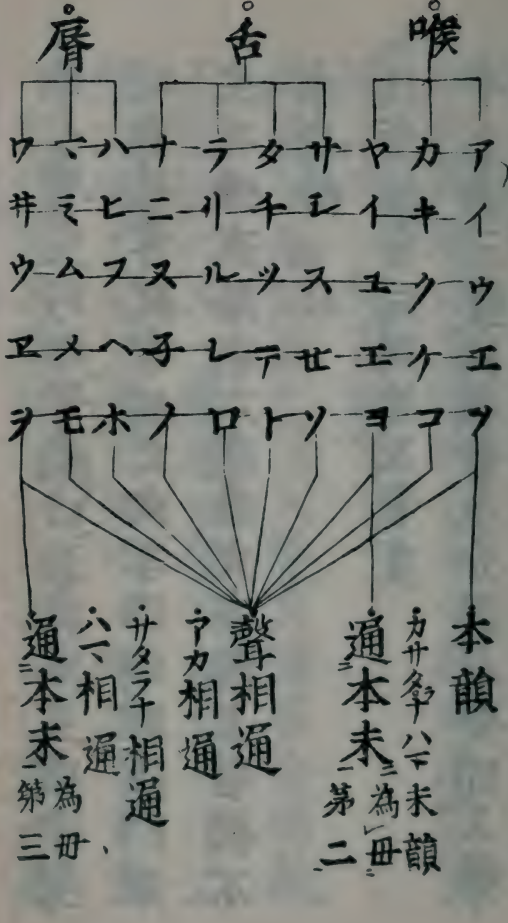
聲師傳アラスハ不可知之云云次ニ反音ノ人

一字諸字ニ反作シ諸字ノ一字ニ歸納スル法度ナリ是則

。喉舌脣三內加牙齒曰五處字五明中聲明悉曇字紀中明之文字即解脫法門衆生成佛直路也六塵悉文字無上菩提不求自得云云

。一吳音漢音同異并反音支

。平上去三聲吳漢音多分異少分同入聲吳漢多分同少分異仍吳音平聲漢音去


喉
舌
脣
韻相通
ア カ ヤ サ タ ラ ナ ハ マ ワ
イ キ イ シ チ リ ニ ヒ ミ ヰ
ウ ク ユ ス ツ ル ヌ フ ム ウ
エ ケ エ セ テ レ ネ ヘ メ ヱ
オ コ ヨ ソ ト ロ ノ ホ モ ヲ
本韻
カサタナハマ末韻
通本末為冊第二
聲相通
アカ相通
サタナハマ相通
通本末為冊第三

定圓

三內五音互具相通圖

舌
本 末
二四相通 イ エ

唇
內 外
三五相通 ウ ヲ

唇

モ 三字 毋无無〈モン〉五字 問悶門聞文〈モウ〉一字 毛

〈モノ〉四字 勿物沒歿〈モノ〉四字 目黙墨木

ワ 三字 汚和窊〈ワウ〉七字 往誰惶横狂王黄〈ワノ〉

一字 曰〈ワノ〉二字 或惑

舌

井 十三字 位謂慰畏委萎葦瑋為葦圍威違〈井ヤウ〉

四字 永詠營榮〈井ヨウ〉一字 癰

卍 十一字 慧惠畫會懷瑰穢衛壞膾回〈エン〉三字 蜿

每邁米賣〈ㄧㄚ〉四字 末沫抹秣〈ㄧㄛ〉二字 莫寞

三字八 美味未魅弥微靡眉〈ㄧㄠ〉三字 愍民泯

〈ㄧㄚ〉一字 咩〈ㄧㄚㄨ〉八字 命猛鳴冥瞑顯名明

〈ㄧㄚㄣ〉二字 藐覓〈ㄧㄝ〉三字 窩蜜擂

唇 ㄇ 九字 茂務夢蒙某貿牟無无

舌末 ㄨ 三字 馬罵碼〈ㄨㄚ〉七字 妙眇聲苗謬貌廟〈ㄨㄣ〉

六字 面麪眠免勉酒〈ㄨㄟ〉一字 迷〈ㄨㄝ〉一字 滅

舌末

ㄅ 十一字 匾膴遍反返變辯辨便遍徧 ㄆ 三字 表漂飄 ㄇ 四字 蔽陛閉弊 ㄈ 二字 別 ㄉ

唇

ㄊ 三字 慕暴菩 ㄋ 十二字 品稟本梵犯反販奔煩 焚氾凡 ㄌ 五字 寶報方保崩 ㄍ 一字 法

ㄎ 六字 發髮醉燔弗拂 ㄏ 四字 北僕乏撲

喉

ㄐ 四字 摩麻魔磨 ㄑ 七字 万萬滿慢曼蔓幔

ㄒ 八字 忘盲妄蟒崩望網魍 ㄓ 六字 昧玫

婢鼻尾鞞悲非履毗泯（木審）（ヒン）九字 儐擯纊頻
顰嚬泯賓貧（ヒヤウ）八字 平得病兵並并屏瓶
（ヒヤウ）五字 百辟壁白蹠（ヒヤク）五字 畢必逼筆匹
三十一字 敷趺怖腐孚附付布覆普浮捕諷膚
負蒲阜富復父部舞奉豊蓬峯歩不夫婦
風（フン）五字 紛奮分糞塋（フツ）一字 佛（フツ）八字
福覆蝮腹服蔔伏復

ㄅ

ㄅㄛ 二字 膿能 ㄆ 一字 納 ㄇㄛ 一字 糅

八字 破琶把叵波頗婆皤 ㄈㄚ 五字 半般槃旛

喉 ㄅ

皤 ㄅㄛ 十字 放謗方舫泡傍旁坊房鮑 ㄈㄟ

十字 拜背廢輩敗排倍呸唄貝 ㄈㄛ 九字 薄迫

爆珀陌摶縛雹 ㄅㄨㄛ 八字 八般鉢拔跋颰罰

伐

舌 ㄅ

二十字 彼譬秘被肥臂誹鄙飛避圮卑比琵備

合

二八字 耳二尒而臧児尼抳 ㄇ三字 女汝如

ㄋ七字 忍潤任妊賃火仁 ㄋㄅ二字 栗乳

ㄋㄚ一字 若 ㄋㄚㄅ一字 寧 ㄋㄣ一字 入 ㄋㄧ一字 月

ㄋㄌ四字 肉 厚 褥 褥 ㄋㄌ二字 若 弱

又二字 奴 ㄋㄨ一字 内

子 ㄗㄅ七字 遶 繞 鬧 尿 鐃 燒 饒 ㄗㄣ四字 念 然 燃

年 ㄗㄧ一字 拾 ㄗㄧ二字 涅 熱

唇 ㄅ 五字 樓留瑠珋 ㄅㄧ 三字 類累羸

舌末 ㄌ ㄌㄨㄢ 八字 戀輦變攣連蓮憐練 ㄌㄠ 三字 繚了

唇外 口 潦 ㄌㄧ 一字 隸 ㄌㄡ 一字 獵 ㄌㄨㄛ 三字 列裂劣

漏露驢樓爐盧路鑪 ㄌㄣ 一字 論 ㄌㄤ 一字 樓

ㄌㄥ 四字 六勒鹿陸

喉 十 一字 那 ㄋㄧ 三字 內柰乃 ㄋㄨㄟ 三字 惱碼腦 ㄋㄣ

六字 耎煖軟難南男 ㄋㄤ 一字 納

良〔ライ〕六字 禮雷來賴戾睞〔ラン〕七字 亂嬾攬
蘭卵藍欄〔ラク〕五字 樂落珞絡駱〔ラク〕一字 鑼

古リ

十三字 利里離梨璃貍吏犁裏隸詈履鸞〔リヤ〕
一字 畧〔リヨ〕二字 慮梠〔リウ〕一字 龍〔リン〕六字 倫惀
隣輪林臨〔リヨウ〕二字 聾陵〔リヤウ〕十二字 量領梁伶
兩魎涼冷靈泠鈴泠〔リヤク〕三字 略歷礫〔リキ〕
一字 力〔リフ〕一字 立〔リチ〕二字 慄律

纏〔テイ〕十字 低剃泥涅滯滌第滴帝提〔テウ〕七字 潮兆鳥超彫調鵰〔テツ〕一字 鐵〔テク〕二字 氈

輙〔テキ〕一字 敵

唇外 ト

十字 覩妬嵩度土渡都屠計塊〔トウ〕十三字 等棟

逗鬪動蹬同銅東燈僮童憧〔トン〕四字 頓鈍

貪曇〔トク〕六字 得德獨毒讀特

喉 ラ

六字 嬾羅螺裸裸邏〔ラウ〕七字 浪老牢狼蜋勞

底沿特（千ウ）十一字 綢鍮柱晝虫蟲注住重中籌

杠（千ン）六字 展沈珎陳塵陣（千ヨ）二字 猪除

（千ヤウ）十三字 頂負聽暢騁悵張長定打場丈扶

（千キ）一字 直（千ク）三字 竹畜逐（千ヨ）二字 刎濁

（千ヤウ）八字 適笛塼擲滴畝著擇（千ツ）一字 褒

辱 ツ

字二 頭塗（ツウ）二字 通痛（ツイ）五字 墜追椎堆槌

（テン）十四字 轉展諂點典殿傳電天顛田掾畋

諦體退怠帝剎泰戴頻鞬太啼第地大膊
厖胎臺待提逮〈ㄆㄢ〉二十一字歎嘆坦短單彈黠
妧肮擔憺祖毀斷但冊且亶端瑕檀〈ㄆㄣ〉
十七字到倒當唐擣導道盜萄黨稻刀討湯惰
堂〈ㄆㄤ〉三字塔荅蹋〈ㄆㄥ〉四字宅馱澤度〈ㄆㄡ〉
五字達闥脫咄奪

古千十八字智地締值知癡馳稚褫魑致池置緻墀

搊掣劒〈ㄝㄅ〉九字 說刹切設竊抓舌絶殺

〈ㄝㄱ〉五字 葉摄接妾嗟

唇 ㄅ

九字 疽酢踈祖鼠煮麁楚蘇〈ㄅㄣ〉五字 損蹲孫

尊存〈ㄅㄨ〉十二字 聚窓聰送總走藪僧曾增憎

繒〈ㄅㄟ〉十五字 則足即息塞速側數觸屬噣續

族俗賊〈ㄅㄠ〉二字 率卒

喉 ㄆ

十二字 馱墮惰多哆祂吒埵茶荼陀駝〈ㄆㄟ〉二十二字

十一字 質七悉失柒嫉疾室膝瑟實

〈ㄨㄧ〉十七字 捶衰邃出脽醉瑞髓水吹垂誰推

雖遂悴隨

三字 世施是〈廿ㄅ〉三十八字 贍苫仙泉鮮淺賤癬薦

穿闡戰撰舩羼尠產踐羶漸染饌善膳川

平山姍粼宣輒全旋專禪前先箭〈廿ㄅ〉十一字

小少詔憔瘠簫燒抄消笑照〈廿ㄉ〉五字 勢逝

清庄將尚檣醒唱青精床賣傷壯聲城成常盛誠讓狀靜商嘗（一字）八證勝昇悚稱繩羹棄（一字）七捎順忖旬純淳村（二字）二十積籍菁石赤錯責鶺嚼捉索借席適釋藉錫尺惜鑿寂鉦（一字）八識測式色殖飾食植（一字）一出（一字）七執濕澀集習十拾（一字）三宿縮熟（一字）五感夙閔叔蹙（一字）

遮賒琿斜邪蛇〈二十五字〉審針侵進震信脣
盡迅訊甚心親薪瞋新辛慎真身枕深尋
神臣〈三十五字〉鬢手醜數主取趣守臭瘦首
囚皺救咒授受聚樹就壽鷲澍獸酒銖脩
修周須殊珠姝愁〈十三字〉腫種鐘衆誦頌
訟宗終充縱從聚〈四十五字〉政正詳請性掌
聖障鄣整姓慞上銓淨爭諍章賞星情生

古

薩撮察

五十八字子覘指熾已賜羌肆斯此四死止使疵

始次駟呰恣滋垂紫齒氏伺玭訾積殺字

自事示鉼詞侍寺特士似支私簇枝屍思

尸之志師鵄屎資肯時慈至ヨ十三字處所

疏詛序助徐煑鼠初諸咀書ヤ二十四字者捨

寫舍閣又蹉蔗莎杈沙娑車擅灑渭且羌

マサ

唇 ヨ

勇〈ユイ〉三字 惟唯維

四字 與興豫餘〈ヨウ〉三字 用傭容〈ヨク〉二字 欲浴

喉 サ

九字 作佐左坐挫鑠座擅痤〈サン〉十字 讚珊散

筭暫三慚竄餐殘〈サイ〉二十六字 際齟妻濟賚採

歲齟切宰采斉細差載綵在罪灾西最哉

戈杖戝摧〈サウ〉十七字 倉想澡草相藏像象奢

燥桑遭喪糟朮抄造〈サク〉二字 逓雑〈サツ〉三字

建近欣勤覲獻健恨今釜根紺懃言銀嚴
舍筋困權〔コウ〕五字矜興肯溝恒〔コツ〕六字欽
骨忽頃訖乞〔コク〕十二字曲国剋谷械黒穀棘
刻哭獄椽〔コク〕二字刼業

喉ヤ　脣ユ

五字夜野耶也冶〔ヤウ〕六字養盈瓔纓羊揚
〔ヤク〕七字亦藥益躍易厄鑰
十六字踊牖誘愈喻逾俞油更猶由遊蚰鰍湧

ㄅ 屋外

交鳥校憍曉膠叫肴〈ㄠ〉二十八字見顯肩遣險
嫌褰甄嶮撿眼限現澗減間揵堅慳兼乾
憾牽謙閑賢咸顏〈ㄧㄢ〉八字醯諳懸谿啓桂
雞繼〈ㄐㄧ〉一字狡〈ㄐㄧㄠ〉三字結絜齧
四十三字已故去舉雇怙古乎呼渠許佑賈固後
語護吾梧御五居枯戶狐巨炬踞虎厖庫
孤魚瞧篌瑚蜈其牛互娛欺誤〈ㄨ〉二十字騫

鬼跪龜毀危匱貴卉愧偽巍歸〈ㄅㄨㄟ 三字〉空

瑩官〈ㄍㄨㄢ 十三字〉觀勸灌卷歡願喚桓官冠蚖

玩尤〈ㄍㄨㄢ 五字〉廣纊曠晃光〈ㄍㄨㄤ 三字〉頃傾迥

〈ㄍㄨㄥ 二字〉懷憒〈ㄍㄨㄟ 三字〉嵎窟屈〈ㄍㄨㄣ 四字〉決缺

宂血〈ㄍㄨㄝ 二字〉活月〈ㄍㄨㄛ 一字〉郭〈ㄍㄨㄚ 一字〉獲

二十三字 戲假繫計瑕髻卉贊氣芥價解下偈懈

礙稼飢稀家希雅牙〈ㄍㄧㄚ 十三字〉教孝樂巧絞

古宋 十

給急泣及汲〔ㄐㄧ〕一字掬

四十四字 膈軀咎傴垢休究苦朽孔敖驅舊恐函兎吼口久鼓琥句供懼共具丘俱箜功狗

衢鳩九菉蚣瞿躬求愚遇窮弘〔ㄍㄨ〕十一字 悔快誨罣魁恠外崔華化花〔ㄏㄨㄚ〕十一字 眷惓倦

蠲衒券患還原關懸〔ㄏㄨㄢ〕八字 果菓火鴿瓦

臥寡過〔ㄍㄨㄛ〕七字 訓勳薰熏群君軍〔ㄐㄩㄣ〕十二字

〈カフ〉五字 甲怯合洽鴿〈カク〉十字 覺各角閣脚
謔壑額學愕樂〈カツ〉三字 竭渴蝎

〈キ〉舌

二十七字 喜基記紀嬉意枳起棄義伎妓窺器幾
冀既豈机奇儀毀（歸イ）粃宜議菅疑〈キン〉五字 緊
胗琴禁禽〈キヨ〉二字 魚（漁ヒ）敏〈キチ〉一字 吉〈キヤク〉二十字
敬竟慶驚競傾鏡況行莖輕坑逕謦更頸
經形荊刑〈キヤク〉六字 擊劇脚客却逆〈キフ〉五字

怨息音〔ヲウ〕四字 蕉蘿擁雄〔ヲン〕一字 邑〔ヲン〕

三字 億憶臆〔ヲツ〕一字 越

喉 力

十六字 可我餓訶跏袈荷迦枷歌珂駕加河枷

何〔カイ〕十三字 戒海界械宮皆開蓋欬咳鎧

駭〔カイ〕十六字 漢寒感敢岸顔龕坎肴干軒乾

艱堪耳含〔カウ〕二十字 響向迎好幸講巷厚仰

强毫告号江香糠高槁蟯嗥皐剛恒降豪

ウ 唇

育〔イ一〕五字 引卯曰嬈苜〔イ二〕一字 郁〔イ十〕三字 一逸溢

十四字 有又傴右滬友郵歐亍優憂寫嗚雨〔ウ一〕

二字 雲云

工 亡集

二字 衣依〔ウ丂〕六字 要曜幼遥揺幽〔ウ一〕十八字 厭餤

焰掘蜒綖筵咽莚捐烟演延蜿縁關鉱宴

〔ウ一〕二字 鋭裏〔ウ冂〕二字 壓葉〔ウ冫〕一字 悦

辰外 ヲ

二字 於恵〔ヲ一〕十三字 脊隈穏隠飲遠洹園慇綩

法華經音義上

心空記

ア經單字一千七百八十有餘兩重集為二段初三內類聚後篇目類聚

△初三內類聚 吳音

ア 喉

三字 阿痤頻 ア 六字 庵暗闇掩安案 ア 一字 頻

イ 舌

四字 愛鬚哀隘 ア 四字 央奥殃懊 ア 一字 恵

十二字 已以異意悉姨夷移伊矣易醫 イ 一字

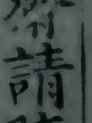
法華音義

化緣重刊板置慧峰龍吟庵

江州塩田郡八幡宮七左衛

九丁卯佛成道日空華道人為

約齋請隨喜而題



善法住持沙門　心空校定

東山隱衲釋　祥英繕寫

約齋居士　道儉募緣刊行

當應來成寅之歲比丘靈果

比緣重刊板置慧峯龍吟庵

法義則大同矣而又倭字俗謂之假
名字經曰但以假名字引導於衆生
是乃　約齋居士不懷假名而談實
相所以流通倭點者歟若復有人手
不執卷常誦是經則居士捨財鏤版
厥功也不虛矣居士法諱道儉約齋
其號嘗自製十頌文摭施世法二藥
以治一切衆生身心二病云旋慶初

天龍人非人等一切大會皆大歡喜受持佛語作禮而去

妙法蓮華經卷第八

法華經倭點者孟𤣥　本國僧俗男女至于𡢃婦販夫未通漢音者而所設也詳夫以倭字翻漢語猶以西天梵音而譯東土唐言其音字雖似別

實若不實此人現世得白癩病若有輕笑之
者當世世牙齒疎缺醜脣平鼻手脚繚戾眼
目角睞身體臭穢惡瘡膿血水腹短氣諸惡
重病是故普賢若見受持是經典者當起遠
迎當如敬佛說是普賢勸發品時恒河沙等
無量無邊菩薩得百千萬億旋陀羅尼三千
大千世界微塵等諸菩薩具普賢道佛說是
經時普賢等諸菩薩舍利弗等諸聲聞及

應衆得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪擊法鼓吹法螺雨法雨當坐天人大衆中師子法座上普賢若於後世受持讀誦是經典者是人不復貪著衣服卧具飲食資生之物所願不虛亦於現世得其福報若有人輕毀之言汝狂人耳空作是行終無所獲如是罪報當世世無眼若有供養讚歎之者當於今世得現果報若復見受持是經典者出其過惡若實狂人如人見世得白癩病若有如是

衣之所覆如是之人不復貪著世樂不好外
道經書手筆亦復不喜親近其人及諸惡者
若屠兒若畜猪羊雞狗若獵師若衒賣女色
是人心意質直有正憶念有福德力是人不
爲三毒所惱亦不爲嫉妬我慢邪慢增上慢
所惱是人少欲知足能修普賢之行普賢若
如來滅後後五百歲若有人見受持讀誦法
華經者應作是念此人不久當詣道場破諸

不可思議功德深大慈悲從久遠來發阿耨
多羅三藐三菩提意而能作是神通之願守
護是經我當以神通力守護能受持普賢菩
薩名者普賢若有受持讀誦正憶念修習書
寫是法華經者當知是人則見釋迦牟尼佛
如從佛口聞此經典當知是人供養釋迦牟
尼佛當知是人佛讚善哉當知是人爲釋迦
牟尼佛手摩其頭當知是人爲釋迦牟尼佛

勒菩薩所弥勒菩薩有三十二相大菩薩衆
所共圍繞有百千萬億天女眷屬而於中生
有如是等功德利益是故智者應當一心自
書若使人書受持讀誦正憶念如說修行世
尊我今以神通力故守護是經於如來滅後
閻浮提内廣令流布使不斷絶
介時釋迦牟尼佛讚言善哉善哉普賢汝能
護助是經令多所衆生安樂利益汝已成就

正憶念解其義趣如說修行當知是人行普賢行於無量無邊諸佛所深種善根爲諸如來手摩其頭若但書寫是人命終當生忉利天上是時八萬四千天女作衆伎樂而來迎之其人即著七寶冠於采女中娛樂快樂何況受持讀誦正憶念解其義趣如說修行若有人受持讀誦解其義趣是人命終爲千佛授手令不恐怖不墮惡趣即往兜率天上彌

僧伽婆履叉尼十二僧伽涅伽陀尼十三阿僧祇
十四僧伽波伽地十五帝隸阿惰僧伽兜略盧遮反
阿羅帝波羅帝十六薩婆僧伽三摩地伽蘭地
十七薩婆達磨修波利剎帝十八薩婆薩埵樓馱
憍舍略阿耨伽地十九辛阿毗吉利地帝二十
世尊若有菩薩得聞是陀羅尼者當知普賢
神通之力若法華經行閻浮提有受持者應
作此念皆是普賢威神之力若有受持讀誦

法示教利喜亦復與其陀羅尼咒得是陀羅尼故無有非人能破壞者亦不為女人之所惑亂我身亦自常護是人唯願世尊聽我說此陀羅尼即於佛前而說咒曰

阿檀地途賣反一檀陀婆地二檀陀婆帝三檀陀鳩賒隸四檀陀脩陀隸五脩陀隸六脩陀羅婆底七佛馱波羅禰八薩婆陀羅尼阿婆多尼九薩婆婆沙阿婆多尼十脩阿婆多尼十一

歡喜轉復精進以見我故即得三昧及陀羅
尼名爲旋陀羅尼百千萬億旋陀羅尼法音
方便陀羅尼得如是等陀羅尼世尊若後世
後五百歲濁惡世中比丘比丘尼優婆塞優
婆夷求索者受持者讀誦者書寫者欲修習
是法華經於三七日中應一心精進滿三七
日已我當乘六牙白象與無量菩薩而自圍
繞以一切衆生所憙見身現其人前而爲說
法示教利喜亦復與其陀羅尼呪得是陀羅

若毗舍闍若吉蔗若富單那若韋陀羅等
諸惱人者皆不得便是人若行若立讀誦此
經我尒時乘六牙白象王與大菩薩衆俱詣
其所而自現身供養守護安慰其心亦爲供
養法華經故是人若坐思惟此經尒時我復
乘白象王現其人前其人若於法華經有所
忘失一句一偈我當教之與共讀誦還令通
利尒時受持讀誦法華經者得見我身甚大

法於如來滅後當得是法華經一者爲諸佛
護念二者植諸德本三者入正定聚四者發
救一切衆生之心善男子善女人如是成就
四法於如來滅後必得是經尒時普賢菩薩
白佛言世尊於後五百歲濁惡世中其有受
持是經典者我當守護除其衰患令得安穩
使無伺求得其便者若魔若魔子若魔女若
魔民若爲魔所著者若夜叉若羅刹若鳩槃

脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等大
衆圍繞各現威德神通之力到娑婆世界耆
闍崛山中頭面禮釋迦牟尼佛右繞七帀白
佛言世尊我於寶威德上王佛國遥聞此娑
婆世界說法華經與無量無邊百千萬億諸
菩薩衆共來聽受唯願世尊當爲說之若善
男子善女人於如來滅後云何能得是法華
經佛告普賢菩薩若善男子善女人成就四

者。一切世間諸天人民。亦應禮拜佛說是妙
莊嚴王本事品時。八萬四千人遠塵離垢於
諸法中。得法眼淨
妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八
尒時普賢菩薩以自在神通力威德名聞與
大菩薩無量無邊不可稱數從東方來所經
諸國。普皆震動雨寶蓮華。作無量百千萬億
種種伎樂。又與無數諸天龍夜叉乾闥婆阿

生邪見憍慢瞋恚諸惡之心說是語已禮佛而出佛告大衆於意云何妙莊嚴王豈異人乎今華德菩薩是其淨德夫人今佛前光照莊嚴相菩薩是哀愍衆生莊嚴王及諸眷屬故於彼中生其二子者今藥王菩薩藥上菩薩是是藥王藥上菩薩成就如此諸大功德已於無量百千萬億諸佛所植衆德本成就不可思議諸善功德若有人識是二菩薩名字者一切世間諸天人民亦應禮拜第二十

從虛空中下。而白佛言。世尊如來甚希有以一功德智慧故。頂上肉髻光明顯照。其眼長廣而紺青色。眉間毫相。白如珂月。齒白齊密。常有光明。唇色赤好。如頻婆果。尒時妙莊嚴王。讚歎佛如是等無量百千萬億功德已。於如來前。一心合掌。復白佛言。世尊未曾有也。如來之法。具足成就不可思議微妙功德。教戒所行安穩快善。我從今日。不復自隨心行不

是如是如汝所言若善男子善女人種善根
故世世得善知識其善知識能作佛事示教
利喜令入阿耨多羅三藐三菩提大王當知
善知識者是大因緣所謂化道令得見佛發
阿耨多羅三藐三菩提心大王汝見此二子
不此二子已曾供養六十五百千萬億那由
他恒河沙諸佛親近恭敬於諸佛所受持法
華經愍念邪見衆生令住正見妙莊嚴王即
從虛空中而自佛言世尊如來世尊必

屬於佛法中出家修道王出家已於八萬四
千歲常勤精進修行妙法華經過是已後得
一切淨功德莊嚴三昧即昇虛空高七多羅
樹而白佛言世尊此我二子已作佛事以神
通變化轉我邪心令得安住於佛法中得覲
世尊此二子者是我善知識爲欲發起宿世
善根饒益我故來生我家
尒時雲雷音宿王華智佛告妙莊嚴王言如

跌坐放大光明尒時妙莊嚴王作是念佛身
希有端嚴殊特成就第一微妙之色時雲雷
音宿王華智佛告四衆言汝等見是妙莊嚴
王於我前合掌立不此王於我法中作比丘
精勤修習助佛道法當得作佛号娑羅樹王
國名大光劫名大高王其娑羅樹王佛有無
量菩薩衆及無量聲聞其國平正功德如是
其王即時以國付弟王與夫人二子并諸眷

信解好樂佛法於是妙莊嚴王與群臣眷屬
俱淨德夫人與後宮采女眷屬俱其王二子
與四萬二千人俱一時共詣佛所到已頭面
禮足繞佛三帀却住一面
尒時彼佛爲王說法示教利喜王大歡悅尒
時妙莊嚴王及其夫人解頸眞珠瓔珞價直
百千以散佛上於虛空中化成四柱寶臺臺
中有大寶牀敷百千萬天衣其上有佛結跏

孔而我等宿福深厚生值佛法是故父母當
聽我等令得出家所以者何諸佛難值時亦
難遇彼時妙莊嚴王後宮八萬四千人皆悉
堪任受持是法華經淨眼菩薩於法華三昧
久已通達淨藏菩薩已於無量百千萬億劫
通達離諸惡趣三昧欲令一切衆生離諸惡
趣故其王夫人得諸佛集三昧能知諸佛秘
密之藏二子如是以方便力善化其父令心

我等爲父已作佛事願母見聽於彼佛所出
家修道尒時二子欲重宣其意以偈白母
願母放我等出家作沙門諸佛甚難值我等隨佛學
如優曇波羅值佛復難是脫諸難亦難願聽我出家
母即告言聽汝出家所以者何佛難值故於
是二子白父母言善哉父母願時往詣雲雷
音宿王華智佛所親覲供養所以者何佛難
得值如優曇波羅華又如一眼之龜值浮木
孔而我等宿福深厚生值佛法是故父母當

王心淨信解時父見子神力如是心大歡喜
得未曾有合掌向子言汝等師爲是誰誰之
弟子二子白言大王彼雲雷音宿王華智佛
今在七寶菩提樹下法座上坐於一切世間
天人衆中廣說法華經是我等師我是弟子
父語子言我今亦欲見汝等師可共俱往於
是二子從空中下到其母所合掌白母父王
今已信解堪任發阿耨多羅三藐三菩提心
我等爲父作佛事願母見聽於彼佛所

爪掌白母我等是法王子而生此邪見家母
告子言汝等當憂念汝父爲現神變若得見
者心必清淨或聽我等往至佛所於是二子
念其父故涌在虛空高七多羅樹現種種神
變於虛空中行住坐臥身上出水身下出火
身下出水身上出火或現大身滿虛空中而
復現小小復現大於空中滅忽然在地入地
如水履水如地現如是等種種神變令其父

嚴三昧。大威德藏三昧。於此三昧。亦悉通達。
尒時彼佛。欲引道妙莊嚴王。及愍念衆生故。
說是法華經。時淨藏淨眼二子。到其母所。合
十指爪掌白言。願母往詣雲雷音宿王華智
佛所。我等亦當侍從親近供養禮拜。所以者
何。此佛於一切天人衆中說法華經。宜應聽
受。母告子言。汝父信受外道。深著婆羅門法。
汝等應往白父。與共俱去。淨藏淨眼合十指
爪白母。我等是法王子。而生此邪見家。母

莊嚴劫名喜見彼佛法中有王名妙莊嚴其
王夫人名曰淨德有二子一名淨藏二名淨
眼是二子有大神力福德智慧久修菩薩所
行之道所謂檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波
羅蜜毗梨耶波羅蜜禪波羅蜜般若波羅蜜
方便波羅蜜慈悲喜捨乃至三十七品助道
法皆悉明了通達又得菩薩淨三昧日星宿
三昧淨光三昧淨色三昧淨照明三昧長莊
嚴三昧大威德藏三昧大莊嚴三昧

諸香油燈。蘇摩那華油燈。瞻蔔華油燈。婆師
迦華油燈。優鉢羅華油燈。如是等百千種供
養者。皇諦。汝等及眷屬。應當擁護如是法師。
說此陀羅尼品時。六萬八千人得無生法忍
妙法蓮華經妙莊嚴王本事品第二十七
尒時佛告諸大衆。乃往古世。過無量無邊不
可思議阿僧祇劫。有佛名雲雷音宿王華智
多陀阿伽度阿羅訶三藐三佛陀國名光明
莊嚴劫名喜見佛法中有一菩薩名妙莊嚴王

如殺父母罪亦如壓溺殃　斗秤欺誑人　調達破僧罪
犯此法師者　當獲如是殃
諸羅刹女說此偈已白佛言世尊我等亦當
身自擁護受持讀誦修行是經者令得安穩
離諸衰患消衆毒藥佛告諸羅刹女善哉善
哉汝等但能擁護受持法華名者福不可量
何況擁護具足受持供養經卷華香瓔珞抹
香塗香燒香幡蓋伎樂然種種燈蘇燈油燈

寧上我頭上莫惱於法師若夜叉若羅刹若
餓鬼若富單那若吉蔗若毗陀羅若揵馱若
烏摩勒伽若阿跋摩羅若夜叉吉蔗若人吉
蔗若熱病若一日若二日若三日若四日乃
至七日若常熱病若男形若女形若童男形
若童女形乃至夢中亦復莫惱即於佛前而
說偈言
若不順我咒惱亂說法者頭破作七分如阿梨樹枝
如殺父母罪亦如惡性人亦如劫奪罪

衆生精氣是十羅刹女。與鬼子母并其子及
眷屬。俱詣佛所同聲白佛言世尊。我等亦欲
擁護讀誦受持法華經者。除其衰患若有伺
求法師短者令不得便。即於佛前而說咒曰
伊提履一 伊提泯二 伊提履三 阿提履四 伊
提履五 泥履六 泥履七 泥履八 泥履九 泥履
十 樓醯一 樓醯二 樓醯三 樓醯四 多醯五 多
醯六 多醯七 塊醯八 嵬醯九

即說咒曰

阿伽祢一　伽祢二　瞿利三　乾陀利四　旃陀利五　摩蹬耆六　常求利七　浮楼莎柅八　頞底九

世尊是陀羅尼神咒四十二億諸佛所說若有侵毀此法師者則爲侵毀是諸佛已

尒時有羅刹女等一名藍婆二名毗藍婆三名曲齒四名華齒五名黑齒六名多髮七名無厭足八名持瓔珞九名牢齒十名奈一切

說咒曰

阿梨一 那梨二 兜那梨三 阿那盧四 那履五

拘那履六

世尊以是神咒擁護法師我亦自當擁護持

是經者令百由旬內無諸衰患

尒時持國天王在此會中與千萬億那由他

乾闥婆衆恭敬圍繞前詣佛所合掌白佛言

世尊我亦以陀羅尼神咒擁護持法華經者

隸五阿羅婆第六涅隸第七涅隸多婆第八
伊緻猪履反梶九韋緻梶十旨緻梶十涅隸埵
梶十涅犁埵婆底十三
世尊。是陀羅尼神咒。恒河沙等諸佛所說亦
皆隨喜若有侵毀此法師者則爲侵毀是諸
佛已
尒時毗沙門天王護世者。白佛言世尊我亦
爲愍念衆生擁護此法師故說是陀羅尼即

哉藥王汝愍念擁護此法師故說是陀羅尼

於諸衆生多所饒益

尒時勇施菩薩白佛言世尊我亦爲擁護讀

誦受持法華經者說陀羅尼若此法師得是

陀羅尼若夜叉若羅刹若富單那若吉蔗若

鳩槃茶若餓鬼等伺求其短無能得便即於

佛前而說呪曰

痤(才臺反)螺隸一摩訶痤隸二郁枳三目枳四阿

三 僧伽涅瞿沙祢 三十四 婆舍婆舍輸地 三十五
曷哆羅 三十六 曷哆羅叉夜多 三十七 郵樓哆郵
樓哆 三十八 憍舍略 虞遮反 三十九 悪叉羅 四十 悪叉治
多治 四十一 阿婆盧 四十二 阿摩若 莊遮反 那多夜
四十三
世尊。是陀羅尼神呪。六十二億恒河沙等諸
佛所說若有侵毀此法師者。則為侵毀是諸
佛已時釋迦牟尼佛讚藥王菩薩言善哉善
哉藥王汝等護此法師故說是陀羅尼

帝九目帝十目多履十沙履十阿瑋沙履十三
桑履十四沙履十五又裔十六阿又裔十七阿耆賦十八
檀帝十九賒履十阿陀羅尼二十一阿盧伽婆娑蘇柰
反數蔗毗又賦二十二祢毗剃二十三阿便多都鐵
反遲祢履剃二十四阿亶多波隸輸地途賣反二十五
温究隸二十六牟究隸二十七阿羅隸二十八波羅
隸二十九首迦葉初九反三十阿三磨三履三十一佛
馱毗吉利裘帝三十二達磨波利葉猜離帝三十三
三摩加毘羅沙尒三十四多含多含加地三十

百萬億那由他恒河沙等諸佛於汝意云何其所得福寧爲多不甚多世尊佛言若善男子善女人能於是經乃至受持一四句偈讀誦解義如說修行功德甚多尒時藥王菩薩白佛言世尊我今當與說法者陀羅尼呪以守護之即說呪曰

安尒一曼尒二摩祢三摩摩祢四旨隸五遮梨第六賒咩羊鳴音七賒履同雅反多瑋八曀輸干反九阿叱十阿叱羅十阿叱羅十可韋十

示現神通力者。當知是人。功德不少。佛說是普門品時。衆中八萬四千衆生。皆發無等等阿耨多羅三藐三菩提心

妙法蓮華經陀羅尼品第二十六

尒時藥王菩薩。即從座起。偏袒右肩。合掌向佛。而白佛言。世尊若善男子善女人。有能受持法華經者。若讀誦通利。若書寫經卷。得幾所福。佛告藥王。若有善男子善女人。供養八百萬億那由他恒河沙等諸佛。於諸意云何。

無垢清淨光　慧日破諸闇　能伏災風火　普明照世間
悲體戒雷震　慈意妙大雲　澍甘露法雨　滅除煩惱焰
諍訟經官處　怖畏軍陣中　念彼觀音力　衆怨悉退散
妙音觀世音　梵音海潮音　勝彼世間音　是故須常念
念念勿生疑　觀世音淨聖　於苦惱死厄　能爲作依怙
具一切功德　慈眼視衆生　福聚海無量　是故應頂禮
尒時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若
有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門
示現神通力者當知是人功德不少佛說是

或遇惡羅刹　毒龍諸鬼等　念彼觀音力　時悉不敢害
若惡獸圍繞　利牙爪可怖　念彼觀音力　疾走無邊方
蚖蛇及蝮蠍　氣毒烟火燃　念彼觀音力　尋聲自迴去
雲雷鼓掣電　降雹澍大雨　念彼觀音力　應時得消散
衆生被困厄　無量苦逼身　觀音妙智力　能救世間苦
具足神通力　廣修智方便　十方諸國土　無刹不現身
種種諸惡趣　地獄鬼畜生　生老病死苦　以漸悉令滅
真觀清淨觀　廣大智慧觀　悲觀及慈觀　常願常瞻仰

假使興害意推落大火坑念彼觀音力火坑變成池
或漂流巨海龍魚諸鬼難念彼觀音力波浪不能沒
或在須弥峯爲人所推墮念彼觀音力如日虛空住
或被惡人逐墮落金剛山念彼觀音力不能損一毛
或值怨賊繞各執刀加害念彼觀音力咸即起慈心
或遭王難苦臨刑欲壽終念彼觀音力刀尋段段壞
或囚禁枷鎖手足被杻械念彼觀音力釋然得解脫
咒詛諸毒藥所欲害身者念彼觀音力還著於本人
或遇惡羅刹毒龍諸鬼等念彼觀音力時悉不敢害

瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉
多寶佛塔無盡意觀世音菩薩有如是自在
神力遊於娑婆世界尒時無盡意菩薩以偈
問曰

世尊妙相具我今重問彼佛子何因緣名為觀世音
具足妙相尊偈答無盡意汝聽觀音行善應諸方所
弘誓深如海歷劫不思議侍多千億佛發大清淨願
我為汝略說聞名及見身心念不空過能滅諸有苦

世音菩薩即解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩金而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔珞時觀世音菩薩不肯受之無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故受此瓔珞尒時佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞即時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受其

羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即
皆現之而爲說法應以執金剛神得度者即
現執金剛神而爲說法無盡意是觀世音菩
薩成就如是功德以種種形遊諸國土度脫
衆生是故汝等應當一心供養觀世音菩薩
是觀世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能
施無畏是故此娑婆世界皆号之爲施無畏
者無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀

而爲說法。應以宰官身得度者即現宰官身
而爲說法應以婆羅門身得度者即現婆羅
門身而爲說法。應以比丘比丘尼優婆塞優
婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優
婆夷身。而爲說法應以長者居士宰官婆羅
門婦女身得度者即現婦女身。而爲說法應
以童男童女身得度者即現童男童女身而
爲說法。應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓
羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即

即現帝釋身而爲說法。應以自在天身得度者即現自在天身而爲說法。應以大自在天身得度者即現大自在天身而爲說法。應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而爲說法。應以毗沙門身得度者即現毗沙門身而爲說法。應以小王身得度者即現小王身而爲說法。應以長者身得度者即現長者身而爲說法。應以居士身得度者即現居士身而爲說法。應以宰官身得度者即現宰官身

無盡意菩薩白佛言世尊。觀世音菩薩。云何
遊此娑婆世界。云何而爲衆生說法。方便之
力。其事云何。佛告無盡意菩薩。善男子若有
國土衆生。應以佛身得度者。觀世音菩薩即
現佛身。而爲說法。應以辟支佛身得度者。即
現辟支佛身。而爲說法。應以聲聞身得度者。
即現聲聞身。而爲說法。應以梵王身得度者。
即現梵王身。而爲說法。應以帝釋身得度者。
即現帝釋身。而爲說法。應以自在天身得度者。

菩薩名号無盡若有人受持六十二億恒
河沙菩薩名字復盡形供養飲食衣服卧具
醫藥於汝意云何是善男子善女人功德多
不無盡意言甚多世尊佛言若復有人受持
觀世音菩薩名号乃至一時禮拜供養是二
人福正等無異於百千萬億劫不可窮盡無
盡意受持觀世音菩薩名号得如是無量無
邊福德之利

無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何

便得離瞋。若多愚癡。常念恭敬觀世音菩薩。
便得離癡。無盡意觀世音菩薩。有如是等大
威神力。多所饒益。是故衆生常應心念。
若有女人。設欲求男。禮拜供養觀世音菩薩。
便生福德智慧之男。設欲求女。便生端正有
相之女。宿植德本。衆人愛敬。無盡意觀世音
菩薩。有如是力。若有衆生。恭敬禮拜觀世音
菩薩。福不唐捐。是故衆生皆應受持觀世音

言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀
世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生
汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人
聞俱發聲言南无觀世音菩薩稱其名故即
得解脫無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之
力巍巍如是
若有衆生多於婬欲常念恭敬觀世音菩薩
便得離欲若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩
便得離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩

所執刀杖。尋段段壞而得解脫。若三千大千國土。滿中夜叉羅刹。欲來惱人。聞其稱觀世音菩薩名者。是諸惡鬼。尚不能以惡眼視之。況復加害。

設復有人。若有罪若無罪。杻械枷鎖。檢繫其身。稱觀世音菩薩名者。皆悉斷壞。即得解脫。

若三千大千國土。滿中怨賊。有一商主。將諸商人。齎持重寶。經過險路。其中一人作是唱言。諸善男子。勿得恐怖。汝等應當一心稱觀

能燒。曜。由是菩薩威神力故。若爲大水所漂。稱其名号。即得淺處。若有百千萬億衆生。爲求金銀瑠璃硨磲碼碯珊瑚琥珀眞珠等寶。入於大海。假使黑風。吹其船舫。飄墮羅刹鬼國。其中若有乃至一人。稱觀世音菩薩名者。是諸人等。皆得解脫羅刹之難。以是因緣。名觀世音。

若復有人。臨當被害。稱觀世音菩薩名者。彼

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五八

尒時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌向佛而作是言世尊觀世音菩薩以何因緣名觀世音佛告無盡意菩薩善男子若有無量百千萬億衆生受諸苦惱聞是觀世音菩薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其音聲皆得解脫

若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不能燒由是菩薩威神力故

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五 八

尒時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌

亦令是八萬四千菩薩得現一切色身三昧。
說是妙音菩薩來往品時四萬二千天子得
無生法忍華德菩薩得法華三昧

妙法蓮華經卷第七

江州坂田郡八幡宮壹任

得是三昧。及陀羅尼。介時妙音菩薩摩訶薩。
供養釋迦牟尼佛。及多寶佛塔。已還歸本土。
所經諸國。六種震動。雨寶蓮華。作百千萬億
種種伎樂。既到本國。與八萬四千菩薩圍繞。
至淨華宿王智佛所。白佛言。世尊。我到娑婆
世界。饒益衆生。見釋迦牟尼佛。及見多寶佛
塔。禮拜供養。又見文殊師利法王子菩薩。及
見藥王菩薩。得勤精進力菩薩。勇施菩薩等。

音菩薩摩訶薩成就大神通智慧之力其事如是尒時華德菩薩白佛言世尊是妙音菩薩深種善根世尊是菩薩住何三昧而能如是在所變現度脫衆生佛告華德菩薩善男子其三昧名現一切色身妙音菩薩住是三昧中能如是饒益無量衆生說是妙音菩薩品時與妙音菩薩俱來者八萬四千人皆得現一切色身三昧此娑婆世界無量菩薩亦

無所損減是菩薩以若干智慧明照娑婆世界令一切衆生各得所知於十方恒河沙世界中亦復如是若應以聲聞形得度者現聲聞形而爲說法應以辟支佛形得度者現辟支佛形而爲說法應以菩薩形得度者現菩薩形而爲說法應以佛形得度者即現佛形而爲說法如是種種隨所應度者而爲現形乃至應以滅度而得度者示現滅度華德妙

身或現宰官婦女身或現婆羅門婦女身或
現童男童女身或現天龍夜叉乾闥婆阿修
羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身而
說是經諸有地獄餓鬼畜生及衆難處皆能
救濟乃至於王後宮變爲女身而說是經華
德是妙音菩薩能救護娑婆世界諸衆生者
是妙音菩薩如是種種變化現身在此娑婆
國土爲諸衆生說是經典於神通變化智慧

河沙等百千萬億那由他佛華德汝但見妙音菩薩其身在此而是菩薩現種種身處處爲諸衆生說是經典或現梵王身或現帝釋身或現自在天身或現大自在天身或現天大將軍身或現毗沙門天王身或現轉輪聖王身或現諸小王身或現長者身或現居士身或現宰官身或現婆羅門身或現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身或現長者居士婦女身或現宰官婦女身或現婆羅門婦女身或

阿羅訶。三藐三佛陀。國名現一切世間劫名
意見妙音菩薩。於萬二千歲以十萬種伎樂。
供養雲雷音王佛。并奉上八萬四千七寶鉢。
以是因緣果報。今生淨華宿王智佛國。有是
神力。華德於汝意云何。尒時雲雷音王佛所。
妙音菩薩伎樂供養奉上寶器者。豈異人乎。
今此妙音菩薩摩訶薩是。華德是妙音菩薩
已曾供養親近無量諸佛。久植德本。又值恒
河沙等百千萬億那由他佛。華德如是少

寶如來。安穩少惱堪忍久住不。世尊我今欲
見多寶佛身。唯願世尊。示我令見尒時釋迦
牟尼佛。語多寶佛。是妙音菩薩。欲得相見時
多寶佛。告妙音言。善哉善哉。汝能為供養釋
迦牟尼佛及聽法華經并見文殊師利等。故
來至此。尒時華德菩薩。白佛言。世尊。是妙音
菩薩種何善根。修何功德。有是神力。佛告華
德菩薩。過去有佛。名雲雷音王多陀阿伽度

山到已下七寶臺以價直百千瓔珞持至釋
迦牟尼佛所頭面禮足奉上瓔珞而白佛言
世尊淨華宿王智佛問訊世尊少病少惱起
居輕利安樂行不四大調和不世事可忍不
衆生易度不無多貪欲瞋恚愚癡嫉妬慳慢
不無不孝父母不敬沙門邪見不善心不攝
五情不世尊衆生能降伏諸魔怨不久滅度
多寶如來在七寶塔中來聽法不又問訊多

妙音菩薩於彼國沒與八萬四千菩薩俱共
發來所經諸國六種震動皆悉雨於七寶蓮
華百千天樂不鼓自鳴是菩薩目如廣大青
蓮華葉正使和合百千萬月其面貌端正復
過於此身真金色無量百千功德莊嚴威德
熾盛光明照曜諸相具足如那羅延堅固之
身入七寶臺上升虛空去地七多羅樹諸菩
薩衆恭敬圍繞而來詣此娑婆世界耆闍崛

殊師利。白佛言。世尊。是菩薩。種何善本。修何功德。而能有是大神通力。行何三昧。願為我等說是三昧名字。我等亦欲勤修行之。行此三昧。乃能見是菩薩色相大小。威儀進止。唯願世尊。以神通力。彼菩薩來。令我得見。尒時釋迦牟尼佛告文殊師利。此久滅度多寶如來。當為汝等而現其相。時多寶佛告彼菩薩善男子來。文殊師利法王子。欲見汝身。于時

莖白銀爲葉。金剛爲鬚甄叔迦寶以爲其臺。
尒時文殊師利法王子。見是蓮華。而白佛言。
世尊。是何因緣。先現此瑞。有若干千萬蓮華。
閻浮檀金爲莖。白銀爲葉。金剛爲鬚甄叔迦
寶以爲其臺。尒時釋迦牟尼佛。告文殊師利。
是妙音菩薩摩訶薩。欲從淨華宿王智佛國。
與八萬四千菩薩圍繞而來至此娑婆世界。
供養親近。禮拜於我。亦欲供養聽法華經。文
殊師利。彼佛淨華宿王智。身長六十萬里。

小而汝身四萬二千由旬我身六百八十萬
由旬汝身第一端正百千萬福光明殊妙是
故汝往莫輕彼國若佛菩薩及國土生下劣
想妙音菩薩白其佛言世尊我今詣娑婆世
界皆是如來之力如來神通遊戲如來功德
智慧莊嚴於是妙音菩薩不起于座身不動
搖而入三昧以三昧力於耆闍崛山去法座
不遠化作八萬四千衆寶蓮華閻浮檀金爲

沙等諸大三昧釋迦牟尼佛光照其身即白
淨華宿王智佛言世尊我當往詣娑婆世界
禮拜親近供養釋迦牟尼佛及見文殊師利
法王子菩薩藥王菩薩勇施菩薩宿王華菩
薩上行意菩薩莊嚴王菩薩藥上菩薩尒時
淨華宿王智佛告妙音菩薩汝莫輕彼國生
下劣想善男子彼娑婆世界高下不平土石
諸山穢惡充滿佛身卑小諸菩薩衆其形亦
小而如身四萬二千由旬我身六百八十萬

照其國介時一切淨光莊嚴國中有一菩薩名曰妙音久已植衆德本供養親近無量百千萬億諸佛而悉成就甚深智慧得妙幢相三昧法華三昧淨德三昧宿王戲三昧無緣三昧智印三昧解一切衆生語言三昧集一切功德三昧清淨三昧神通遊戲三昧慧炬三昧莊嚴王三昧淨光明三昧淨藏三昧不共三昧日旋三昧得如是等百千萬億恒河

妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四

尒時釋迦牟尼佛。放大人相肉髻光明及放眉間白毫相光。徧照東方百八萬億那由他。恒河沙等諸佛世界。過是數已。有世界。名淨光莊嚴。其國有佛。号淨華宿王智如來。應供正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。佛世尊。為無量無邊菩薩大衆恭敬圍繞而為說法。釋迦牟尼佛。白毫光明徧照其國。尒時一切淨光莊嚴國。有一菩薩。

取草坐於道場破諸魔軍當吹法螺雨大
法鼓度脫一切衆生老病死海是故求佛道
者見有受持是經典人應當如是生恭敬心
說是藥王菩薩本事品時八萬四千菩薩得
解一切衆生語言陀羅尼多寶如來於寶塔
中讚宿王華菩薩言善哉善哉宿王華汝成
就不可思議功德乃能問釋迦牟尼佛如此
之事利益無量一切衆生

宿王華。以此藥王菩薩本事品。囑累於汝。我滅度後。後五百歲中。廣宣流布。於閻浮提。無令斷絕。惡魔魔民。諸天龍夜叉鳩槃荼等。得其便也。宿王華。汝當以神通之力。守護是經。所以者何。此經則爲閻浮提人病之良藥。若人有病。得聞是經。病即消滅。不老不死。宿王華。汝若見有受持是經者。應以青蓮華盛滿抹香。供散其上。散已作是念言。此人不久。必宿。汝當坐於道場。受諸衆生。[illegible]

諸魔賊壞生死軍諸餘怨敵皆悉摧滅善男子百千諸佛以神通力共守護汝於一切世間天人之中無如汝者唯除如來其諸聲聞辟支佛乃至菩薩智慧禪定無有與汝等者宿王華此菩薩成就如是功德智慧之力若有人聞是藥王菩薩本事品能隨喜讚善者是人現世口中常出青蓮華香身毛孔中常出牛頭旃檀之香所得功德如上所說是故

欲所惱亦復不爲瞋恚愚癡所惱亦復不爲
憍慢嫉妬諸垢所惱得菩薩神通無生法忍
得是忍已眼根清淨以是清淨眼根見七百
萬二千億那由他恒河沙等諸佛如來是時
諸佛遙共讚言善哉善哉善男子汝能於釋
迦牟尼佛法中受持讀誦思惟是經爲他人
說所得福德無量無邊火不能燒水不能漂
汝之功德千佛共說不能令盡汝今已能破
諸魔戰震三毒首斬煩惱成三

曷那油燈波羅羅油燈婆利師迦油燈那婆
摩利油燈供養所得功德亦復無量宿王華
若有人聞是藥王菩薩本事品者亦得無量
無邊功德若有女人聞是藥王菩薩本事品
能受持者盡是女身後不復受若如來滅後
後五百歲中若有女人聞是經典如說修行
於此命終即往安樂世界阿弥陀佛大菩薩
衆圍繞住處生蓮華中寶座之上不復爲貪
欲所惱亦復不爲瞋恚疑所惱亦復不爲

者得衣。如商人得主。如子得母。如渡得船。如病得醫。如闇得燈。如貧得寶。如民得王。如賈客得海。如炬除闇。此法華經亦復如是。能令衆生離一切苦。一切病痛能解一切生死之縛。若人得聞此法華經若自書若教人書所得功德以佛智慧籌量多少不得其邊若書是經卷華香瓔珞燒香抹香塗香幡蓋衣服種種之燈蘇燈油燈諸香油燈瞻蔔油燈須

聞所說諸經法中最爲第一有能受持是經典者亦復如是於一切衆生中亦爲第一一切聲聞辟支佛中菩薩爲第一此經亦復如是於一切諸經法中最爲第一如佛爲諸法王此經亦復如是諸經中王宿王華此經能救一切衆生者此經能令一切衆生離諸苦惱此經能大饒益一切衆生充滿其願如清涼池能滿一切諸渴乏者如寒者得火如裸者得衣如[illegible]

是能破一切不善之闇又如諸小王中轉輪聖王最爲第一此經亦復如是於衆經中最爲其尊又如帝釋於三十三天中王此經亦復如是諸經中王又如大梵天王一切衆生之父此經亦復如是一切賢聖學無學及發菩薩心者之父又如一切凡夫人中須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛爲第一此經亦復如是一切如來所說若菩薩所說若聲聞所說諸經中最爲第一能令衆生

偈其福最多宿王華譬如一切川流江河諸
水之中海爲第一此法華經亦復如是於諸
如來所說經中最爲深大又如土山黑山小
鐵圍山大鐵圍山及十寶山衆山之中須彌
山爲第一此法華經亦復如是於諸經中最
爲其上又如衆星之中月天子最爲第一此
法華經亦復如是於千萬億種諸經法中最
爲照明又如日天子能除諸闇此經亦復如

見菩薩豈異人乎。今藥王菩薩是也。其所捨
身布施如是無量百千萬億。那由他數宿王
華。若有發心。欲得阿耨多羅三藐三菩提者。
能燃手指。乃至足一指供養佛塔。勝以國城
妻子。及三千大千國土。山林河池。諸珍寶物。
而供養者。若復有人。以七寶滿三千大千世
界。供養於佛。及大菩薩。辟支佛。阿羅漢。是人
所得功德。不如受持此法華經。乃至一四句

悲哀而作是言此一切衆生憙見菩薩是我
等師教化我者而令燒臂身不具足于時一
切衆生憙見菩薩於大衆中立此誓言我捨
兩臂必當得佛金色之身若實不虛令我兩
臂還復如故作是誓已自然還復由斯菩薩
福德智慧淳厚所致當尒之時三千大千世
界六種震動天雨寶華一切天人得未曾有
佛告宿王華菩薩汝意云何一切衆生憙

自念言我雖作是供養心猶未足我今當更
供養舍利便語諸菩薩大弟子及天龍夜叉
等一切大衆汝等當一心念我今供養日月
淨明德佛舍利作是語已即於八萬四千塔
前燃百福莊嚴臂七萬二千歲而以供養令
無數求聲聞衆無量阿僧祇人發阿耨多羅
三藐三菩提心皆使得住現一切色身三昧
尒時諸菩薩天人阿脩羅等見其無臂憂惱

所有舍利。亦付囑汝。當令流布。廣設供養。應起若干千塔。如是日月淨明德佛。勑一切衆生憙見菩薩。已於夜後分。入於涅槃。尒時一切衆生憙見菩薩。見佛滅度。悲感懊惱。戀慕於佛。即以海此岸。旃檀爲薪。供養佛身。而以燒之。火滅已後。收取舍利。作八萬四千寶瓶。以起八萬四千塔。高三世界。表剎莊嚴。垂諸幡蓋。懸衆寶鈴。尒時一切衆生憙見菩薩復

尒時一切衆生悉見菩薩說是偈已而白佛言世尊世尊猶故在世尒時日月淨明德佛告一切衆生悉見菩薩善男子我涅槃時到滅盡時至汝可安施床座我於今夜當般涅槃又勑一切衆生悉見菩薩善男子我以佛法囑累於汝及諸菩薩大弟子并阿耨多羅三藐三菩提法亦以三千大千七寶世界諸寶樹寶臺堂及給侍諸天悉付於汝我滅度後

說是偈已而白父言日月淨明德佛今故現
在我先供養佛已得解一切衆生語言陀羅
尼復聞是法華經八百千萬億那由他甄迦
羅頻婆羅阿閦婆等偈大王我今當還供養
此佛白已即坐七寶之臺上昇虛空高七多
羅樹往到佛所頭面禮足合十指爪以偈讚
佛
容顏甚奇妙光明照十方我適曾供養今復還親近

一之施於諸施中最尊最上以法供養諸如
來故作是語已而各默然其身火燃千二百
歲過是已後其身乃盡一切衆生悉見菩薩
作如是法供養已命終之後復生日月淨明
德佛國中於淨德王家結跏趺坐忽然化生
即爲其父而說偈言
大王今當知我經行彼處即時得一切現諸身三昧
勤行大精進捨所愛之身共養於世尊爲求無上慧

香油滿千二百歲已香油塗身於日月淨明
德佛前以天寶衣而自纏身已灌諸香油以
神通力願而自燃身光明徧照八十億恒河
沙世界其中諸佛同時讚言善哉善哉善男
子是真精進是名真法供養如來若以華香
瓔珞燒香抹香塗香天繒幡蓋及海此岸栴
檀之香如是等種種諸物供養所不能及假
使國城妻子布施亦所不及善男子是名第
一之施於諸施中最為上上以法供養諸佛

身三昧皆是得聞法華經力我今當供養日
月淨明德佛及法華經即時入是三昧於虛
空中雨曼陀羅華摩訶曼陀羅華細抹堅黑
旃檀滿虛空中如雲而下又雨海此岸旃檀
之香此香六銖價直娑婆世界以供養佛作
是供養已從三昧起而自念言我雖以神力
供養於佛不如以身供養即服諸香旃檀薰
陸兜樓婆畢力迦沈水膠香又飲瞻蔔諸華

一樹一臺其樹去臺盡一箭道此諸寶樹皆
有菩薩聲聞而坐其下諸寶臺上各有百億
諸天作天伎樂歌歎於佛以爲供養尒時彼
佛爲一切衆生憙見菩薩及衆菩薩諸聲聞
衆說法華經是一切衆生憙見菩薩樂習苦
行於日月淨明德佛法中精進經行一心求
佛滿萬二千歲已得現一切色身三昧得此
三昧已心大歡喜即作念言我得現一切色

華菩薩乃往過去無量恒河沙劫有佛号曰
月淨明德如來應供正徧知明行足善逝世
間解無上士調御丈夫天人師佛世尊其佛
有八十億大菩薩摩訶薩七十二恒河沙大
聲聞衆佛壽四萬二千劫菩薩壽命亦等彼
國無有女人地獄餓鬼畜生阿脩羅等及以
諸難地平如掌瑠璃所成寶樹莊嚴寶帳覆
上垂寶華幡寶瓶香爐周徧國界七寶爲臺

皆大歡喜

妙法蓮華經藥王菩薩本事品第二十三

尒時宿王華菩薩白佛言世尊藥王菩薩云何遊於娑婆世界世尊是藥王菩薩有若干百千萬億那由他難行苦行善哉世尊願少解說諸天龍神夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等又他國土諸來菩薩及此聲聞衆聞皆歡喜尒時佛告宿王華菩薩乃往過去無量恒河沙劫有佛

然世尊願不有慮諸菩薩摩訶薩衆如是三反俱發聲言如世尊勑當具奉行唯然世尊願不有慮尒時釋迦牟尼佛令十方來諸分身佛各還本土而作是言諸佛各隨所安多寶佛塔還可如故說是語時十方無量分身諸佛坐寶樹下師子座上者及多寶佛并上行等無邊阿僧祇菩薩大衆舍利弗等聲聞四衆及一切世間天人阿脩羅等聞佛所說

之大施主汝等亦應隨學如來之法勿生慳
悋於未來世若有善男子善女人信如來智
慧者當爲演說此法華經使得聞知爲令其
人得佛慧故若有衆生不信受者當於如來
餘深法中示教利喜汝等若能如是則爲已
報諸佛之恩時諸菩薩摩訶薩聞佛作是說
已皆大歡喜徧滿其身益加恭敬曲躬低頭
合掌向佛俱發聲言如世尊勅當具奉行唯

羅三藐三菩提法令以付囑汝等汝等應當
一心流布此法廣令增益如是三摩諸菩薩
摩訶薩頂而作是言我於無量百千萬億阿
僧祇劫修習是難得阿耨多羅三藐三菩提
法今以付囑汝等汝等當受持讀誦廣宣此
法令一切衆生普得聞知所以者何如來有
大慈悲無諸慳悋亦無所畏能與衆生佛之
智慧如來智慧自然智慧如來是一切衆生

於如來滅後知佛所說經因緣及次第隨義如實說
如日月光明能除諸幽冥斯人行世間能滅衆生闇
教無量菩薩畢竟住一乘是故有智者聞此功德利
於我滅度後應受持斯經是人於佛道決定無有疑

妙法蓮華經囑累品第二十二

尒時釋迦牟尼佛從法座起現大神力以右
手摩無量菩薩摩訶薩頂而作是言我於無
量百千萬億阿僧祇劫修習是難得阿耨多

囑累是經故讚美受持者於無量劫中猶故不能盡
是人之功德無邊無有窮如十方虛空不可得邊際
能持是經者則為已見我亦見多寶佛及諸分身者
又見我今日教化諸菩薩能持是經者令我及分身
滅度多寶佛一切皆歡喜十方現在佛并過去未來
亦見亦供養亦令得歡喜諸佛坐道場所得秘要法
能持是經者不久亦當得能持是經者於諸法之義
名字及言辭樂說無窮盡如風於空中一切無障礙

養所以者何當知是處即是道場諸佛於此
得阿耨多羅三藐三菩提諸佛於此轉於法
輪諸佛於此而般涅槃尒時世尊欲重宣此
義而說偈言

諸佛救世者　住於大神通　爲悅衆生故　現無量神力
舌相至梵天　身放無數光　爲求佛道者　現此希有事
諸佛聲欬聲　及彈指之聲　周聞十方國　地皆六種動
以佛滅度後　能持是經故　諸佛皆歡喜　現無量神力

功德猶不能盡以要言之如來一切所有之
法如來一切自在神力如來一切秘要之藏
如來一切甚深之事皆於此經宣示顯說是
故汝等於如來滅後應當一心受持讀誦解
說書寫如說修行所在國土若有受持讀誦
解說書寫如說修行若經卷所住之處若於
園中若於林中若於樹下若於僧坊若白衣
舍若在殿堂若山谷曠野是中皆應起塔供
養所以者何當知是處即是道場諸佛成

世界作如是言南无釋迦牟尼佛南无釋迦
牟尼佛以種種華香瓔珞幡蓋及諸嚴身之
具珎寶妙物皆共遥散娑婆世界所散諸物
從十方來辟如雲集變成寶帳遍覆此間諸
佛之上于時十方世界通達無礙如一佛土
尒時佛告上行等菩薩大衆諸佛神力如是
無量無邊不可思議若我以是神力於無量
無邊百千万億阿僧祇劫爲囑累故說此經
力猶不盡虛空譬之如一切所有

量無邊百千万億菩薩摩訶薩及諸四衆恭敬圍遶釋迦牟尼佛既見是已皆大歡喜得未曾有即時諸天於虛空中高聲唱言過此無量無邊百千万億阿僧祇世界有國名娑婆是中有佛名釋迦牟尼今爲諸菩薩摩訶薩說大乘經名妙法蓮華教菩薩法佛所護念汝等當深心隨喜亦當禮拜供養釋迦牟尼佛彼諸衆生聞虛空中聲已合掌向娑婆世界作如是言南无釋迦牟尼佛南无釋迦

放無量光釋迦牟尼佛及寶樹下諸佛現神
力時滿百千歲然後還攝舌相一時聲欬俱
共彈指是二音聲遍至十方諸佛世界地皆
六種震動其中衆生天龍夜叉乾闥婆阿修
羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等以佛
神力故皆見此娑婆世界無量無邊百千万
億衆寶樹下師子座上諸佛及見釋迦牟尼
佛共多寶如來在寶塔中坐師子座又見無

得是眞淨大法受持讀誦解說書寫而供養之尒時世尊於文殊師利等無量百千万億舊住娑婆世界菩薩摩訶薩及諸比丘比丘尼優婆塞優婆夷天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等一切衆前現大神力出廣長舌上至梵世一切毛孔放於無量無數色光皆悉遍照十方世界衆寶樹下師子座上諸佛亦復如是出廣長舌

諸佛世尊時說是經是故行者於佛滅後聞如是經勿生疑惑應當一心廣說此經世世值佛疾成佛道

妙法蓮華經如來神力品第二十一

尒時千世界微塵等菩薩摩訶薩從地涌出者皆於佛前一心合掌瞻仰尊顏而白佛言世尊我等於佛滅後世尊分身所在國土滅度之處當廣說此經所以者何我等亦自欲

說是經故得無量福漸具功德疾成佛道
彼時不輕則我身是時四部衆著法之者
聞不輕言汝當作佛以是因緣值無數佛
此會菩薩五百之衆并及四部清信士女
今於我前聽法者是我於前世勸是諸人
聽受斯經第一之法開示教人令住涅槃
世世受持如是經典億億万劫至不可議
時乃得聞是法華經億億万劫至不可議
諸佛世尊時說是經故行菩薩道諸佛威後

天人龍神所共供養是佛滅後法欲盡時
有一菩薩名常不輕時諸四衆計着於法
不輕菩薩往到其所而語之言我不輕汝
汝等行道皆當作佛諸人聞已輕毀罵詈
不輕菩薩能忍受之其罪畢已臨命終時
得聞此經六根清淨神通力故增益壽命
復為諸人廣說是經諸着法衆皆蒙菩薩
教化成就令住佛道不輕命終值無數佛

乎。今此會中跋陀婆羅等五百菩薩師子月等五百比丘尼思佛等五百優婆塞皆於阿耨多羅三藐三菩提不退轉者是得大勢當知是法華經大饒益諸菩薩摩訶薩能令至於阿耨多羅三藐三菩提是故諸菩薩摩訶薩於如來滅後常應受持讀誦解說書寫是經尒時世尊欲重宣此義而說偈言

過去有佛号威音王神智無量將導一切

人說者不能疾得阿耨多羅三藐三菩提我於先佛所受持讀誦此經爲人說故疾得阿耨多羅三藐三菩提得大勢彼時四衆比丘比丘尼優婆塞優婆夷以瞋恚意輕賤我故二百億劫常不值佛不聞法不見僧千劫於阿鼻地獄受大苦惱畢是罪已復遇常不輕菩薩教化阿耨多羅三藐三菩提得大勢於汝意云何尒時四衆常輕是菩薩者豈異人

於此諸佛法中受持讀誦爲諸四衆說此經典故得是常眼淸淨耳鼻舌身意諸根淸淨於四衆中說法心無所畏得大勢是常不輕菩薩摩訶薩供養如是若干諸佛恭敬尊重讚歎種諸善根於後復值千萬億佛亦於諸佛法中說是經典功德成就當得作佛得大勢於意云何尒時常不輕菩薩豈異人乎則我身是若我於宿世不受持讀誦此經爲他人說者不能得阿耨多羅三藐三菩提成

淨已更增壽命二百萬億那由他歲廣爲人
說是法華經於時增上慢四衆比丘比丘尼
優婆塞優婆夷輕賤是人爲作不輕名者見
其得大神通力樂說辯力大善寂力聞其所
說皆信伏隨從是菩薩復化千萬億衆令住
阿耨多羅三藐三菩提命終之後得值二千
億佛皆号日月燈明於其法中諸是法華經
以是因緣復值二千億佛同号雲自在燈王

年常被罵詈不生瞋恚常作是言汝當作佛
說是語時衆人或以杖木瓦石而打擲之避
走遠住猶高聲唱言我不敢輕於汝等汝等
皆當作佛以其常作是語故增上慢比丘比
丘尼優婆塞優婆夷号之爲常不輕是比丘
臨欲終時於虛空中具聞威音王佛先所說
法華經二十千萬億偈悉能受持即得如上
眼根清淨耳鼻舌身意根清淨得是六根清

悉禮拜讚歎而作是言我深敬汝等不敢輕慢所以者何汝等皆行菩薩道當得作佛而是比丘不專讀誦經典但行禮拜乃至遠見四衆亦復故往禮拜讚歎而作是言我不敢輕於汝等汝等皆當作佛故四衆之中有生瞋恚心不淨者惡口罵詈言是無智比丘從何所來自言我不輕汝而與我等授記當得作佛我等不用如是虛妄授記如此經歷多

後滅度正法像法滅盡之後於此國土復有
佛出亦号威音王如來應供正徧知明行足
善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世
尊如是次第有二萬億佛皆同一号最初威
音王如來既已滅度正法滅後於像法中增
上慢比丘有大勢力尒時有一菩薩比丘名
常不輕得大勢以何因縁名常不輕是比丘
凡有所見若比丘比丘尼優婆塞優婆夷皆

尊劫名離衰國名大成其威音王佛於彼世
中爲天人阿脩羅說法爲求聲聞者說應四
諦法度生老病死究竟涅槃爲求辟支佛者
說應十二因緣法爲諸菩薩因阿耨多羅三
藐三菩提說應六波羅蜜法究竟佛慧得大
勢是威音王佛壽四十萬億那由他恒河沙
劫正法住世劫數如一閻浮提微塵像法住
世劫數如四天下微塵其佛饒益衆生已然

尒時佛告得大勢菩薩摩訶薩汝今當知若比丘比丘尼優婆塞優婆夷持法華經者若有惡口罵詈誹謗獲大罪報如前所說其所得功德如向所說眼耳鼻舌身意淸淨得大勢乃往古昔過無量無邊不可思議阿僧祇劫有佛名威音王如來應供正徧知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世尊

妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十 七

七一

能以千萬種善巧之語言分別而演說持法華經故

妙法蓮華經卷第六

江州坂田郡八幡宮宝仏

是世界內外一切諸衆生若天龍及人夜叉鬼神等
其在六趣中所念若干種持法華之報一時皆悉知
十方無數佛百福莊嚴相爲衆生說法悉聞能受持
思惟無量義說法亦無量終始不忘錯以持法華故
悉知諸法相隨義識次第達名字語言如所知演說
此人有所說皆是先佛法以演此法故於衆無所畏
持法華經者意根淨若斯雖未得無漏先有如是相
是人持此經安住希有地爲一切衆生歡喜而愛敬

世語言資生業等皆順正法三千大千世界
六趣衆生心之所行心所動作心所戲論皆
悉知之雖未得無漏智慧而其意根清淨如
此是人有所思惟籌量言說皆是佛法無不
真實亦是先佛經中所說今時世尊欲重宣
此義而說偈言
是人意清淨明利無穢濁以此妙意根知上中下法
乃至聞一偈通達無量義次第如法說月四月至歲

若獨若在衆說法悉皆現雖未得無漏法性之妙身
以清淨常體一切於中現
復次常精進若善男子善女人如來滅後受
持是經若讀若誦若解說若書寫得千二百
意功德以是清淨意根乃至聞一偈一句通
達無量無邊之義解是義已能演說一句一
偈至於一月四月乃至一歲諸所說法隨其
義趣皆與實相不相違背若說俗間經書治

中。現其色像。尒時世尊。欲重宣此義。而說偈言

若持法華經　其身甚淸淨　如彼淨瑠璃　衆生皆喜見
又如淨明鏡　悉見諸色像　菩薩於淨身　皆見世所有
唯獨自明了　餘人所不見　三千世界中　一切諸群萌
天人阿脩羅　地獄鬼畜生　如是諸色像　皆於身中現
諸天等宮殿　乃至於有頂　鐵圍及彌樓　摩訶彌樓山
諸大海水等　皆於身中現　諸佛及聲聞　佛子菩薩等

復次常精進若善男子善女人受持是經若
讀若誦若解說若書寫得八百身功德得清
淨身如淨瑠璃衆生喜見其身淨故三千大
千世界衆生生時死時上下好醜生善處惡
處悉於中現及鐵圍山大鐵圍山彌樓山摩
訶彌樓山等諸山王及其中衆生悉於中現
下至阿鼻地獄上至有頂所有及衆生悉於
中現若聲聞辟支佛菩薩諸佛說法皆於身

以深淨妙聲 於大衆說法 以諸因緣喻 引導衆生
聞者皆歡喜 設諸上供養 諸天龍夜叉 及阿脩羅等
皆以恭敬心 而共來聽法 是說法之人 若欲以妙音
徧滿三千界 隨意即能至 大小轉輪王 及子子眷屬
合掌恭敬心 常來聽受法 諸天龍夜叉 羅刹毗舍闍
亦以歡喜心 常樂來供養 梵天王魔王 自在大自在
如是諸天衆 常來至其所 諸佛及弟子 聞其說法音
常念而守護 或時爲現身

婆夷國王王子群臣眷屬小轉輪王大轉輪王七寶千子內外眷屬乘其宮殿俱來聽法以是菩薩善說法故婆羅門居士國內人民盡其形壽隨侍供養又諸聲聞辟支佛菩薩諸佛常樂見之是人所在方面諸佛皆向其處說法悉能受持一切佛法又能出於深妙法音尒時世尊欲重宣此義而說偈言

是人舌根淨終不受惡味其有所食噉悉皆成甘露

皆變成上味如天甘露無不美者若以舌根於大衆中有所演說出深妙聲能入其心皆令歡喜快樂又諸天子天女釋梵諸天聞是深妙音聲有所演說言論次第皆悉來聽及諸龍龍女夜叉夜叉女乾闥婆乾闥婆女阿脩羅阿脩羅女迦樓羅迦樓羅女緊那羅緊那羅女摩睺羅伽摩睺羅伽女爲聽法故皆來親近恭敬供養及比丘比丘尼優婆塞優

或在林樹下專精而坐禪持經者聞香悉知其所在
菩薩志堅固坐禪若讀經或為人說法聞香悉能知
在在方世尊一切所恭敬愍衆而說法聞香悉能知
衆生在佛前聞經皆歡喜如法而修行聞香悉能知
雖未得菩薩無漏法生鼻而是持經者先得此鼻相
復次常精進若善男子善女人受持是經若
讀若誦若解說若書寫得千二百舌功德若
好若醜若美若不美及諸苦澀物在其舌根

天上諸華等　曼陀曼殊沙　波利質多樹　聞香悉能知
天上諸宮殿　上中下差別　衆寶華莊嚴　聞香悉能知
天園林勝殿　諸觀妙法堂　在中而娛樂　聞香悉能知
諸天若聽法　或受五欲時　來往行坐臥　聞香悉能知
天女所著衣　好華香莊嚴　周旋遊戲時　聞香悉能知
如是展轉上　乃至於梵天　入禪出禪者　聞香悉能知
光音徧淨天　乃至于有頂　初生及退沒　聞香悉能知
諸比丘衆等　於法常精進　若坐若經行　及讀誦經法

鐵圍山大海 地中諸衆生 持經者聞香悉知其所在
阿脩羅男女 及其諸眷屬 鬪諍遊戲時 聞香皆能知
曠野嶮隘處 師子象虎狼 野牛水牛等 聞香知所在
若有懷妊者 未辯其男女 無根及非人 聞香悉能知
以聞香力故 知其初懷妊 成就不成就 安樂産福子
以聞香力故 知男女所念 染欲癡恚心 亦知修善者
地中衆伏藏 金銀諸珍寶 銅器之所盛 聞香悉能知
種種諸瓔珞 無能識其價 聞香知貴賤 出處及所在

須曼那闍提 多摩羅旃檀 沈水及桂香 種種華果香
及知衆生香 男子女人香 說法者遠住 聞香知所在
大勢轉輪王 小轉輪及子 群臣諸宮人 聞香知所在
身所著珍寶 及地中寶藏 轉輪王寶女 聞香知所在
諸人嚴身具 衣服及瓔珞 種種所塗香 聞則知其身
諸天若行坐 遊戲及神變 持是法華者 聞香悉能知
諸樹華果實 及蘇油香氣 持經者住此 悉知其所在
諸山深嶮處 旃檀樹華敷 衆生在中者 聞香皆能知

上爲忉利諸天說法時香若於諸園遊戲時
香及餘天等男女身香皆悉遙聞如是展轉
乃至梵天上至有頂諸天身香亦皆聞之并
聞諸天所燒之香及聲聞香辟支佛香菩薩
香諸佛身香亦皆遙聞知其所在雖聞此香
然於鼻根不壞不錯若欲分別爲他人說憶
念不謬尒時世尊欲重宣此義而說偈言
是人鼻淸淨　於此世界中　若香若臭物　種種悉聞知

女香童子香童女香及草木叢林香若近若
遠所有諸香悉皆得聞分別不錯持是經者
雖住於此亦聞天上諸天之香波利質多羅
拘鞞陀羅樹香及曼陀羅華香摩訶曼陀羅
華香曼殊沙華香摩訶曼殊沙華香旃檀沈
水種種抹香諸雜華香如是等天香和合所
出之香無不聞知又聞諸天身香釋提桓因
在勝殿上五欲娛樂嬉戲時香若在妙法堂

讀若誦若解說若書寫成就八百鼻功德以
是清淨鼻根聞於三千大千世界上下內外
種種諸香須曼那華香闍提華香末利華香
瞻蔔華香波羅羅華香赤蓮華香青蓮華香
白蓮華香華樹香果樹香旃檀香沈水香多
摩羅跋香多伽羅香及千萬種和香若抹若
丸若塗香持是經者於此間住悉能分別又
復別知衆生之香象香馬香牛羊等香男香

若讀誦經典 若爲他人說 法師住於此 悉皆得聞之
復有諸菩薩 讀誦於經法 若爲他人說 撰集解其義
如是諸音聲 悉皆得聞之 諸佛大聖尊 教化衆生者
於諸大會中 演說微妙法 持此法華者 悉皆得聞之
三千大千界 內外諸音聲 下至阿鼻獄 上至有頂天
皆聞其音聲 而不壞耳根 其耳聰利故 悉能分別知
持是法華者 雖未得天耳 但用所生耳 功德已如是
復次常精進 若善男子善女人 受持是經若

又聞諸天聲　微妙之歌音　及聞男女聲　童子童女聲
山川險谷中　迦陵頻伽聲　命命等諸鳥　悉聞其音聲
地獄衆苦痛　種種楚毒聲　餓鬼飢渴逼　求索飲食聲
諸阿脩羅等　居在大海邊　自共言語時　出于大音聲
如是說法者　安住於此間　遥聞是衆聲　而不壞耳根
十方世界中　禽獸鳴相呼　其說法之人　於此悉聞之
其諸梵天上　光音及徧淨　乃至有頂天　言語之音聲
法師住於此　悉皆得聞之　一切比丘衆　及諸比丘尼

丘尼聲。聲聞聲。辟支佛聲。菩薩聲。佛聲。以要言之。三千大千世界中一切內外所有諸聲。雖未得天耳。以父母所生清淨常耳。皆悉聞知。如是分別種種音聲而不壞耳根。尒時世尊。欲重宣此義而說偈言

父母所生耳　清淨無濁穢　以此常耳聞　三千世界聲

象馬車牛聲　鐘鈴螺鼓聲　琴瑟箜篌聲　簫笛之音聲

清淨好歌聲　聽之而不著　無數種人聲　聞悉能解了

是清淨耳聞三千大千世界下至阿鼻地獄上至有頂其中內外種種所有語言音聲象聲馬聲牛聲車聲啼哭聲愁歎聲螺聲鼓聲鐘聲鈴聲笑聲語聲男聲女聲童子聲童女聲法聲非法聲苦聲樂聲凡夫聲聖人聲喜聲不喜聲天聲龍聲夜叉聲乾闥婆聲阿脩羅聲迦樓羅聲緊那羅聲摩睺羅伽聲火聲水聲風聲地獄聲畜生聲餓鬼聲比丘聲比

義而說偈言

若於大衆中 以無所畏心 說是法華經 汝聽其功德

是人得八百 功德殊勝眼 以是莊嚴故 其目甚淸淨

父母所生眼 悉見三千界 內外彌樓山 須彌及鐵圍

幷諸餘山林 大海江河水 下至阿鼻獄 上至有頂天

其中諸衆生 一切皆悉見 雖未得天眼 肉眼力如是

復次常精進 若善男子善女人 受持此經若讀若誦若解說若書寫 得千二百耳功德以

女人受持是法華經若讀若誦若解說若書寫是人當得八百眼功德千二百耳功德八百鼻功德千二百舌功德八百身功德千二百意功德以是功德莊嚴六根皆令清淨是善男子善女人父母所生清淨肉眼見於三千大千世界內外所有山林河海下至阿鼻地獄上至有頂亦見其中一切衆生及業因緣果報生處悉見悉知尒時世尊欲重宣此

舌不乾黑短鼻高脩且直額廣而平正面目悉端嚴爲人所喜見口氣無臭穢優鉢華之香常從其口出若故詣僧坊欲聽法華經須臾聞歡喜今當說其福後生天人中得妙象馬車珍寶之輦輿及乘天宮殿若於講法處勸人坐聽經是福因緣得釋梵轉輪座何況一心聽解說其義趣如說而修行其福不可限

妙法蓮華經法師功德品第十九

尒時佛告常精進菩薩摩訶薩若善男子善

我今應當教令得於道果即爲方便說涅槃真實法
世皆不牢固如水沫泡焰汝等咸應當疾生厭離心
諸人聞是法皆得阿羅漢具足六神通三明八解脫
最後第五十聞一偈隨喜是人福勝彼不可爲譬喻
如是展轉聞其福尚無量何況於法會初聞隨喜者
若有勸一人將引聽法華言此經深妙千萬劫難遇
即受教往聽乃至須臾聞斯人之福報今當分別說
世世無口患齒不疎黃黑脣不厚寒缺無有可惡相

受教誨阿逸多汝且觀是勸於一人令往聽
法功德如此何況一心聽說讀誦而於大衆
爲人分別如說修行尒時世尊欲重宣此義
而說偈言
若人於法會得聞是經典乃至於一偈隨喜爲他說
如是展轉教至於第五十最後人獲福今當分別之
如有大施主供給無量衆具滿八十歲隨意之所欲
見彼衰老相髮白而面皺齒踈形枯竭念其死不久

慧百千萬世。終不瘖瘂。口氣不臭。舌常無病。口亦無病。齒不垢黑。不黄不疎。亦不缺落。不差不曲。脣不下垂。亦不褰縮。不麁澀。不瘡胗。亦不缺壞。亦不喎邪。不厚不大。亦不黧黑。無諸可悪。鼻不匾匾。亦不曲戾。面色不黑。亦不狹長。亦不窊曲。無有一切不可喜相。脣舌牙齒悉皆嚴好。鼻脩高直。面貌圓滿。眉高而長。額廣平正。人相具足。世世所生。見佛聞法。信

經故往詣僧坊若坐若立須臾聽受緣是功
德轉身所生得好上妙象馬車乘珍寶輦輿
及乘天宮若復有人於講法處坐更有人來
勸令坐聽若分座令坐是人功德轉身得帝
釋坐處若梵天王坐處若轉輪聖王所坐之
處阿逸多若復有人語餘人言有經名法華
可共往聽即受其教乃至須臾聞聞是人功
德轉身得與陀羅尼菩薩共生一處利根智

汝是人以一切樂具施於四百萬億阿僧祇世界六趣衆生又令得阿羅漢果所得功德不如是第五十人聞法華經一偈隨喜功德百分千分百千萬億分不及其一乃至筭數譬喻所不能知阿逸多如是第五十人展轉聞法華經隨喜功德尚無量無邊阿僧祇何況最初於會中聞而隨喜者其福復勝無量無邊阿僧祇不可得比又阿逸多若人爲是

過八十髮白面皺將死不久我當以佛法而
訓導之即集此衆生宣布法化示教利喜一
時皆得須陀洹道斯陀含道阿那含道阿羅
漢道盡諸有漏於深禪定皆得自在具八解
脫於汝意云何是大施主所得功德寧爲多
不彌勒白佛言世尊是人功德甚多無量無
邊若是施主但施衆生一切樂具功德無量
何況令得阿羅漢果佛告彌勒我今分明語

生衆生卵生胎生濕生化生若有形無形有想無想非有想非無想無足二足四足多足如是等在衆生數者有人求福隨其所欲娛樂之具皆給與之一一衆生與滿閻浮提金銀瑠璃硨磲碼碯珊瑚琥珀諸妙珍寶及象馬車乘七寶所成宮殿樓閣等是大施主如是布施滿八十年已而作是念我已施衆生娛樂之具隨意所欲然此衆生皆已衰老年

後若比丘比丘尼優婆塞優婆夷及餘智者。若長若幼聞是經隨喜已從法會出至於餘處若在僧坊若空閑地若城邑巷陌聚落田里如其所聞爲父母宗親善友知識隨力演說是諸人等聞已隨喜復行轉教餘人聞已亦隨喜轉教如是展轉至第五十阿逸多其第五十善男子善女人隨喜功德我今說之汝當善聽若四百萬億阿僧祇世界六趣四

莊嚴令妙好種種以供養佛子住此地則是佛受用
常在於其中經行若坐臥

妙法蓮華經隨喜功德品第十八

尒時弥勒菩薩摩訶薩白佛言世尊若有善
男子善女人聞是法華經隨喜者得幾所福
而說偈言
世尊滅度後其有聞是經若能隨喜者爲得幾所福
尒時佛告弥勒菩薩摩訶薩阿逸多如來滅

阿提目多伽熏油常燃之如是供養者得無量功德
如虛空無邊其福亦如是況復持此經兼布施持戒
忍辱樂禪定不瞋不惡口恭敬於塔廟讚下諸比丘
遠離自高心常思惟智慧有問難不瞋隨順為解說
若能行是行功德不可量若見此法師成就如是德
應以天華散天衣覆其身頭面禮足禮生心如佛想
又應作是念不久詣道場得無漏無為廣利諸天人
其所住止處經行若坐臥乃至說一偈是中應起塔

爰剎甚高廣漸小至梵天寶鈴千萬億風動出妙音
又於無量劫而供養此塔華香瓔珞天衣衆伎樂
燃香油蘇燈周帀常照明惡世末法時能持是經者
則爲已如上具足諸供養若能持此經則如佛現在
以牛頭旃檀起僧坊供養堂有三十二高八多羅樹
上饌妙衣服床臥皆具足百千衆住處園林諸浴池
經行及禪窟種種皆嚴好若有信解心受持讀誦書
若復教人書及供養經卷散華香供養以須臾聽聞

我滅後諸善男子善女人受持讀誦是經典者復有如是諸善功德當知是人已趣道場近阿耨多羅三藐三菩提坐道樹下阿逸多是善男子善女人若坐若立若經行處此中便應起塔一切天人皆應供養如佛之塔尒時世尊欲重宣此義而說偈言

若我滅度後能奉持此經斯人福無量如上之所說是則爲具足一切諸供養以舍利起塔七寶而莊嚴

邊是人功德亦復如是無量無邊疾至一切
種智若人讀誦受持是經爲他人說若自書
若教人書復能起塔及造僧坊供養讚歎聲
聞衆僧亦以百千萬億讚歎之法讚歎菩薩
功德又爲他人種種因緣隨義解說此法華
經復能清淨持戒與柔和者而共同止忍辱
無瞋志念堅固常貴坐禪得諸深定精進勇
猛攝諸善法利根智慧善荅問難阿逸多若

經行禪窟。衣服飲食。床褥湯藥。一切樂具。充滿其中。如是僧坊。堂閣若干。百千萬億其數無量。以此現前供養於我。及比丘僧。是故我說如來滅後。若有受持讀誦。為他人說。若自書若教人書。供養經卷。不須復起塔寺。及造僧坊。供養衆僧。況復有人能持是經。兼行布施。持戒忍辱。精進一心。智慧其德最勝無量無邊。譬如虛空。東西南北。四維上下。無量無

供養衆僧則爲以佛舍利起七寶塔高廣漸
小至于梵天懸諸幡蓋及衆寶鈴華香瓔珞
抹香塗香燒香衆鼓伎樂簫笛箜篌種種舞
戲以妙音聲歌唄讚頌則爲已於無量千萬
億劫作是供養已阿逸多若我滅後聞是經
典有能受持若自書若教人書則爲起立僧
坊以赤旃檀作諸殿堂三十有二高八多羅
樹高廣嚴好百千比立於其中止園林浴池

界八道寶樹行列諸臺樓觀皆悉寶成其菩
薩衆咸[illegible]中若有能如是觀者當知是爲
深信解相又復如來滅後若聞是經而不毀
呰起隨喜心當知已爲深信解相何況讀誦
受持之者斯人則爲頂戴如來阿逸多是善
男子善女人不須爲我復起塔寺及作僧坊
以四事供養衆僧所以者何是善男子善女
人受持讀誦是經典者爲已起塔造立僧坊

人所得功德無有限量能起如來無上之慧
何況廣聞是經若教人聞若自持若教人持
若自書若教人書若以華香瓔珞幢幡繒蓋
香油蘇燈供養經卷是人功德無量無邊能
生一切種智阿逸多若善男子善女人聞我
說壽命長遠深心信解則為見佛常在耆闍
崛山共大菩薩諸聲聞衆圍繞說法又現此
娑婆世界其地瑠璃坦然平正閻浮檀金以

若人悉無有一切諸疑悔深心須臾信其福爲如此
其有諸菩薩無量劫行道聞我說壽命是則能信受
如是諸人等頂受此經典願我於未來長壽度衆生
如今日世尊諸釋中之王道場師子吼說法無所畏
我等未來世一切所尊敬坐於道場時說壽亦如是
若有深心者清淨而質直多聞能總持隨義解佛語
如是諸人等於此無有疑
又阿逸多若有聞佛壽命長遠解其言趣是人所得功德無量無邊如虛空

若復行忍辱住於調柔地設衆惡來加其心不傾動
諸有得法者懷於增上慢爲此所輕惱如是亦能忍
若復勤精進志念常堅固於無量億劫一心不懈怠
又於無數劫住於空閑處若坐若經行除睡常攝心
以是因緣故能生諸禪定八十億萬劫安住心不亂
持此一心福願求無上道我得一切智盡諸禪定際
是人於百千萬億劫數中行此諸功德如上之所說
有善男女等聞我說壽命乃至一念信其福過於彼

若善男子。有如是功德。於阿耨多羅三藐三菩提退者。無有是處。尒時世尊。欲重宣此義。而說偈言。

若人求佛慧　於八十萬億
那由他劫數　行五波羅蜜
於是諸劫中　布施供養佛
及緣覺弟子　并諸菩薩衆
珍異之飲食　上服與卧具
旃檀立精舍　以園林莊嚴
如是等布施　種種皆微妙
盡此諸劫數　以迴向佛道
若復持禁戒　清淨無缺漏
求於無上道　諸佛之所歎
[illegible]
[illegible]

尒時佛告弥勒菩薩摩訶薩阿逸多其有衆生聞佛壽命長遠如是乃至能生一念信解所得功德無有限量若有善男子善女人爲阿耨多羅三藐三菩提故於八十萬億那由他劫行五波羅蜜檀波羅蜜尸羅波羅蜜羼提波羅蜜毗梨耶波羅蜜禪波羅蜜除般若波羅蜜以是功德比前功德百分千分百千萬億分不及其一乃至筭數譬喩所不能知

兩天曼陀羅　摩訶曼陀羅　釋梵如恒沙　無數佛土來
雨旃檀沈水　繽紛而亂墜　如鳥飛空下　供散於諸佛
天鼓虛空中　自然出妙聲　天衣千萬億　旋轉而來下
衆寶妙香爐　燒無價之香　自然悉周徧　供養諸世尊
其大菩薩衆　執寶幡蓋　高妙萬億種　次第至梵天
一一諸佛前　寶幢懸勝幡　亦以千萬偈　歌詠諸如來
如是種種事　昔所未曾有　聞佛壽無量　一切皆歡喜
佛名聞十方　廣饒益衆生　一切具善根　以助無上心

或有大千界微塵數菩薩各各皆能轉不退之法輪
復有中千界微塵數菩薩各各皆能轉清淨之法輪
復有小千界微塵數菩薩餘各八生在當得成佛道
或有四三二如此四天下微塵數菩薩隨數生成佛
或一四天下微塵數菩薩餘有一生在當得一切智
如是等衆生聞佛壽長遠得無量無漏清淨之果報
復有八世界微塵數菩薩聞佛說壽命皆發無上心
世尊說無量不可思議法多有所饒益如虛空無邊

徧於九方。衆寶香爐燒無價香。自然周至供
養大會。一一佛上。有諸菩薩。執持幡蓋次第
而上。至于梵天。是諸菩薩。以妙音聲。歌無量
頌。讚歎諸佛。尒時彌勒菩薩。從座而起。偏袒
右肩。合掌向佛。而說偈言。

佛說希有法。昔所未曾聞。世尊有大力。壽命不可量。
無數諸佛子。聞世尊分別。說得法利者。歡喜充徧身。
或住不退地。或得陀羅尼。或無礙樂說。萬億旋揔持。

耨多羅三藐三菩提心。佛說是諸菩薩摩訶
薩得大法利。時於虛空中。雨曼陀羅華摩訶
曼陀羅華。以散無量百千萬億寶樹下師子
座上諸佛。并散七寶塔中師子座上。釋迦牟
尼佛。及久滅度多寶如來。亦散一切諸大菩
薩。及四部衆。又雨細末旃檀沈水香等。於虛
空中。天鼓自鳴。妙聲深遠。又雨千種天衣。垂
諸瓔珞。眞珠瓔珞。摩尼珠瓔珞。如意珠瓔珞。

訶薩。八生當得阿耨多羅三藐三菩提復有千
四四天下。微塵數菩薩摩訶薩。四生當得阿
耨多羅三藐三菩提復有千三四天下。微塵數
菩薩摩訶薩。三生當得阿耨多羅三藐三菩
提復有千二四天下。微塵數菩薩摩訶薩二生
當得阿耨多羅三藐三菩提復有千一四天下。
微塵數菩薩摩訶薩。一生當得阿耨多羅三
藐三菩提復有千八世界微塵數衆生。皆發阿

遠時六百八十萬億那由他恒河沙衆生得
無生法忍復有千倍菩薩摩訶薩得聞持陀
羅尼門復有一世界微塵數菩薩摩訶薩得
樂說無礙辯才復有一世界微塵數菩薩摩
訶薩得百千萬億無量旋陀羅尼復有三千
大千世界微塵數菩薩摩訶薩能轉不退法
輪復有二千中國土微塵數菩薩摩訶薩能
轉清淨法輪復有小千國土微塵數菩薩摩
訶薩八生當得阿耨多羅三藐三菩提復有

爲凡夫顚倒實在而言滅必常見我故而生懈怠心放逸著五欲墮於惡道中我常知衆生行道不行道隨應所可度爲說種種法每自作是念以何令衆生得入無上道速成就佛身

妙法蓮華經分別功德品第十七

尒時大會聞佛說壽命劫數長遠如是無量無邊阿僧祇衆生得大饒益於時世尊告弥勒菩薩摩訶薩阿逸多我說是如來壽命長遠時六百八十萬億那由他恒河沙衆

雨曼陀羅華散佛及大衆我淨土不毀而衆見燒盡
憂怖諸苦惱如是悉充滿是諸罪衆生以惡業因緣
過阿僧祇劫不聞三寶名諸有修功德柔和質直者
則皆見我身在此而說法或時爲此衆說佛壽無量
久乃見佛者爲說佛難値我智力如是慧光照無量
壽命無數劫久修業所得汝等有智者勿於此生疑
當斷令永盡佛語實不虛如醫善方便爲治狂子故
實在而言死無能說虛妄我亦爲世父救諸苦患者
[illegible]

時我及衆僧俱出靈鷲山我時語衆生常在此不滅
以方便力故現有滅不滅餘國有衆生恭敬信樂者
我復於彼中爲說無上法汝等不聞此但謂我滅度
我見諸衆生沒在於苦海故不爲現身令其生渴仰
因其心戀慕乃出爲說法神通力如是於阿僧祇劫
常在靈鷲山及餘諸住處衆生見劫盡大火所燒時
我此土安穩天人常充滿園林諸堂閣種種寶莊嚴
寶樹多華果衆生所遊樂諸天擊天鼓常作衆伎樂

力言當滅度亦無有能如法說我虛妄過者

尒時世尊欲重宣此義而說偈言

自我得佛來所經諸劫數無量百千萬億載阿僧祇

常說法教化無數億衆生令入於佛道尒來無量劫

爲度衆生故方便現涅槃而實不滅度常住此說法

我常住於此以諸神通力令顚倒衆生雖近而不見

衆見我滅度廣供養舍利咸皆懷戀慕而生渴仰心

衆生既信伏質直意柔輭一心欲見佛不自惜身命

時我及衆僧俱出靈鷲山我於娑婆土高座不滅

聞父背喪心大憂惱而作是念若父在者慈
愍我等能見救護今者捨我遠喪他國自惟
孤露無復恃怙常懷悲感心遂醒悟乃知此
藥色香味美即取服之毒病皆愈其父聞子
悉已得差尋便來歸咸使見之諸善男子於
意云何頗有人能說此良醫虛妄罪不不也
世尊佛言我亦如是成佛已來無量無邊百
千萬億那由他阿僧祇劫爲衆生故以方便

力言當滅度亦無有能如法究竟宣妙道者

父來雖亦歡喜問訊求索治病然與其藥而不肯服所以者何毒氣深入失本心故於此好色香藥而謂不美父作是念此子可愍爲毒所中心皆顛倒雖見我喜求索救療如是好藥而不肯服我今當設方便令服此藥即作是言汝等當知我今衰老死時已至是好良藥今留在此汝可取服勿憂不差作是教已復至他國遣使還告汝父已死是時諸子聞父時喪心大悲惱而作是念若父在

歸家諸子飲毒或失本心或不失者遥見其父皆大歡喜拜跪問訊善安穩歸我等愚癡誤服毒藥願見救療更賜壽命父見子等苦惱如是依諸經方求好藥草色香美味皆悉具足擣篩和合與子令服而作是言此大良藥色香美味皆悉具足汝等可服速除苦惱無復衆患其諸子中不失心者見此良藥色香俱好即便服之病盡除愈餘失心者見其

此事故我作是言諸比丘如來難可得見斯
衆生等聞如是語必當生於難遭之想心懷
戀慕渴仰於佛便種善根是故如來雖不實
滅而言滅度又善男子諸佛如來法皆如是
爲度衆生皆實不虛譬如良醫智慧聰達明
練方藥善治衆病其人多諸子息若十二十
乃至百數以有事緣遠至餘國諸子於後飲
他毒藥藥發悶亂宛轉于地是時其父還來

盡復倍上數然今非實滅度而便唱言當取
滅度如來以是方便教化衆生所以者何若
佛久住於世薄德之人不種善根貧窮下賤
貪著五欲入於憶想妄見網中若見如來常
在不滅便起憍恣而懷厭怠不能生於難遭
之想恭敬之心是故如來以方便說比丘當
知諸佛出世難可值遇所以者何諸薄德人
過無量百千萬億劫或有見佛或不見者以

三界之相。無有生死若退若出亦無在世及
滅度者。非實非虛。非如非異。不如二界見於
三界。如斯之事。如來明見無有錯謬。以諸衆
生。有種種性。種種欲。種種行。種種憶想分別
故。欲令生諸善根。以若干因緣譬喻言辭。種
種說法。所作佛事未嘗暫廢。如是我成佛已
來甚大久遠。壽命無量。阿僧祇劫常住不滅
諸善男子。我本行菩薩道所成壽命今猶未

方便說微妙法能令衆生發歡喜心諸善男子如來見諸衆生樂於小法德薄垢重者為是人說我少出家得阿耨多羅三藐三菩提然我實成佛已來久遠若斯但以方便教化衆生令入佛道作如是說諸善男子如來所演經典皆為度脫衆生或說己身或說他身或示己身或示他身或示己事或示他事諸所言說皆實不虛所以者何如來如實知見

成佛已來復過於此百千萬億那由他阿僧
祇劫自從是來我常在此娑婆世界說法教
化亦於餘處百千萬億那由他阿僧祇國導
利衆生諸善男子於是中間我說燃燈佛等
又復言其入於涅槃如是皆以方便分別諸
善男子若有衆生來至我所我以佛眼觀其
信等諸根利鈍隨所應度處處自說名字不
同年紀大小亦復現言當入涅槃又以種種

子。於意云何是諸世界可得思惟校計知其數不。弥勒菩薩等俱白佛言。世尊是諸世界無量無邊非筭數所知。亦非心力所及。一切聲聞辟支佛。以無漏智不能思惟知其限數。我等住阿惟越致地。於是事中亦所不達。世尊如是諸世界無量無邊。尒時佛告大菩薩衆諸善男子。今當分明宣語汝等。是諸世界若著微塵及不著者盡以為塵一塵一劫我

之言汝等諦聽如來祕密神通之力一切世
間天人及阿脩羅皆謂今釋迦牟尼佛出釋
氏宮去伽耶城不遠坐於道場得阿耨多羅
三藐三菩提然善男子我實成佛已來無量
無邊百千萬億那由他劫譬如五百千萬億
那由他阿僧祇三千大千世界假使有人抹
爲微塵過於東方五百千萬億那由他阿僧
祇國乃下一塵如是東行盡是微塵諸善男

尒時佛告諸菩薩及一切大衆諸善男子汝等當信解如來誠諦之語復告大衆汝等當信解如來誠諦之語又復告諸大衆汝等當信解如來誠諦之語是時菩薩大衆彌勒爲首合掌白佛言世尊唯願說之我等當信受佛語如是三白已復言唯願說之我等當信受佛語尒時世尊知諸菩薩三請不止而告之言汝等諦聽如來秘密神通之力一切世

妙法蓮華經如來壽量品第十六　六

六ノ一

是無量菩薩云何於少時教化令發心而住不退地

妙法蓮華經卷第五

近江国 石田郡 八幡宮寄進

五ノ六七

譬如小壯人　年始二十五　示人百歲子　髮白而面皺
是等我所生　子亦說是父　父小而子老　舉世所不信
世尊亦如是　得道來甚近　是諸菩薩等　志固無怯弱
從無量劫來　而行菩薩道　巧於難問答　其心無所畏
忍辱心決定　端正有威德　十方佛所讚　善能分別說
不樂在人衆　常好在禪定　爲求佛道故　於下空中住
我等從佛聞　於此事無疑　願佛爲未來　演說令開解
若有於此經　生疑不信者　即當墮惡道　願今爲解說
世尊自在者　示所令得法　如此衆會中　皆生不退心

因緣唯然世尊願爲解說除我等疑及未來
世諸善男子聞此事已亦不生疑今時彌勒
菩薩欲重宣此義而說偈言
佛昔從釋種出家近伽耶　坐於菩提樹　今來尚未久
此諸佛子等其數不可量　久已行佛道　住神通智力
善學菩薩道不染世間法　如蓮華在水　從地而涌出
皆起恭敬心　住於世尊前　是事難思議　云何而可信
佛得道甚近　所成就甚多　願爲除衆疑　如實分別說

出住無量百千萬億三昧得大神通久修梵
行善能次第集諸善法巧於問荅人中之寶
一切世間甚爲希有今日世尊方云得佛道
時初令發心教化示道令向阿耨多羅三藐
三菩提世尊得佛未久乃能作此大功德事
我等雖復信佛隨宜所說佛所出言未曾虛
妄佛所知者皆悉通達然諸新發意菩薩於
佛滅後若聞是語或不信受而起破法罪業
因緣雖然世尊頂力尋能除滅疑惑之心

大菩薩衆假使有人於千萬億劫數不能盡
不得其邊斯等久遠已來於無量無邊諸佛
所植諸善根成就菩薩道常修梵行世尊如
此之事世所難信譬如有人色美髮黑年二
十五指百歲人言是我子其百歲人亦指年
小言是我父生育我等是事難信佛亦如是
得道已來其實未久而此大衆諸菩薩等已
於無量千萬億劫爲佛道故勤行精進善入

生疑惑怪未曾有而作是念云何世尊於少時間教化如是無量無邊阿僧祇諸大菩薩令住阿耨多羅三藐三菩提即白佛言世尊如來爲太子時出於釋宮去伽耶城不遠坐於道場得成阿耨多羅三藐三菩提從是已來始過四十餘年世尊云何於此少時大作佛事以佛勢力以佛功德教化如是無量大菩薩衆當成阿耨多羅三藐三菩提世尊此

常行頭陀事志樂於靜處捨大衆憒鬧不樂多所說
如是諸子等學習我道法晝夜常精進爲求佛道故
在娑婆世界下方空中住志念力堅固常勤求智慧
說種種妙法其心無所畏我於伽耶城菩提樹下坐
得成最正覺轉無上法輪亦乃教化之令初發道心
今皆住不退悉當得成佛我今說實語汝等一心信
我從久遠來教化是等衆
尒時彌勒菩薩摩訶薩及無數諸菩薩等心
生疑惑未曾聞佛如此事世尊此

空中住於諸經典讀誦通利思惟分別正憶念阿逸多是諸善男子等不樂在衆多有所說常樂靜處勤行精進未曾休息亦不依止人天而住常樂深智無有障礙亦常樂於諸佛之法一心精進求無上慧尒時世尊欲重宣此義而說偈言

阿逸汝當知是諸大菩薩從無數劫來修習佛智慧悉是我所化令發大道心此等是我子依止是世界

我今安慰汝勿得懷疑懼佛無不實語智慧不可量
所得第一法甚深叵分別如是今當說汝等一心聽
尒時世尊說是偈已告彌勒菩薩我今於此
大衆宣告汝等阿逸多是諸大菩薩摩訶薩
無量無數阿僧祇從地涌出汝等昔所未見
者我於是娑婆世界得阿耨多羅三藐三菩
提已教化示道是諸菩薩調伏其心令發道
意此諸菩薩皆於是娑婆世界之下此界虛

今答之汝等自當因是得聞尒時釋迦牟尼
佛告弥勒菩薩善哉善哉阿逸多乃能問佛
如是大事汝等當共一心被精進鎧發堅固
意如來今欲顯發宣示諸佛智慧諸佛自在
神通之力諸佛師子奮迅之力諸佛威猛大
勢之力尒時世尊欲重宣此義而説偈言
當精進一心我欲説此事勿得有疑悔佛智亙思議
汝今出信力住於忍善中昔所未聞法今皆當得聞

尒時釋迦牟尼佛分身諸佛從無量千萬億
他方國土來者在於八方諸寶樹下師子座
上結跏趺坐其佛侍者各各見是菩薩大衆
於三千大千世界四方從地涌出住於虛空
各白其佛言世尊此諸無量無邊阿僧祇菩
薩大衆從何所來尒時諸佛各告侍者諸善
男子且待須臾有菩薩摩訶薩名曰彌勒釋
迦牟尼佛之所授記次後作佛已問斯事佛

是諸大威德精進菩薩衆誰爲其說法教化而成就
從誰初發心稱揚何佛法受持行誰經修習何佛道
如是諸菩薩神通大智力四方地震裂皆從中涌出
世尊我昔來未曾見是事願說其所從國土之名号
我常遊諸國未曾見是事我於此衆中乃不識一人
忽然從地出願說其因緣今此之大會無量百千億
是諸菩薩等皆欲知此事是諸菩薩衆本末之因緣
無量德世尊唯願決衆疑

或有大菩薩將六萬恒沙如是諸大衆一心求佛道
是諸大師等六萬恒河沙俱來侍養佛及護持長經
將五萬恒沙其數過於是四萬及三萬二萬至一萬
一千一百等乃至一恒沙半及三四分億萬分之一
千萬那由他萬億諸弟子乃至於半億其數復過上
百萬至一萬一千及一百五十與一十乃至三二一
單已無眷屬樂於獨處者俱來至佛所其數轉過上
如是諸大衆若人行籌數過於恒沙劫猶不能盡知

薩摩訶薩衆從地涌出。住世尊前。合掌供養。
問訊如來。時弥勒菩薩摩訶薩。知八千恒河
沙諸菩薩等心之所念。并欲自決所疑。合掌
向佛。以偈問曰。
無量千萬億大衆諸菩薩。昔所未曾見。願兩足尊說
是從何所來。以何因緣集。巨身大神通。智慧叵思議。
其志念堅固。有大忍辱力。衆生所樂見。爲從何所來。
一一諸菩薩。所將諸眷屬。其數無有量。如恒河沙等。
或有大菩薩。將六萬恒沙。如是諸大衆。一心之弗直

是之人我今亦令得聞是經入於佛慧。尒時
諸大菩薩而說偈言
善哉善哉　大雄世尊　諸衆生等　易可化度
能問諸佛　甚深智慧　聞已信解　我等隨喜
於時世尊。讚歎上首諸大菩薩。善哉善哉。善
男子。汝等能於如來發隨喜心
尒時弥勒菩薩及八千恒河沙諸菩薩衆。皆
作是念。我等從昔已來不見不聞。如是大菩
薩摩訶薩衆。從地涌出。世尊前今當供養。

世尊安樂少病少惱教化衆生得無疲倦
又諸衆生受化易不不令世尊生疲勞耶
尒時世尊於諸菩薩大衆中而作是言如是
如是諸善男子如來安樂少病少惱諸衆生
等易可化度無有疲勞所以者何是諸衆生
世世已來常受我化亦於過去諸佛供養尊
重種諸善根此諸衆生始見我身聞我所說
即皆信受入如來慧除先修習學小乘者如

衆亦以佛神力故見諸菩薩徧滿無量百千萬億國土虛空是菩薩衆中有四導師一名上行二名無邊行三名淨行四名安立行是四菩薩於其衆中最爲上首唱導之師在大衆前各共合掌觀釋迦牟尼佛而問訊言世尊少病少惱安樂行不所應度者受教易不令世尊生疲勞耶尒時四大菩薩而說偈言

如來釋迦牟尼佛所到已向二世尊頭面禮
足乃至諸寶樹下師子座上佛所亦皆作禮
右繞三帀合掌恭敬以諸菩薩種種讚法而
以讚歎住在一面欣樂瞻仰於二世尊是諸
菩薩摩訶薩從地涌出以諸菩薩種種讚法
而讚於佛如是時間經五十小劫是時釋迦
牟尼佛默然而坐及諸四衆亦皆默然五十
小劫佛神力故令諸大衆謂如半日令時四

屬況將五萬四萬三萬二萬一萬恒河沙等
眷屬者況復乃至一恒河沙半恒河沙四分
之一乃至千萬億那由他分之一況復千萬
億那由他眷屬況復億萬眷屬況復千萬百
萬乃至一萬況復一千一百乃至一十況復
將五四三二一弟子者況復單己樂遠離行
如是等比無量無邊筭數譬喻所不能知是
諸菩薩從地出已各詣虛空七寶妙塔多寶
如來釋迦牟尼佛所到已同二世尊頂面禮

一菩薩各有六萬恒河沙眷屬是諸人等能於我滅後護持讀誦廣說此經佛說是時娑婆世界三千大千國土地皆震裂而於其中有無量千萬億菩薩摩訶薩同時涌出是諸菩薩身皆金色三十二相無量光明先盡在娑婆世界之下此界虛空中住是諸菩薩聞釋迦牟尼佛所說音聲從下發來一一菩薩皆是大衆唱導之首各將六萬恒河沙等眷

屬況將五萬四萬三萬二萬一萬恒河沙等

妙法蓮華經從地涌出品第十五

尒時他方國土諸來菩薩摩訶薩過八恒河沙數於大衆中起立合掌作禮而白佛言世尊若聽我等於佛滅後在此娑婆世界勤加精進護持讀誦書寫供養是經典者當於此土而廣說之尒時佛告諸菩薩摩訶薩衆止善男子不須汝等護持此經所以者何我娑婆世界自有六萬恒河沙等菩薩摩訶薩一一菩薩各有六萬恒河沙等眷屬者八等能

又見自身　在山林中　修習善法　證諸實相
深入禪定　見十方佛
諸佛身金色　百福相莊嚴　聞法爲人說　常有是好夢
又夢作國王　捨宮殿眷屬　及上妙五欲　行詣於道場
在菩提樹下　而處師子座　求道過七日　得諸佛之智
成無上道已　起而轉法輪　爲四衆說法　逕千萬億劫
說無漏妙法　度無量衆生　後當入涅槃　如烟盡燈滅
若後惡世中　說是第一法　是人得大利　如上諸功德

又見龍神 阿修羅等 數如恒沙 恭敬合掌
自見其身 而爲說法 又見諸佛 身相金色
放無量光 照於一切 以梵音聲 演說諸法
佛爲四衆 說無上法 見身處中 合掌讚佛
聞法歡喜 而爲供養 得陀羅尼 證不退智
佛知其心 深入佛道 即爲授記 成最正覺
汝善男子 當於來世 得無量智 佛之大道
國土嚴淨 廣大無比 亦有四衆 合掌聽法
又見自身 在山林中 修習寂法 證諸實相

今正是時 爲汝等說 我滅度後 求佛道者
欲得安穩 演說斯經 應當親近 如是四法
讀是經者 常無憂惱 又無病痛 顏色鮮白
不生貧窮 卑賤醜陋 衆生樂見 如慕賢聖
天諸童子 以爲給使 刀杖不加 毒不能害
若人惡罵 口則閉塞 遊行無畏 如師子王
智慧光明 如日之照 若於夢中 但見妙事
見諸如來 坐師子座 諸比丘衆 圍繞說法

或與衣服 種種珍寶 奴婢財物 歡喜賜與
如有勇健 能爲難事 王解髻中 明珠賜之
如來亦尒 爲諸法王 忍辱大力 智慧寶藏
以大慈悲 如法化世 見一切人 受諸苦惱
欲求解脫 與諸魔戰 爲是衆生 說種種法
以大方便 說此諸經 既知衆生 得其力已
末後乃爲 說是法華 如王解髻 明珠與之
此經爲尊 衆經中上 我常守護 不妄開示

護不妄宣說始於今日乃與汝等而敷演之
尒時世尊欲重宣此義而說偈言
常行忍辱　哀愍一切　乃能演說　佛所讚經
後末世時　持此經者　於家出家　及非菩薩
應生慈悲　斯等不聞　不信是經　則爲大失
我得佛道　以諸方便　爲說此法　令住其中
譬如強力　轉輪之王　兵戰有功　賞賜諸物
象馬車乘　嚴身之具　及諸田宅　聚落城邑

切衆生見賢聖軍與五陰魔煩惱魔死魔共
戰有大功勲滅三毒出三界破魔網令時如
來亦大歡喜此法華經能令衆生至一切智
一切世間多怨難信先所未說而今說之文
殊師利此法華經是諸如來第一之說於諸
說中最爲甚深末後賜與如彼強力之王久
護明珠今乃與之文殊師利此法華經諸佛
如來秘密之藏於諸經中最在其上長夜守
護不妄宣說始於今日乃與汝等而敷演之

諸魔王不肯順伏如來賢聖諸將與之共戰其有功者心亦歡喜於四衆中爲說諸經令其心悅賜以禪定解脫無漏根力諸法之財又復賜與涅槃之城言得滅度引導其心令皆歡喜而不爲說是法華經文殊師利如轉輪王見諸兵衆有大功者心甚歡喜以此難信之珠久在髻中不妄與人而今與之如來亦復如是於三界中爲大法王以法教化一切衆生見賢聖軍與五陰魔鬼煩惱魔死魔共

而諸小王不順其命。時轉輪王起種種兵而往討罰。王見兵衆戰有功者。即大歡喜隨功賞賜。或與田宅聚落城邑。或與衣服嚴身之具。或與種種珍寶。金銀瑠璃。硨磲碼碯。珊瑚琥珀。象馬車乘。奴婢人民。唯髻中明珠不以與之。所以者何。獨王頂上有此一珠。若以與之。王諸眷屬必大驚怪。文殊師利。如來亦復如是。以禪定智慧力得法國土。王於三界而

人民婆羅門居士等供養恭敬尊重讚歎虛
空諸天爲聽法故亦常隨侍若在聚落城邑
空閑林中有人來欲難問者諸天晝夜常爲
法故而衛護之能令聽者皆得歡喜所以者
何此經是一切過去未來現在諸佛神力所
護故文殊師利是法華經於無量國中乃至
名字不可得聞何況得見受持讀誦文殊師
利譬如強力轉輪聖王欲以威勢降伏諸國
而諸小王不順其令時轉輪王起種種兵而

慈心於非菩薩人中生大悲心應作是念如
是之人則爲大失如來方便隨宜說法不聞
不知不覺不問不信不解其人雖不問不信
不解是經我得阿耨多羅三藐三菩提時隨
在何地以神通力智慧力引之令得住是法
中文殊師利是菩薩摩訶薩於如來滅後有
成就此第四法者說是法時無有過失常爲
比丘比丘尼優婆塞優婆夷國王王子大臣

若欲說是經當捨諸諂誑邪僞心常修質直行
不輕懺於人亦不戲論法不令他疑悔云汝不得佛
是佛子說法常柔和能忍慈悲於一切不生懈怠心
十方大菩薩愍衆故行道應生恭敬心是則我大師
於諸佛世尊生無上父想破於憍慢心說法無障礙
第三法如是智者應守護一心安樂行無量衆所敬
又文殊師利菩薩摩訶薩於後末世法欲滅
時有受持法華經者於在家出家人中生大

生平等說法以順法故不多不少乃至深愛法者亦不爲多說文殊師利是菩薩摩訶薩於後末世法欲滅時有成就是第三安樂行者說是法時無能惱亂得好同學共讀誦是經亦得大衆而來聽受聽已能持持已能誦誦已能說說已能書若使人書供養經卷恭敬尊重讚歎尒時世尊欲重宣此義而說偈言

亦勿輕爲學佛道者求其長短若比丘比丘
尼優婆塞優婆夷求聲聞者求辟支佛者求
菩薩道者無得惱之令其疑悔語其人言汝
等去道甚遠終不能得一切種智所以者何
汝是放逸之人於道懈怠故又亦不應戲論
諸法有所諍競當於一切衆生起大悲想於
諸如來起慈父想於諸菩薩起大師想於十
方諸大菩薩常應深心恭敬禮拜於一切衆

是則大利　安樂供養　我滅度後　若有比丘
能演說斯　妙法華經　心無嫉恚　諸惱障礙
亦無憂愁　及罵詈者　又無怖畏　加刀杖等
亦無擯出　安住忍故　智者如是　善修其心
能住安樂　如我上說　其人功德　千萬億劫
算數譬喻　說不能盡
又文殊師利　菩薩摩訶薩　於後末世　法欲滅
時　受持讀誦斯經典者　無懷嫉妬諂誑之心

諸優婆塞 及優婆夷 國王王子 群臣士民
以微妙義 和顏爲說 若有難問 隨義而答
因緣譬喻 敷演分別 以是方便 皆使發心
漸漸增益 入於佛道 除嬾惰意 及懈怠想
離諸憂惱 慈心說法 晝夜常說 無上道教
以諸因緣 無量譬喻 開示衆生 咸令歡喜
衣服卧具 飲食醫藥 而於其中 無所悕望
但一心念 說法因緣 願成佛道 令衆亦尒

惡長短於聲聞人亦不稱名說其過惡亦不
稱名讚歎其美又亦不生怨嫌之心善修如
是安樂心故諸有聽者不逆其意有所難問
不以小乘法荅但以大乘而爲解說令得一
切種智尒時世尊欲重宣此義而說偈言
菩薩常樂安穩說法於淸淨地面施床座
以油塗身澡浴塵穢著新淨衣內外俱淨
安處法座隨問爲說若有比丘及比丘尼

若有比丘於我滅後入是行處及親近處
說斯經時無有怯弱菩薩有時入於靜室
以正憶念隨義觀法從禪定起爲諸國王
王子臣民婆羅門等開化演暢說斯經典
其心安穩無有怯弱文殊師利是名菩薩
安住初法能於後世說法華經
又文殊師利如來滅後於末法中欲說是經
應住安樂行若口宣說若讀經時不樂說人
及經典過亦不輕慢諸餘法師不說他人好

又復不行上中下法有爲無爲實不實法
亦不分別是男是女不得諸法不知不見
是則名爲菩薩行處一切諸法空無所有
無有常住亦無起滅是名智者所親近處
顚倒分別諸法有無是實非實是生非生
在於閑處修攝其心安住不動如須彌山
觀一切法皆無所有猶如虛空無有堅固
不生不出不動不退常住一相是名近處

菩薩則以無所畏心不懷悕望而爲說法
寡女處女及諸不男皆勿親近以爲親厚
亦莫親近屠兒魁膾畋獵漁捕爲利殺害
販肉自活衒賣女色如是之人皆勿親近
凶險相撲種種嬉戲諸婬女等盡勿親近
莫獨屏處爲女說法若說法時無得戲笑
入里乞食將一比丘若無比丘一心念佛
是則名爲行處近處以此二處能安樂說

尊欲重宣此義而說偈言

若有菩薩於後惡世無怖畏心欲說此經

應入行處及親近處常離國王及國王子

大臣官長 凶險戲者 及旃陀羅 外道梵志

亦不親近 增上慢人 貪著小乘 三藏學者

破戒比丘 名字羅漢 及比丘尼 好戲笑者

深著五欲 求現滅度 諸優婆夷 皆勿親近

若是人等 以好心來 到菩薩所 為聞佛道

菩薩則以無所畏心 柔和忍辱而為說法

厚況復餘事不樂畜年小弟子。沙弥小兒亦
不樂與同師。常好坐禪。在於閑處修攝其心。
文殊師利是名初親近處。復次菩薩摩訶薩。
觀一切法空如實相。不顛倒。不動不退不轉。
如虛空。無所有性。一切語言道斷不生不出。
不起無名無相實無所有。無量無邊無礙無
障但以因緣有從顛倒生故說常樂觀如是
法相是名菩薩摩訶薩第二親近處。尒時世

婆塞優婆夷亦不問訊若於房中若經行處
若在講堂中不共住止或時來者隨宜說法
無所悕求文殊師利又菩薩摩訶薩不應於
女人身取能生欲想而爲說法亦不樂見
若入他家不與小女處女寡女等共語亦復
不近五種不男之人以爲親厚不獨入他家
若有因緣須獨入時但一心念佛若爲女人
說法不露齒笑不現胷臆乃至爲法猶不親

訶薩行處云何名菩薩摩訶薩親近處菩薩
摩訶薩不親近國王王子大臣官長不親近
諸外道梵志尼犍子等及造世俗文筆讚詠
外書及路伽耶陀逆路伽耶陀者亦不親近
諸有內戲相扠相撲及那羅等種種變現之
戲又不親近旃陀羅及畜猪羊雞狗畋獵漁
捕諸惡律儀如是人等或時來者則為說法
無所悕望又不親近求聲聞比丘比丘尼優

願於後惡世。護持讀誦。說是法華經。世尊菩
薩摩訶薩於後惡世。云何能說是經。佛告文
殊師利。若菩薩摩訶薩。於後惡世。欲說是經。
當安住四法。一者安住菩薩行處親近處。能
爲衆生演說是經。文殊師利。云何名菩薩摩
訶薩行處。若菩薩摩訶薩。住忍辱地。柔和善
順。而不卒暴。心亦不驚。又復於法無所行。而
觀諸法如實相。亦不行不分別。是名菩薩摩
訶薩行處。於諸法不行。不分別。是名菩薩摩

不知佛方便隨宜所說法惡口而嗔恚數數見擯出
遠離於塔寺如是等衆惡念佛告勑故皆當忍是事
諸聚落城邑其有求法者我皆到其所說佛所囑法
我是世尊使處衆無所畏我當善說法願佛安穩住
我於世尊前諸來十方佛發如是誓言佛自知我心

妙法蓮華經安樂行品第十四

尒時文殊師利法王子菩薩摩訶薩白佛言
世尊是諸菩薩甚爲難有敬順佛故發大誓

自作此經典誰惑世間人爲求名聞故分別說是經
常在大衆中欲毀我等故向國王大臣婆羅門居士
及餘比丘衆誹謗說我惡謂是邪見人說外道論議
我等敬佛故悉忍是諸惡爲斯所輕言汝等皆是佛
如此輕慢言皆當忍受之濁劫惡世中多有諸恐怖
惡鬼入其身罵詈毀辱我我等敬信佛當著忍辱鎧
爲說是經故忍此諸難事我不愛身命但惜無上道
我等於來世護持佛所囑世尊自當知濁世惡比丘

遥見守護即時諸菩薩俱同發聲而說偈言
唯願不爲慮於佛滅度後恐怖惡世中我等當廣說
有諸無智人惡口罵詈等及加刀杖者我等皆當忍
惡世中比丘邪智諂曲未得謂爲得我慢心充滿
或有阿練若納衣在空閑自謂行眞道輕賤人間者
貪著利養故與白衣說法爲世所恭敬如六通羅漢
是人懷惡心常念世俗事假名阿練若好出我等過
而作如是言此諸比丘等爲貪利養故說外道論議

諸陀羅尼即從座起至於佛前一心合掌而作是念若世尊告勑我等持說此經者當如佛教廣宣斯法復作是念佛今默然不見告勑我當云何時諸菩薩敬順佛意并欲自滿本願便於佛前作師子吼而發誓言世尊我等於如來滅後周旋往返十方世界能令衆生書寫此經受持讀誦解說其義如法修行正憶念皆是佛之威力唯願世尊在於他方

尒時摩訶波闍波提比丘尼及耶輸陀羅比丘尼并其眷屬皆大歡喜得未曾有即於佛前而說偈言

世尊導師安穩天人我等聞記心安具足諸比丘尼說是偈已白佛言世尊我等亦能於他方國土廣宣此經

尒時世尊視八十萬億那由他諸菩薩摩訶薩是諸菩薩皆是阿惟越致轉不退法輪得

弥是一切衆生喜見佛及六千菩薩轉次授
記得阿耨多羅三藐三菩提尒時羅睺羅母
耶輸陀羅比丘尼作是念世尊於授記中獨
不說我名佛告耶輸陀羅汝於來世百千萬
億諸佛法中修菩薩行爲大法師漸具佛道
於善國中當得作佛号具足千萬光相如來
應供正徧知明行足善逝世間解無上士調
御丈夫天人師佛世尊佛壽無量阿僧祇劫

妙法蓮華經授學無人記第九

憍曇彌何故憂色而視如來汝心將無謂我
不說汝名授阿耨多羅三藐三菩提記耶憍
曇彌我先想說一切聲聞皆已授記今汝欲
知記者將來之世當於六萬八千億諸佛法
中爲大法師及六千學無學比丘尼俱爲法
師汝如是漸漸具菩薩道當得作佛号一切
衆生喜見如來應供正徧知明行足善逝世
間解無上士調御丈夫天人師佛世尊憍曇

得受記者白佛言世尊我等亦自懵願於異
國土廣說此經復有學無學八千人得受記
者從座而起合掌向佛作是懵言世尊我等
亦當於他國土廣說此經所以者何是娑婆
國中人多弊惡懷增上慢功德淺薄瞋濁諂
曲心不實故尒時佛姨母摩訶波闍波提比
丘尼與學無學比丘尼六千人俱從座而起
一心合掌瞻仰尊顏目不暫捨於時世尊告

妙法蓮華經勸持品第十三

尒時藥王菩薩摩訶薩及大樂說菩薩摩訶薩與二萬菩薩眷屬俱皆於佛前作是誓言唯願世尊不以爲慮我等於佛滅後當奉持讀誦說此經典後惡世衆生善根轉少多增上慢貪利供養增不善根遠離解脫雖難可教化我等當起大忍力讀誦此經持說書寫種種供養不惜身命尒時衆中五百阿羅漢

正覺三十二相八十種好普爲十方一切衆生演說妙法尒時娑婆世界菩薩聲聞天龍八部人與非人皆遥見彼龍女成佛普爲時會人天說法心大歡喜悉遥敬禮無量衆生聞法解悟得不退轉無量衆生得受道記無垢世界六反震動娑婆世界三千衆生住不退地三千衆生發菩提心而得受記智積菩薩及舍利弗一切衆會默然信受

障。一者不得作梵天王。二者帝釋。三者魔王。四者轉輪聖王。五者佛身。云何女身速得成佛。尒時龍女有一寶珠。價直三千大千世界。持以上佛。佛即受之。龍女謂智積菩薩尊者舍利弗言。我獻寶珠。世尊納受。是事疾不。荅言甚疾。女言以汝神力觀我成佛。復速於此。當時衆會皆見龍女忽然之間變成男子具菩薩行。即往南方無垢世界。坐寶蓮華成等

深達罪福相徧照於十方微妙淨法身具相三十二
以八十種好用莊嚴法身天人所戴仰龍神咸恭敬
一切衆生類無不宗奉者又聞成菩提唯佛當證知
我聞大乘教度脫苦衆生

尒時舍利弗語龍女言汝謂不久得無上道
是事難信所以者何女身垢穢非是法器云
何能得無上菩提佛道懸曠逕無量劫勤苦
積行具修諸度然後乃成又女人身猶有五

足心念口演微妙廣大慈悲仁讓志意和雅
能至菩提智積菩薩言我見釋迦如來於無
量劫難行苦行積功累德求菩薩道未曾止
息觀三千大千世界乃至無有如芥子許非
是菩薩捨身命處爲衆生故然後乃得成菩
提道不信此女於須臾頃便成正覺言論未
訖時龍王女忽現於前頭面禮敬却住一面
以偈讚曰

文殊師利言我於海中唯常宣說妙法華經
智積菩薩問文殊師利言此經甚深微妙諸
經中寶世所希有頗有衆生勤加精進修行
此經速得佛不文殊師利言有娑竭羅龍王
女年始八歲智慧利根善知衆生諸根行業
得陀羅尼諸佛所說甚深秘藏悉能受持深
入禪定了達諸法於刹那頃發菩提心得不
退轉辯才無礙慈念衆生猶如赤子功德具

證所言未竟無數菩薩坐寶蓮華從海涌出
詣靈鷲山住在虛空此諸菩薩皆是文殊師
利之所化度具菩薩行皆共論說六波羅蜜
本聲聞人在虛空中說聲聞行今皆修行大
乘空義文殊師利謂智積曰於海教化其事
如此今時智積菩薩以偈讚曰
大智德勇健化度無量衆今此諸大會及我皆已見
演暢實相義開闡一乘法廣道諸群生令速成菩提

相見論說妙法可還本土尒時文殊師利坐千葉蓮華大如車輪俱來菩薩亦坐寶蓮華從於大海娑竭羅龍宮自然涌出住虛空中詣靈鷲山從蓮華下至於佛前頭面敬禮二世尊足修敬已畢往智積所共相慰問却坐一面智積菩薩問文殊師利仁往龍宮所化衆生其數幾何文殊師利言其數無量不可稱計非口所宣非心所測且待須臾自當有

議衆生發菩提心至不退轉佛告諸比丘未
來世中若有善男子善女人聞妙法華經提
婆達多品淨心信敬不生疑惑者不墮地獄
餓鬼畜生生十方佛前所生之處常聞此經
世世人天中受勝妙樂若在佛前蓮華化生
於時下方多寶世尊所從菩薩名曰智積啓
多寶佛當還本土釋迦牟尼佛告智積曰善
男子且待須臾此有菩薩名文殊師利可與

十中劫廣爲衆生說於妙法恒河沙衆生得
阿羅漢果無量衆生發緣覺心恒河沙衆生
發無上道心得無生忍住不退轉時天王佛
般涅槃後正法住世二十中劫全身舍利起
七寶塔高六十由旬縱廣四十由旬諸天人
民悉以雜華抹香燒香塗香衣服瓔珞幡蓋
寶蓋伎樂歌頌禮拜供養七寶妙塔無量衆
生得阿羅漢果無數衆生悟辟支佛不可思

今提婆達多是由提婆達多善知識故令我
具足六波羅蜜慈悲喜捨三十二相八十種
好紫磨金色十力四無所畏四攝法十八不
共神通道力成等正覺廣度衆生皆因提婆
達多善知識故告諸四衆提婆達多却後過
無量劫當得成佛号曰天王如來應供正徧
知明行足善逝世間解無上士調御丈夫天
人師佛世尊世界名天道時天王佛住世二
十小劫壽萬億歲廣如妙法華所說

告四方誰有大法者若爲我解說身當爲奴僕
時有阿私仙來白於大王我有微妙法世間所希有
若能修行者吾當爲汝說時王聞仙言心生大喜悅
即便隨仙人供給於所須採薪及果蓏隨時恭敬與
情存妙法故身心無懈倦普爲諸衆生勤求於大法
亦不爲己身及以五欲樂故爲大國王勤求於法
遂致得成佛今故爲汝說
佛告諸比丘尒時王者則我身是時仙人者

我說大乘者吾當終身供給走使時有仙人
來白王言我有大乘名妙法蓮華經若不違
我當爲宣說王聞仙言歡喜踊躍即隨仙人
供給所須採果汲水拾薪設食乃至以身而
作床座身心無倦于時奉事經於千歲爲求
法故精勤給侍令無所乏尒時世尊欲重宣
此義而說偈言
我念過去劫爲求大法故雖作世國王不貪五欲樂

尒時佛告諸菩薩及天人四衆吾於過去無量劫中求法華經無有懈倦於多劫中常作國王發願求於無上菩提心不退轉爲欲滿足六波羅蜜勤行布施心無悋惜象馬七珍國城妻子奴婢僕從頭目髓腦身肉手足不惜軀命時世人民壽命無量爲於法故捨國位委政太子擊鼓宣令四方求法誰能爲

BL
1411
S2J38
1934
v.2

倭點法華經

五—八

附法華音義
法華經音訓

顧問
井上通泰先生
山田孝雄先生
新村出先生

正宗敦夫 編纂 校訂

合資會社 日本古典全集刊行會壽梓

BL
1411
S2J38
1934
v.2

Saddharmapundarika
Waten hokekyo

East Asia

BL
1411
S2J38
1934
v.2

'E
POCKET
BRARY

R' CARD